就キ苦情ヲ唱ヘテ參事院ニ對シ鐵道營業ヨリ生スル況狀ヲ變セントト出訴シタル時ニ當リ該邑ハ之ヲ控訴スルニ際シ參議院ニ對シ舊訴訟ヲ損害要償ノ訴訟ニ變質スルヲ得ス千八百六十三年七月三十日サンシール邑件判決

第四　參議院ノ判決ハ隨テ書入質權ト必需執行權トヲ生シ要償ノ勾留スラ猶ホ且ツ之ヲ命スルヲ得ルヿ普通裁判所ノ裁判宣告ニ於ル如シ宜ク民法第二千六十七條第二千百二十三條及ヒ左ニ掲クル千八百六年六月十一日ノ詔書第三十五條ヲ看ル可シ

右ノ第三十五條ニ云ク參議院ノ大書記官ハ認可シタル本院ノ判決書及ヒ意見書ノ副本ヲ權利者ニ交與ス可シ但シ此副本ハ必需執行ス可キ者ナリト尙ホ法律全書第四帙第七千八百九十九項ニ登錄シタルニ由テ法律ノ力ヲ有スル共和曆第十二年暖月十六日及ヒ千八百十一年十月二十九日及ヒ千八百十二年三月二十四日ノ參議院意見書等ヲ參照ス可シ蓋シ此等ノ意見書ハ行政訴訟ニ係ル總判決ニ準施ス可キ通則ヲ定ムルカ故ニ第一ノ意見書即チ共和曆第十二年暖月十六日ノ意見書ノ成文ヲ示スヲ必要トス曰ク法律ニ依テ權限內ノ訴件ニ係リ裁判宣告若クハ要償ノ勾留ヲ命スルノ權ヲ與ヘラレタル行政官ハ其發布文書ニ因テ普通裁判所ノ發布文書ト同一ノ效果ヲ生シ同一ノ執行權ヲ得ヘキ眞ノ裁判官タリ且ツ行政官ノ此發布文書ニ就キ普通裁判所ハ敢テ喙ヲ容ルヽヲ得ス若シ敢テスルキハ佛蘭西帝國々憲ニ依テ擔保シタル行政官ノ獨立權ヲ攪亂ス可シト考察スルニ由リ參議院ノ意見ハ左ノ如シ

第一　行政官ノ權內ニ在ル場合及ヒ事項ニ就キ其發布シタル裁判宣告及ヒ要償勾留ノ命ハ司法上ノ書入質ト同一ノ方法

同一ノ約款ニ從ヒ亦書入質權ヲ生ス

第二　行政官ノ下セル裁判宣告若クハ要償勾留ノ命ニ因テ行フタル書入質登錄ヲ承諾ナクシテ取消シタル時ハ民法第二千百五十七條第二千百五十九條ニ準シテ普通裁判所ニ對シテ訴ヲ起ス可シ但シ權利ノ上ニ就キ爭論ヲ生スレハ兩造ヲ行政裁判所ニ廻致ス可シ

參議院ハ其職掌ノ高卑如何ニ拘ハラス之ヲ普通裁判所ニ比較シテ特別ノ一裁判所即チ異種ノ官衙タルニ過キス且ツ參議院ノ判決執行ハ民事訴訟手續ニ循ヒ民事裁判所ニ於テ之ヲ適施ス此二ツノ理由アルヲ以テ參議院ハ自カラ其判決ヲ執行セシムルノ權ナク其權ハ則チ普通裁判所ニ屬ス然レトモ普通裁判所ハ敢テ參議院ノ判決スル所ノ者ヲ變更スルヲ得ス（共和曆第十二年暖月十六日ノ意見書ノ論據及共和曆第十三年霧月二月二十一日ノ詔書）

凡ソ參議院ノ判決書ニ因リ命シタル處分ニシテ其行政官ノ權限內ニ在ル者ニ對シテハ前項ニ示シタル例則ノ主意ニ循ハス隨テ此例則ヲ適施セス例ヘハ退老金若クハ公債ノ清算及ヒ直稅ノ基礎其他行政官ニ執行ノ權ヲ與ヘタル事項ヲ參議院ニ於テ判決スル時ニ見ル者是ナリ凡ソ此等ノ場合ニ於テ參議院ハ先ツ基礎ヲ謬リタル行政官衙ノ決定ヲ取消シ而シテ後其適守ス可キ基礎ヲ指示シテ訴者ヲ宰相若クハ他ノ當該行政官衙ニ廻致ス

參議院ニ於テ其判決執行ヲ自カラ命スルヲ得サルノ禁ハ之ヲ鑑定若クハ其他ノ檢査ヲ命スル豫審ノ判決ニ適施セサルヿヲ讀者ニ注意スルハ殆ト無益ニ屬セン夫レ參議院ハ確定ノ判決ヲ爲スカ爲メニ此等豫審ノ判決執行ヲ命スルヲ得ルハ固ヨリ論ナキナリ司法裁判所中ノ特別裁判所ニ對スル裁判執行ノ禁モ亦本項ニ述フル所ト同一ノ意義

ニ解ス可シ商務裁判所ニ關シ訴訟法第四百四十二條ニ掲クル禁ノ如キハ即チ其一例ナリ

普通裁判所ハ其裁判宣告ヲ爲スニ當リ必ス法律ヲ遵守ス可シ苟モ刑罰ヲ輕減スルヿヲ得ス然レ𪜈參議院ニ諮詢判決スル者ハ皇帝ナリ而シテ皇帝ハ特赦ヲ行フノ權アルニ由リ國憲第九條隨テ亦犯罪ヲ判決シテ其罰金ヲ輕減スルヲ得千八百三十八年一月二日ルルブール件且ツ之千八百四十年八月六日コーサー件判決ヲ千八百四十二年三月二十三日ノ法律ニ定メタル額ヨリ減少スルヲ得千八百四十四年六月六日ムーリニエー件千八百四十五年三月十四日グレジロ件判決抑、此見解タルヤ千八百四十九年三月三日ノ法律ヲ行フノ際ニ適施シテ當然トスルヲ得ス該法律ハ行政訴訟ニ關シ參議院ヲ以テ判決權ヲ固有スル裁判所トナシタリ而シテ當時特赦ノ權ハ千八百四十八年ノ國憲第五十五條ニ依リ共和政大統領ニ與ヘタルニ由リ特赦ノ權ト裁判ノ權トハ全ク分離シ

參議院ハ復タ罰金ヲ輕減スルノ權ヲ有セス第二帝政時ノ新參議院ハ更ニ舊王政府ノ參議院ノ採取スル所トナリタル判決ニ循ヒタルハ頗ル其理アルナリ千八百五十四年二月十八日ルベル件及ヒブールデー件判決等是故ニ今ノ參議院ハ其權限內ノ事項ニ係リ裁判廳ト特赦ヲ行フ官衙トノ職ニ兼テ任ス但シ此場合ニ於テ特赦ノ權ハ裁判ノ權ニ附屬スル者ナリ此レ其參議院ハ行政裁判所ノ權限外ナル普通犯罪ニ係ル罰金輕減ノ首タル訴訟ヲ受理スルヲ得サル所以ナリ

行政訴訟ニ係ル判決ヲ以テ普通裁判所ノ裁判宣告ニ擬シ得ルヿヲ一層明白ニ證スルニ足ル者アリ即チ民法第十六條及ヒ訴訟法第百六十條ニ依リ原告タル外國人ニ命シタル者ニ等シキ保證ノ制度ヲ參議院ニ出訴スル事項ニ推シ及ホシタル者是ナリ故ニ千八百九年二月七日ノ詔書第一條ニ曰ク千八百六年七月二十二日ノ詔書ニ依リ參議院ニ

出訴ス可キ事項ニ就キ所有權ヲ得タル外國人ノ爲メニ爲シタル裁判ハ其外國人ニ於テ豫メ佛國ニ在テ資力アル至當ノ保證人ヲ定メタルニ非サレハ此出訴ニ係ル猶豫ノ期限間其執行ニ從事スルヿヲ得ヘカラスト（千七百九十三年七月十六日ノ法律）始審裁判ヲ取消シタル場合及ヒ其本案裁判ヲ爲シ得ヘキ手續ニ至リシ時ハ直チニ本案裁判ノ決行ヲ控訴院ニ訴セル訴訟法第四百七十三條ハ參議院ニ判決權ヲ附シタル事項ニ移シテ適施ス可キヤノ問題ニ關シ舊來ノ判決ハ之ヲ適施シ得ルトセリ（千八百三十二年二月十六日マフエ件同年三月九日ドラエ件千八百四十六年十一月十八日ブルー邑選擧ニ係ル件千八百五十四年一月五日ジチワードニー件及ヒマルコニエー件千八百五十五年六月七日ミコ殊ニルザージュ一月三十一日ポンバル件千八百五十五年一件千八百六十二年三月十三日ツールニエー件判決）ゴエッ件ニ係ル千八百六十年七月十九日ノ判決ニ於テ愈〻此例則ノ適施ヲ明瞭ニナシタリ此判決ニ因リ參議院ハ工部宰相ノ職掌ニ屬ス可キ國債ニ係ル參事院ノ判決ヲ越權ナリトナシテ之ヲ取消シタルノ後本案ヲ該宰相ニ廻致裁判セシメスシテ參議院親カラ其裁判ニ從事シタリ

參議院ハ控訴裁判所トシテ下等行政裁判所ノ判決ヲ取消シタルトキハ前段ニ述フル如クニ解シ去リテ曾テ疑團ヲ生スルナシト雖モ其破毀法院トシテ判決ヲ行フ時例ヘハ會計法院ノ判決ヲ審理スル時モ亦同一ノ見解ヲ下シテ可ナルヤ若シ其之ヲ取消シタル場合ニ於テハ參議院直チニ親カラ本案ノ裁判ニ從事スルヲ得ルヤダローズ氏カ參議院ニ關スル法律案ニ就キ下院委員ノ名ヲ以テ千八百四十年六月十日ニ呈出セル報告書中ニ言ヘルアリ曰ク委員ノ多數ハ千八百七年九月十六日ノ法律第十七條及ヒ千八百十九年九月一日ノ王勅ニ依リ此本案裁判ノ權ヲ以テ參議院ノ隨意決行ニ任シタル者ト思量シタリト然レ

ヒ吾輩ハ却テ此法律及ヒ此王勅ヲ以テ明カニ委員ノ説ヲ否斥スト考フルナリ蓋シ千八百七年九月ノ法律ハ程式若クハ法律ニ違犯スルニ因リ破毀ノ訴ヲ起スヲ許シ千八百十九年九月ノ王勅ハ會計法院ニ廻致シタル訴件ヲ本院中其始審裁判ヲ爲サヽル一局ニ於テ覆審ス可キヿヲ命シタルナリ決シテ共ニ參議院ニ許スニ本案裁判ノ權ヲ以テスルニ非サルナリ加之ナラス破毀法院ハ本來訴訟ノ本案ヲ裁判シ得ル者ニ非ス此本案裁判ノ權ハ覆審ノ權ヲ有シ且ツ始審裁判所ト同ク本案ヲ裁判シ得ル控訴裁判所ノミニ屬ス現ニ公ケノ理財ニ關スル千八百六十二年五月三十一日ノ詔書第四百二十四五條ハ吾輩ノ唱フル説ヲ採用シ吾輩ニ後レテ書ヲ著ハセル學士等モ亦吾輩ノ説ニ從ヘリ

參議院ノ判決ハ訴訟法第四百七十二條ヲ採用セス故ニ本院ニ於テ參事院若クハ其他ノ官衙ノ決定書ヲ取消スヿハ更ニ其訴件ヲ原問ノ參事院若クハ其他ノ官衙ニ廻致ス千八百三十八年二月十四日カサー件同年四月二十七日デシアン件千八百五十一年十一月二十二日モケー件千八百五十九年四月十四日ドレール件千八百六十三年五月七日モナン件判決等是レ行政訴件ヲ判決スル官衙ハ眞ノ裁判所ニ非ストスル主義アルニ由テ然ル者ニシテ行政官衙ニ對シテハ司法裁判官カ其終身官タルノ故ヲ以テ敢テ抵抗スル精神アルノ恐レナシ加之ナラス參議院ハ自カラ原問法官ニアラサル參事院ニ兩造ヲ廻致スルノ權ヲ有セサル可シト判決セリ千八百四十五年八月二十三日プールシヲ件判決

前ニ擧ル所ノ例則ニ循ヒ凡ソ參事院ノ決定書ニ係ル參議院ノ判決ヲ適施スルニ就キ爭論ヲ生スルニ當リ此爭論ヲ決スルハ參事院ノ職ナリ隨テ兩造ハ參議院判決ノ説明ヲ直チニ本院ニ訴求ス可カラスト論決ス可シ千八百四十八年一月二十八日モナール件千八百五十五年三月十五日ブイヨー件本文ト反對ノ判決ヲ爲シタル千八百五十一年八月九日ベナシー件及ヒ千八百五十三年三月二十四日チコラン件判決ヲ看ヨ

第四章　參議院ニ於テ踐履ス可キ訴訟規則

此訴訟規則ハ千八百六年七月二十二日ノ詔書ニ載ス余輩ハ今其本文ヲ此書ニ登錄シ續テ參議院ノ判決ヲ經タル重モナル疑點ノ見解ヲ領得セシムルニ適當ナル註釋ヲ每條ノ下ニ附記ス可シ該詔書ハ四篇ニ分チシカ余輩ハ之ヲ四欵トセリ

第一欵　起訴及ヒ豫審

第一節　人民中ヨリ參議院ニ起訴スル事

(提要)第二百七十五　出訴ノ程式○參議院附屬代言人ノ署名シタル訴狀

第二百七十六　代人ヲシテ參議院ニ出訴セシムルヲ得ルヤ

第二百七十七　參議院ニ出頭セシムル直接ノ招喚狀ハ無效ナル可シ

第二百七十八　此等ノ程式ハ行政訴件ニ限リテ適施スルヲ必要トス

第二百七十九　代言人ヲ命ス可キ規則ニ從ハサル特例

第二百八十　訴狀ニ掲載ス可キ件

第二百八十一　必要トスル件ヲ訴狀ニ掲載セサルヒハ隨テ之ヲシテ無效ニ屬セシムルヤ

第二百八十二　參議院ノ書記局ニ訴訟ヲ呈スル〇訴狀登簿ノ權

第二百八十三　訴訟入費ヲ免除スルニ由テ定規ノ期限內ニ訴狀呈出ノ義務ヲ免カルヽヤ○其區別

第二百八十四　特異ノ判決書ヲ以テ處斷セラレタル訴者ハ一通ノ訴狀ヲ以テ出訴スルヲ得ス

第二百八十五　出訴ハ特例ニ係ル者ヲ除キ中止スルヿナシ

第二百八十六　延期許可ヲ與フルハ參事院ナルヤ將タ行政訴訟部ナルヤ

第二百八十七　現ニ參議院ニ出訴スル決定書ヲ提出シタル官衙ハ延期許可ヲ與フルヲ得ス至急吟味ニ着手スル裁判所々長モ亦然リ

第二百八十八　答辯ヲ爲スタメ被告者ニ與ヘタル期限

第二百八十九　誰ヨリ訴狀ノ通照ヲ命スルヤ

第二百九十　此通照ハ便宜行フヲ得ルノ制ナレトモ現今ハ常ニ必ス之ヲ命ス

第二百九十一　訴訟通照ノ命令○此命令ヲ送達スルノ程式如何

第二百九十二　代言人設置○訴狀ノ數

第二百九十三　答辯書ヲ出スヿヲ遲滯スルカ爲メニ裁判宣告ヲ停メス○闕席者ニ向ヒ重テ招喚ヲ爲スヿナシ

第二百九十四　書類ノ通照

第二百九十五　出訴ノ期限ハ三月トス之ヲ經過スレハ其權ヲ失フ○期限ノ計方

第二百九十六　右ノ期限ハ弄權ニ係ル出訴ニ適施ス

第二百九十七　期限ヲ經過セシム可キノ力アル判決書送達ノ程式ハ如何○昔時ノ區別

第二百九十八　右ノ區別ノ主意及ヒ基礎

第二百九十九　參議院判決ノ變遷

第三百　著者ノ說明

第三百一　判決ノ未定○規則ノ遺缺

第三百二　決定書ノ送達ナクシテ出納期限アル可キ場合

第三百三　行政手續ニ準スル送達方法ハ邑ニ對シテ之ヲ許ス可キヤ

第三百四　關係者數名アル場合ニ於ル送達如何

第三百五　行政手續ニ準スル送達方法ノ不便

第三百六　驛遞局ニ附託シタル文書若クハ署局ノ使丁或ハ小价ヲシテ送致セシムル文書ハ如何

第三百七　行政手續ニ準スル送達ト同視スル場合

第三百八　參事院ノ決定書ニ對シテハ如何ニ之ヲ論決ス可キヤ

第三百九　三月ノ出訴期限ハ政府邑及ヒ特權ヲ有スル者ニ對シテ經過ス

第三百十　期限消盡ニ由テ生スル失權ハ官ノ命ヲ以テ補足シ得ルヤ

第三百十一　控訴ス可カラサル決定書ノ執行ノミニ係ル決定書ニ對シ出訴スルヲ得ス

第三百十二　本案ニ關セサル豫審ノ決定書ハ獨リ確審ノ決定書ニ併セ訴フヲ得ルノミ

第三百十三　本案裁判ノ至當ナル決定書ノ理由ヲ取テ出訴スルヲ得ス

第三百十四　參議院ハ現ニ出訴スル決定書送達ニ對スル取消ノ訴ヲ判決スルヲ得ルヤ○住所ニ就キ爭論アルトキハ如何

第三百十五　出訴期限ハ送達ヲ爲シタル者ニ對シテモ亦經過

スルヤ

第三百十六　州長ノ爲シタル送達ハ隨テ宰相ニ對シテ其出訴期限ヲ經過セシム

第三百十七　軍務會計監督若クハ森林保守者ニ於ル送達ハ如何

第三百十八　州長ハ參議院ニ出訴スル權アリヤ

第三百十九　期限滿盡ノ後宰相ハ法律ノ維持ノ爲メニ出訴スルヲ得

第三百二十　被告者ハ出訴中何時ニテモ參議院ニ對シテ附帶ノ控訴ヲ起スヲ得○其結果

第三百二十一　送達セサル決定書ハ三十年ノ後ニ至リテモ猶ホ出訴セラルヘキヤ○其區別

第三百二十二　通照命令書ノ送達期限○此期限ノ計方

第三百二十三　期限ヲ遵守セサルカ爲メノ訴訟權失却ハ官ノ命ヲ以テ補足スルヲ得

第三百二十四　通照命令書ノ送達方法

第三百二十五　佛蘭西國外ニ住居スル者ニ對シ出訴期限ノ增加

第三百二十六　規則第十一、十二、十三條ニ依リ定メタル期限ハ現ニ存ス

第三百二十七　誰カ豫審處分ヲ命スルノ權ヲ有スルヤ

第一條　行政訴件ニ就キ人民ヨリ參議院ニ致セル訴訟ハ參議院附屬代言人ノ署名シタル訴狀ヲ以テス可シ該訴狀ニハ訴件及ヒ訴訟ノ大要、要求、訴者ノ姓名及ヒ本訴ニ必要ナルヲ以テ訴狀ニ附添スル書

類ヲ掲記スヘシ

人民トハ政府ヲ除キ凡テ人民若クハ邑若クハ諸〻ノ無形人身（ペルソヌモラル）ヲ含蓄セリ蓋シ政府ハ獨リ參議院ニ訴出スルカ爲メニ代言人ヲ置クヲ要セス（千八百六年七月二十二日ノ詔書第十六第十七條及ヒ「人民ヨリ參議院ニ對シ參議院ニ起訴スル」ト題スル本章第一款ノ題號ヲ見ル可シ）

凡ソ參議院ニ出訴セントスル者ハ代書師兼代言人ノ職ヲ行フ可キ代言人ヲ置クヲ要スル（同上詔書第一條第四十四條）猶ホ民事始審裁判所ニ於テ必ス代書師ノ幇助ヲ待テ出訴スルカコトシ（訴訟法第六十一第七十五條）普通裁判所ニ於テハ代人ヲシテ訴出セシムルヲ得サレトモ參議院ニ對シテハ代人ニ命シテ訴ヲ起スヲ得ルヤノ問題ニ關シ參議院ノ判決ハ之ヲ兩樣ニ區別シ選擧件ニ關シテハ代人ヲシテ訴出セシムルヲ得ス（千八百四十四年十二月二十二日ビルフランシュ選擧件判決）其他ノ訴件ニ關シテハ之ヲ爲シ得ル（千八百四十八年六月二十三日ドビトセリコンヌ件ニ係ル土工訴訟ノ判決）

其之ヲ爲シ得ルトスル場合ニ於テ前ニ擧ケタル成文ヲ據トスル難問ヲ非斥スル者ノ言ニ曰ク代人ヲシテ訴出セシムルヲ得ストスル判決ハ特ニ撰擧ニ關スル事件ニ限ル蓋シ撰擧ニ係ル訴訟權ハ之カ基本タル所ノ投票權ヨリ出ツルナリ然ラハ則チ此訴訟ニ限リ代人ヲ命スルヲ得サルヿ猶ホ代人ヲシテ投票セシムルヲ得サルコトキヿ知ル可シ然リト雖モ其土工ニ係ル事件ノ如キハ全ク其況狀ヲ異ニス隨テ代人ニ依賴シテ訴訟權ヲ行フヒ其正當ナルヤ明白ナリ（千八百五十二年十二月二十三日ユベル件ニ係ル判決）抑〻此ノ如クニ區別ヲ立ルハ果シテ其理アルヤ余輩之ヲ信スル能ハス

參議院ハ其與ヘラレタル權利如何ヲ辯解セスシテ唯〻納租者ノ一部ノ名ヲ以テ特別委任狀ナキ代書師ヨリ訴ヘタル者ヲ否却シタリ（千八百四十八年十二月六日ケエラン件千八百五十八年六月二十二日マギチン件判決）子ノ權利ヲ辯解スルヿナク其名ヲ

以テ父ヨリ訴ヘタル者モ亦之ヲ否却シタリ（千八百四十八年十一月三十日クュ子ヲ件千八百五十四年七月十九日ピアラー件判決）

佛蘭西ニ於テハ國王ヲ除ク外何人モ代人ニ依テ訴フルヿナシ」ト云ヘル例則ハ二ツノ理由アリテ始マレリ其第一ノ理由ハ國民ノ爲メ自由權ノ爲メ及ヒ保護ノ爲メノ外他人ノ名ヲ以テ施爲スルヿヲ許サヽル羅馬法ニ於テ行フ所ニ倣ヒテ古ヘ羅馬國民ノ有セシ特權ヲ佛蘭西國王ニ保持セシメントシタルナリ第二ノ理由ハ蓋シ相手方ノ代人ト共ニ事ニ從フ者ノ危難即チ本人カ同一事件ニ就キ再ヒ訴訟ヲ起スノ虞タルヲ慮リタルニ出ルナル可シ

昔時國王ハ代人ニテ出訴スルノ許可ヲ訴者ニ與フルヲ得シカ此權ハ千三百七十二年五月八日ノ國王諭示書ニ依リ國王ノ保有シタル場合ノ一ナリ即イサンベル氏カ著セル纂輯書第五卷第三百七十葉以下ニ採錄セル者是ナリ

行政訴訟手續ハ簡捷ヲ要シテ細微ニ渉ルヲ忌ムカ故ニ所謂「國王ヲ除ク外何人モ代人ニ依テ訴フルヿナシ」ト云ヘル例則即チ破毀法院ニ於テ公ケノ秩序ニ關係アリト觀察セサル例則ノ適施ヲ拒否ス可シト余ハ思惟スルナリ蓋シ破毀法院ハ此例則ヲ引用スルヿヲ許サス（千八百五十四年五月三十日破毀法院裁決）

委任ヲ受ケタルヿヲ辯解セサル代人ヨリ參事院ニ出訴スルニ由リ之ヲ受理ス可カラストナシタルモ現ニ其委任狀ヲ有スルヿヲ參議院ニ辯解スルアレハ本院ニ對シテ亦其受理ス可カラサルヿヲ主張スルヲ得ス（千八百五十六年五月七日ニカン件同年七月九日ミレー件判決）但シ參事院ニ於テ既ニ決定書ヲ下シタル後ニ代人ヲ命シタル時モ亦當ニ同シカルヘシ（千八百六十年七月十八日グリフラン件判決等）

参議院附屬代言人ノ署名シタル云々○普通裁判所ニ於テ行ヘル如ク原告ハ直チニ被告ヲ招喚スル所ノ通規ニ違ヒ（訴訟法第六十一第四百五十六條）参議院ニ出訴セントスル者ハ先ツ参議院附屬代言人ノ署名セル訴狀ヲ呈スルヲ要ス（詔書第一條）相手方若クハ宰相ニ向ヒ参議院ニ出頭ス可シト直チニ通知シタル招喚ハ皆無効ニ屬スト看做シ隨テ参議院ニ隷屬スル官衙ノ決定ヲ控訴スルカ爲メニ詔書十一條ニ依リ三ケ月ト定メタル出訴權ノ失却ヲ停止スルヲ得サルノミナラス又普通ノ期滿得免ヲ中停スルヿ能ハス（民法第二千二百四十七條）是ニ由テ参議院ハ本院附屬代言人ノ署名セサル訴狀ヲ受理セスト宣告セリ（千八百三十九年十二月十八日カプ府件千八百四十七年二月十二日）

（プレベー件判決）

此ノ如キ訴訟手續ハ如何シテ生セシヤヲ搜索スルニ蓋シ佛蘭西ノ古法ニ據レハ（バイイイ）及ヒ王ノ目代ノ裁判ヲ國王ニ訴フニ當リ控訴ノ手

續ニ從ハス（プレフモジュ、プレトウル）ノ終審裁判控訴ニ係ル羅馬古法ニ倣ヒ唯ト哀訴ヲ爲スヲ得ルノミ（ロワゾー氏著「デゾフイス」第一卷第四十第七十一項ヲ看ヨ）ロワゾー氏又曰ク此哀訴ト控訴トハ甚タ相似タルヲ以テ漸ク之ヲ混同視スルニ至レリ殊ニ巴里門（パールマン）カ其權力ヲ增サント計リ冥々ノ中ニ於テ哀訴ト控訴ヲ混合シ以テ（バイイイ）ト（セチシアル）トニ其終審裁判ノ權ヲ剝奪セントスルノ後ヲ以テ然リトスト（同上著書第七十五項）蓋シ控訴權回復免狀ハ人ヲシテ所謂控訴ノ緣起ヲ記念セシム（レトルヽドルリフメベール）

代言人設置ヲ必要トスルハ純然タル行政控訴件ニ限ル故ニ僧侶擅横ノ訴及ヒ正權限抵觸訴訟ニ係リ此規則ヲ適施スルヲ要セス原被告トシテ出訴スルノ許可ヲ拒ミタル参事院ノ決定ニ對シ邑ヨリ之ヲ申訴スル場合ノ如キモ亦同シ（千八百三十七年七月十八日ノ法律第五十第五十二條）但シ海上侵畧ノ件ハ行政上ノ手續ニ從ヒ判定スレトモ海上侵畧裁判所ニ呈スル覺書及

ヒ訴狀ハ參議院及ヒ破毀法院附屬代言人ノ署名ヲ要スルヿハ既ニ第百四十二項ニ掲錄セリ是ニ由テ之ヲ推セハ同上ノ事件ニ就キ參議院ニ呈セル覺書幷ニ訴狀モ亦同上代言人ノ署名ヲ要スト論定セサル可カラス

前ニ舉ケタル規則ハ特別法律ニ依リ幾多ノ特例ヲ置キタリ即チ訴者親ラ參議院ニ出訴スルヿヲ許シタル左ノ場合是ナリ

第一　直稅ニ關スル訴件○千八百三十一年三月二十六日ノ法律第二十九條及ヒ第千八百三十二年四月二十一日ノ法律第三十條ニ云ヘ參事院ノ決定不服ノ訴ニ就テハ特ニ印紙稅ノミヲ課シ無費ニテ州長ヲ經由シ之ヲ政府ニ致スヲ得ト

右ノ特例ハ間稅ニ係ル諸件ニ推シ及ホサス其色ヨリ出訴スル者モ亦然リ千八百四十二年二月二十四日タラル府件判決是故ニ千八百十六年四月二十八日ノ法律ニ依リ飲料前納稅ニ關シテ許可シタル訴訟ニ之ヲ適施ス可カラス千八百五十一年二月八日ナルボヌ府件判決

然レトモ本色稅物品ニテ納ムル稅ニ係ル訴件及ヒ鄉路ニ關スル特別租稅ノ件ニ此特例ヲ適施ス千八百四十八年一月三日シアル件判決等千八百四十四年七月二十八日法律ノ論據千八百四十六年十一月二十六日アゴンバル件敷石稅ニ係ル訴件千八百五十年三月二十三日ルテリエー件判決及ヒ共和曆第十一年花月十四日及ヒ千八百七年九月十四日ノ法律ニ依リ構成シタル土工委員ニ於テ執行セル防禦ニ係ル土工稅ニ關スル訴件千八百五十年八月十日ホルメン件判決ニモ亦右ノ特例ヲ適施ス但シ防禦ニ係ル土工稅ノ訴件ニ此特例ヲ用フルハ共和曆第十一年花月十四日ノ法律第三條ニ於テ該訴件ヲ直稅ニ關スル訴件ニ同シキ者トナシタルニ由ル千八百五十年十二月二十一日ドリア件判決

第二　千八百五十三年六月二十二日ノ法律第五十三條ニ參議院ニ致セル訴訟ハ無費ニテ行政訴訟手續ヲ以テ執行シ且ツ公ケニ裁判ス可シトアルニ據リ凡ソ州ノ選擧ニ關スル訴件、抑、此特例アルハ參議院ニ出訴スルヿヲ容易ニシ以テ州選擧ニ關スル惡弊ヲ防クノ保障ヲ作ランヿトシタルナリ

第三　邑選擧ニ係ル訴件千八百五十五年五月五日ノ法律第四十五條ヲ看ル可シ此特例ハ註記ノ法律第二十條ニ開載シタル場合ニ於テ辭職者ト告示セラレタル邑會議員ノ申訴及ヒ州長ノ決定書ニ因リ其職ヲ停止セラレタルカ爲メニ之ヲ控訴セル邑會議員ノ申訴ニ適施セス千八百五十三年二月十六日シニバリエー件判決

第四　千八百五十一年五月三十日ノ法律第二十五條ニ依リ陸運警察規則違犯ニ係ル訴件

第五　ジュフール氏ノ說ニ從ヘハアルジェリーニ於テ公利益ノ爲メニスル沒收ニ關スル訴件モ亦特例中ノ一ナリ氏著書第二版第二卷第三百十六葉ヲ看ル可シ然レトモ氏ハ爲メニ何レノ法律ノ本文ヲモ其書中ニ引援セス余竊ニ以爲ク氏ノ說ハ蓋シ千八百四十四年十月一日ノ王勅第七十六條アルニ由テ起レルナリ

千八百六十年七月十八日ノ法律第九條ニ揭擧シタル爭訟ニ關シ外國ニ遷居スル者ニ對シ同一ノ特例ヲ行ハサル可カラサル可シ

護鄉兵ニ關スル訴件ニ關シテハ如何ンニ判定ヲ下ス可キヤ蓋シ千八百三十一年三月二十二日ノ法律第百二十一條及ヒ千八百五十一年六月十三日ノ法律第百六條ニハ其訴訟及ヒ判決ニ就キ印紙稅ト記錄稅トノミヲ免除シタルニ由リ參議院ハ該訴件ニ關

シ代言人ヲ置カサル可カラスト判決シタリ千八百三十五年八月二十五日ランドリー件判決等

訴者ノ姓名○詔書ニハ訴訟法第六十一條ニ於ル如ク原告者ノ職業ヲ登記スルヿヲ命セス都テ參議院ノ訴訟手續ハ普通裁判所ノ訴訟手續ヨリモ更ニ簡畧ニシテ多クノ程式ヲ要セス故ニ參議院ニ致セル訴狀ニ職業ノ登記ヲ要命ス可カラス千八百二十三年九月十日ポーウェル件判決

同上ノ詔書第一條ニハ唯「訴者ノ姓名」トノミアリテ「訴者及ヒ共訴者ノ姓名」云々ト記シテ訴ヲ起サントスル者ニ正ク關係アル者等ヲ指定セスト雖モ凡ソ訴訟ニ正ク關係アル者ノ姓名ハ悉ク揭記シ上文ニ論スル所ノ者ヲ除キ其他ノ事ハ一切普通裁判所ニ於テ履行スル所ニ準セサル可カラス若シ果シテ然ラサル時ハ共訴者等始メニ訴訟ニ與カラサルヲ名トシテ他日「外人ノ故障申述」ヲ起スニ甚タ容易ナル手段トナ

ル可シ

自身ニ關係ナキ參事院ノ決定書ヲ參議院ニ訴フヿヲ許サス千八百五十年七月十三日イヲ件千八百五十四年五月十一日ルゲイエー件判決

然レ𪜈參議院ニ訴ヘタル決定書中ニ共通ノ利益ノ爲メニ申訴スル相續人等ヲ某氏ノ共訴者ト指定シタル時ハ訴狀ニ此事ヲ移寫スルノミニテ千八百六年ノ詔書第一條ニ命スル所ノ者ヲ充タセルナリ殊ニ全相續人ノ姓名住所ヲ併記セル添書ヲ出セハ極メテ充分ナリトス千八百五十八年七月二十一日シアルボ子ル件判決

申訴セラレタル決定書ノ語句ヲ參議院ニ致セル訴狀ノ語句ニ對比セシニ其原告者總員ヲ充分ニ指定スルトキハ訴者及ヒ共訴者ニ對スル破毀ノ訴ヲ受理ス可シ千八百年十二月十二日破毀法院裁決

訴狀ニ添加スル書類○詔書ニ於テ訴件及ヒ訴訟ノ大要ト證據書類ト

ヲ出スヿヲ命シタルハ參議院ヲシテ事實ヲ明カニシテ而シテ後ニ裁判ヲ行ハシメンカ爲メナリ

「訴訟ハ假ノ訴狀ヲ出スコ因テ適當ニ始マレリ」ト云ヘルヿハ參議院及ヒ破毀法院ニ對スル普通法ノ格言トナリタリ蓋シ假ノ訴狀ニハ訴訟ノ事實幷ニ出訴スル理由ヲ載セサルモ訴訟ノ目的ヲ指示セル請求ヲ掲ケ且ツ申訴セラレタル決定書ト訴者ノ住所トヲ明記セサル可カラス（シュール氏著行政法第二版第二卷第三百二十葉）

規則中某々ノ程式ヲ遺却シタルニ由テ訴訟ヲシテ無效ニ屬セシムルヿヲ明擧セス故ニ程式ノ極メテ重要ナルヲ以テ之ヲ遺却シタルカ爲メニ損害ヲ生シタルヤ否ヤヲ調査スルノ權ハ參議院ニ在リ本院ニ於テ訴者ノ住所掲記ハ規則ニ因テ命スル所ナレトモ之ヲ遺却シタルカ爲メニ其訴訟ヲ無効トセスト判決シタルハ是レ其例ナリ（千八百二十三年九月十日ボーウエル件判決）

訴者其不服ナリトスル決定書ノ副本ヲ呈シテ申訴ノ證憑トナサヽルヿ時ハ參議院ニ於テ之ヲ受理判決ス可カラスト宣告ス（千八百五十四年二月三日ヌベル瓦斯燈會社件判決千八百五十一年五月二十四日ダダン件ニ係ル判決）

訴訟ノ事實及ヒ出訴スル理由ニ就キ始メニ遺却シタル說明及ヒ證憑書類ハ後ニ出セル添訴狀ニ因テ之ヲ追補スルヿヲ得然レトモ原告ノ出訴スル事實及ヒ理由ノ說明ヲ第一ノ訴狀ニ掲ケス及ヒ第一訴狀ノ不充分ナル所ヲ追補說明セス及ヒ明定シタル期限中ニ出訴理由ノ辯明書ヲ出ス可シト訴者ニ命シタレトモ之ヲ遵行セサルトキハ參議院ニ於テ其訴狀ヲ却下スルト定メタリ（千八百三十八年一月三十一日ベルト件千八百四十七年一月二十一日トロゼー件千八百四十二年一月七日ガランド件千八百五十三年十二月八日カサーグ件同年同月二十八日グイフレー件千八百五十一年七月二十六日コアンソラル件千八百五十八年六月三日マチュシエール件判決）

是ニ由リ訴者ヨリ其不服トスル決定書幷ニ之ニ關係スル書類ヲ證憑トシテ出サヽル所ノ減税訴訟ハ受理セラル可カラス（千八百四十七年八月二十日アロノー件判決）

參議院附屬代言人ノ署名シタル訴狀ヲ以テ本院ニ出訴スルニ當リ證憑トシテ訴者ノミノ署名シタル覺書アルノ故ヲ以テ訴狀ニハ別段ニ訴訟ノ事實ト理由トヲ掲舉セサルモ之ヲ受理セラル可キヤ後ニ舉ル所ノ參議院判決ニ據テ考フレハ未タ此點ニ就テ定論アラサルカ如シ」

然レトモ此覺書ヲ右ノ簡畧ナル訴訟及ヒ通照ノ命令書ニ併セテ被告者ニ送達セサルトキハ千八百六年七月二十二日ノ規則第一條及ヒ第十二條ニ循ハサル者トシテ之ヲ受理セサル可シ（千八百五十一年八月九日リゴー件判決）

右ノ如キノ判決アリト雖モ何レノ法令モ未タ曾テ原告者ニ對シテ明定スル期限中ニ訴訟ノ事實及ヒ理由ヲ辯明スル覺書ヲ出サシメ此期限ヲ過レハ訴訟ヲ受理ス可カラストナシタルノ明文ナシ（千八百五十四年六月二十二日ムーニエー件判決）

原告者ニ於テ其訴狀中ニ請求ノ全部若クハ一部ヲ證憑スル理由ヲ掲記セスシテ唯先キニ參事院ニ呈セル覺書ヲ出スニ止マル時ハ其請求ノ全部若クハ一部ヲ受理セサル可シ（千八百五十七年八月十八日バコツー件判決）

第二條　訴狀其他凡テ訴者ノ出セル書類ハ參議院ノ書記局ニ致ス可シ書記局ニ於テ即チ日子ノ順次ヲ逐フテ之ヲ簿冊ニ登錄ス豫審ヲ爲サシムル爲メニ司法宰相ヨリ參議生ニ書類ヲ交付シタルヿモ亦此簿冊ニ登記ス可シ

訴狀登簿ノ記錄税ハ千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十七條ニ依リ定メテ二十五「フラン」トセシヿ猶ホ破毀法院ニ致セル訴狀ノ税ノコトシ

共和暦第七年霜月二十二日ノ法律第六十八條第一節第三十項ニ云ク同一訴件ニ係リ原告若クハ被告ノ人員如何ヲ論セス各原被告者ニ稅ヲ課ス可シ但シ財産共有者、共通相續人、同居ノ親族、訴訟關係人連帶ノ權利者若クハ義務者ハ此限ニ非スト（コーインテレセー）今參議院ニ致セル訴狀ニ對シ右ノ例則ヲ適施ス可キヤ曰ク否蓋シ茲ニ論スル所ノ者ハ其性質決シテ變ス可カラサルノ定稅ナリ前ニ擧ケタル法律第六十八條ノ例則ハ獨リ其第三十項ニ開列シタル招喚狀送達書等ニ適施スルノミ同條第六節第三項及ヒ千八百十六年四月二十八日ノ法律第四十七條ニ依テ稅額ヲ定メタル參議院若クハ破毀法院ニ致セル訴狀ニ之ヲ推シ及ホスヲ得ス

凡ソ法律ニ依リ無費ニテ參議院ニ訴フ可シトスル場合即チ直稅ニ係ル訴件（千八百三十二年四月二十一日ノ法律第三十條州選擧ニ係ル訴件千八百三十三年六月二十二日ノ法律第五十三條）ノ場合ニ於テハ訴者必シモ參議院附屬代言人ノ助力ヲ請フヲ要セサルヿ固ヨリ論ナケレトモ規則第十一條ニ依テ定メタル期限中ニ訴狀ヲ參議院ノ書記局ニ致スニ當リテモ亦然ルヤ否ヤ又原告者ニ於テ其不服トスル決定書ノ送達ヲ得テヨリ三ケ月內ニ地方廳例ヘハ州廳ノ書記局ニ訴狀ヲ致シタルトキハ其訴訟權ヲ失ハサル可キヤ否ヤ此問題ニ就キ須ラク區別ヲ立ツヘシ蓋シ法律ニ依リ唯無費ニテ參議院ニ出訴スルヲ許シタルノミニテ隨テ原告者ハ三ケ月ノ定期限內ニ本院ノ書記局ニ訴狀ヲ致達セシムルノ義務ヲ免カレタリト斷了ス可カラス裁判費用ヲ免スル者ヲ以テ移シテ他ノ程式及ヒ期限ヲ遵守スルヲ要セストス可カラス而シテ之カ準備ニ必要ノ注意ヲ爲スハ訴者其身ノ責ナリ以上論スル所ノ者ハ千八百三十三年六月二十二日ノ法律第五十三條及ヒ千八百五十五年五月五日ノ法律第四十五六條ニ依リ州

及ヒ邑ノ選擧ニ係ル訴件ニ就テ見ル所ナリ（千八百四十一年四月三日ジャベルニエー件千八百五十一年十二月十二日ゾーシノー件千八百五十三年八月二十二日ドラクロー件同年七月二十日ビュイ縣選擧件判決ヲ看ヨ）法律ニ依リ參議院ニ訴狀ヲ致達セシムルヿヲ州長ニ任スル場合ニ於テハ右ニ論スル所ト同シカラス即チ左ニ掲擧スル者是ナリ

第一　千八百三十二年四月二十一日ノ法律ニ依リ直稅ニ係ル訴件（千八百五十年十一月二十三日バビー件千八百五十三年三月九日ラウール件千八百五十五年二月二十一日カバルー件判決）

第二　千八百五十一年五月三十一日ノ陸運警察法ノ違犯ニ係ル訴件○該法第二十五條ニ云ク參事院ノ決定ヲ不服ナリトシテ參議院ニ訴出スルトキハ州廳ノ大書記局若クハ郡廳ニ簡署ナル覺書ヲ致スヲ得必シモ參議院附屬代言人ヲ經由スルヲ要セス但シ覺書ヲ致ス者ニハ其受領證書ヲ交付シ覺書ハ直チニ州長ニ呈送ス可シト本條末項ノ規則ハ極メテ正當ナリトス何トナレハ訴者ナシ

テ其相手方タル行政官吏ノ怠慢ナルカ爲メニ損害ヲ被ムルアラシム可カラサレハナリ

一樣ナラサル決定書例ヘハ參事院ニ於テ宣告シタル不同ノ決定書ニ因リ裁判ヲ受ケタル數原告者ニ於テ單一ノ訴狀ヲ以テ參議院ニ出訴スル時本院ハ之ヲ受理ス可カラスト宣告ス（千八百二十四年一月二十二日フィロー件千八百四十年十二月二十九日エルベー件判決）若シ之ヲ受理スルトキハ記錄稅ヲ回避セントシテ姦計ヲ旋ラス者必ス多カル可シ且ツ當然ノ場合ニ於テ數訴件ノ結合ヲ命スルハ獨リ參議院ノ權內ニ在ルノミ然ルニ訴者其人ナシテ隨意ニ數訴件ヲ混合スルヿヲ得セシムルトキハ其弊ヤ必ス訴訟手續ノ錯雜紛糾ニ至ルヿ決シテ疑ヲ容レス

第三條　參議院ニ出訴スルニ因テ原判決ノ執行ヲ停止ス可キノ効ナカル可シ但シ特別ノ命令アルトキハ此限ニ非ス

本年六月十一日ノ詔書ニ依テ定メタル委員ニ於テ延期ヲ與フ可シトスルノ意見アルトキハ其旨ヲ參議院ニ報告ス可シ參議院ハ之ヲ與フ可キト否ヤトヲ判決ス可シ

特別ノ命令アルトキハ此限ニアラス○是レ普通裁判所ニ於テ行フ所ノ者ト正ニ相反對ス蓋シ普通法ニ循ヘハ法律ニ依テ許シタル場合ニ於テ假ノ執行ヲ裁判官ヨリ特ニ命令スル時ノ外控訴アルニ因テ原裁判ノ執行ヲ停止ス（訴訟法第百三十五條第四百五十七條）然ルニ參議院ニ對シ申訴スルトキハ特ニ命令スルノ外原裁判ノ執行ヲ停止セス何ヲ以テ此差異アルヤ曰ク行政訴件ハ法ニ依リ急施即行ヲ要求スル者ト推測スレトモ普通ノ民事訴訟ノ如キハ此推測ヲ適用セスシテ裁判官ヨリ明白ニ急施即行ス可キヿヲ宣告スルヲ要スルナリ但シ千八百二十七年八月一日ノ森林ニ係ル王勅第百十七條及ヒ州選擧ニ關スル千八百三十三年六月二十二日ノ法律第五十四條ニ開載シタル場合ニ於テハ參議院ニ申訴スルニ因テ原裁判ノ執行ヲ停止ス

原裁判ニ於テ外國人ヲ勝訟者トナシタルトキハ該外國人ニ於テ佛國ニ在住シ且ツ資力ヲ有スル適當ノ保證人ヲ豫定スルノ外參議院ニ致ス可キ申訴期限間原裁判ノ執行ヲ停止ス（千八百九年二月七日詔書）

參議院ニ申訴スルニ由テ原裁判ヲ停止セスト云ヘル例則ニ由テ之ヲ推セハ唯參事院ノ宣告ニ從ヒ訴件ニ係ル金額ヲ完償スルノ一事ヲ以テ全ク本人ノ意ニ出テタル裁判執行ノ所爲ニシテ爲メニ復タ參議院ニ之ヲ申訴シ得スト觀察ス可カラス（千八百五十三年十二月十四日シモヲー件判決）

今論スル所ノ詔書第三條ニ依リ既ニ執行シタル參事院ノ決定書ヲ參議院ニ於テ覆審改正スル場合ニ當リ參議院ハ原告ノ請求ニ因リ先キニ不當ニ領受シタル金額ノ利子ヲ敗訟者タル被告ニ命シ以テ兩造ヲ

シテ原裁判執行前ト同一ノ地位ニ復ラシム可シ但シ利子ヲ計算スルハ原裁判執行ノ日ヨリ始ム（千八百五十五年一月十一日ムーラン件判決）之ヲ復言スレハ原告ハ民法第千三百七十八條ノ場合ニ於ケル如ク償フ可キノ義務ナキ金額ヲ其償ヒタル日子以來ノ利子ニ併セテ還償スルヿヲ被告ニ要スルヲ得然レ𪜈之ヲ還償セシムルハ民法ニ揭クル如ク其惡意ニ出テタルヨリモ寧ロ他ノ理由アルナリ即チ假ニ執行ス可キ裁判ヲ直チニ執行セシメタル者ハ自カラ他日ノ危險ヲ侵シテ敢テ之ニ從事セルヲ以テ現ニ敗訟スレハ苟モ其相手方ヲ傷ク可カラストスル是ナリ（千八百六十年三月二十九日西部鐵道會社件判決）

○本年六月十一日云々○此レ千八百六年六月十一日ノ詔書第二十四條已下ニ依テ搆成シタル行政訴訟委員ニ關係ス千八百四十九年三月三日ノ法律制定ノ前ハ行政訴訟ノ延期ヲ議決スルモ其本案ヲ議決スルモ其ニ全參議院ノ職掌ナリシカ延期議決ノ如キ極メテ容易ナル判決ヲ爲スカ爲メニ全參議院ヲ勞セシムルノ無益ナルヿヲ議スル者アリ是ニ由リ今日ハ爲メニ全院ノ議決ヲ要セス唯當該行政訴訟部ノ一局若クハ行政訴訟判決ノ爲メニ會集スル參議院即チ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書ヲ以テ命スル所ニ由テ搆成シタル參議院ヲシテ其務メニ服セシム然レ𪜈若シ此二樣ノ方法ヲ設ケスシテ常ニ行政訴訟部ノミニ延期ヲ宣告スルノ權ヲ與フルトハ兩造ハ爲メニ訟廷ヲ公行ス可キ場合ニ於テ之ヲ爲シ得サルニ至ル可シ○參議院ハ之ヲ與フ可キト否ヤトヲ判決ス可シ○參事院其他ノ參議院ニ附屬スル官衙ニ於テ一タヒ確定裁判ヲ爲シタルノ後ハ參議院ノ外其裁判執行ヲ停止スルヲ得ス是レ普通法ノ例則ニシテ（訴訟法第四百五十七條第二節）且ツ左ノ羅馬古法ヲ適施スル者ナリ曰ク裁判官ハ一タヒ裁判宣告

ヲ行フタル後ハ復タ裁判官ニアラス又事ノ大小ニ拘ラス裁判官ハ既ニ一タヒ行フタル所ノ宣告ヲ反ヘスヲ得スト雖ヒ國法ナリ故ニ裁判官ハ其宣告ノ當否ニ論ナク一タヒ之ヲ行ヘハ則チ其務ヲ充タセルナリ

ト是ニ由テ之ヲ推セハ敗訟者ハ參議院ニ於テ延期訴訟ノ調査ニ着手スルニ際シ要償勾留ノ執行ヲ停止スルヲ請フカ爲メニ急速吟味ヲ民事裁判所長ニ訴求スルヲ得ス若シ普通司法裁判所ニシテ此ノ如キノ訴求ヲ判決スレハ即チ是レ弄權ナリ隨テ行政官ト相拮抗スルニ至ル可シ已上陳述スル所ノ者ハ余ニ對シテ某氏ノ發議シタル訴件ニ關シ余カ答ヘシ辭ナリ

凡ソ裁判執行ノ延期ハ之ヲ延期スルモ決シテ損害ヲ生スルヿナク且ツ若シ原裁判ヲ確定裁判ニ因テ認定セスシテ始審ノ勝訟者ヲシテ却テ始審ノ敗訟者タラシムルヿハ原裁判ヲ執行スルカ爲メニ醫ス可カラサル所ノ損害ヲ原告ニ起ス可キ場合ニ於テ常ニ之ヲ許可ス可シ余ノ記憶スル所ノ者ヲシテ果シテ謬ラサラシメハ延期ノ願ヲ本案ノ訴ニ附加シ成ル可ク至急ニ併セテ之ヲ判決スルヲ以テ參議院處務ノ慣例トス故ヲ以テ參議院ハ必スヤ他ノ官衙ニ比スレハ延期ノ願ヲ判決スルニ於テ一層其事情ニ通明ナルナリ

第四條　司法宰相ヨリシテ訴訟關係者等ニ訴狀ノ通照ヲ命令シタル時ハ左ニ定メタル期限ニ循ヒ各其答辯ヲ爲ス可シ

第一　巴里府若クハ巴里府ヨリ里程五「ミリアメートル」以内ノ地ニ住居スル關係者ハ十五日内

第二　巴里府控訴院管轄内若クハ「オルレアン」「ルーアン」「アミアン」「ヴーエ」「ナンシー」「メッツ」「ジジョン」「ブールジュ」等ノ控訴院管轄内ニシテ巴里府ヨリ五「ミリアメートル」以外ノ地ニ住居スル關係者ハ一ケ月

内

第三　其他佛蘭西内地ノ控訴院管轄内ニ住居スル關係者ハ二ケ月

内

第四　佛國藩屬地及ヒ外國ニ住居スル者ニ關シテハ通照ノ命令ニ依リ適當ニ其期限ヲ定ム可シ（後項ノ第十三條中ニ掲錄シタル千八百五十九年六月十一日ノ法律ヲ看ヨ）此期限ハ使吏ノ本人若クハ其住所ニ訴狀ヲ送達スル日ヨリ起算ス可シ但シ假ニ裁判ス可キ訴件若クハ緊急訴件ノ期限ハ司法宰相ニ於テ短縮スルヲ得ヘシ

司法宰相ヨリ命令シタル時云々○現今通照ノ命令ヲ爲セル者ハ司法宰相ナルヤノ問題ハ千八百五十年六月十五日ノ規則ニ因テ解釋セリ其第四十一條ニ云ク報告者ノ說明ニ由リ必要トスル場合ニ於テ相手方ニ訴狀ノ通照、書憑ノ請求、訴訟關係者ノ招喚其他凡テノ下調ノ件ハ參議院ノ內會議ニ於テ議決ス可シ行政訴訟部長ハ此等下調ニ係ル判決書ニ署名スト此ニ因テ左ノ二件ヲ證スルニ足ル

第一　千八百五十年ノ新規則ニ依リ直チニ訴狀ヲ却下スル權ノ猶ホ存在スルヿ千八百六年七月二十二日ノ詔書ニ定ムル所ノコトシ

第二　此點ヲ判定スル者ハ舊時ノ如ク司法宰相ニ非スシテ行政訴訟部更ニ之ニ任スルナリ

千八百五十二年ノ國憲立テ參議院ノ組織ヲ改メタルノ後同年一月三十日ノ詔書第三條第二第三節ニ於テ左ノ如ク令シタリ云ク行政訴件及ヒ權限抵觸訴訟ニ係リ部會議ニ於テ決ヲ擧クルノ後行政訴訟部長ハ下調書類及ヒ訴訟通照ノ命令書ニ署名スト（本文ノ詔書第二十一條及ヒ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書第十七第十九第二十第二十一條）此等ノ本文ハ皆千八百五十年六月十五日ノ

規則ニ依テ定メタル所ノ者ヲ保存スルナリ然レトモ行政訴訟部ハ獨リ其本案ヲ判決スル訴件ニ係ル訴狀ノ直却下ヲ宣告スルノミ若シ或ハ然ラサレハ訴者ハ訟廷公行ト裁判ヲ公行ス可キ訴件ニ於テ參議官十名ヲ增加スルノ保障ヲ奪ハルヽニ至ル可シ

第四條ハ命令ニ因テ通照ス可キ場合ヲ豫定スレトモ通照ヲ命令ス可キ場合ニ論及セス是レ同年即チ千八百六年六月十一日ノ詔書ニ於テ既ニ之ヲ定ムルアルニ由ル故ニ其第二十九條ニ云ク司法宰相ハ參議生ノ說明ニ因リ必要トスル場合ニ於テ訴訟關係者ニ訴狀ノ通照ヲ命令シ規則ニ定メタル期限內ニ其答辯ヲ爲サシム可シト（千八百四十九年五月二十六日ノ規則第三十七條千八百五十二年一月三十日ノ詔書第三條第二項）

千八百四十九年六月十一日ノ詔書及ヒ「必要トスル場合ニ於テ」ト云ヘル語句ヲ味ヘハ被告者ニ對スル訴狀通照ヲ命スルト命セサルトハ當局者ノ隨意ニ在ルヲ知ル故ニ參議院ハ不當若クハ到底受理ス可カラスト自カラ思惟スル訴訟ヲ直チニ却下スルノ權ヲ有セリ抑ヽ千八百三十一年前ニ參議院屢〻此權ヲ資用シタルヿハ余輩既ニ之ヲ論セリ（第七十二項）

又如何シテ訟廷公行ノ制度ヲ創定セシ歟爲メニ頗ル判決方法ヲ變シ隨テ凡テノ訴狀ヲ被告ニ通照セサルヲ得サルニ至リタルヤノ問題モ亦既ニ之ヲ辯明セリ故ニ余輩ハ重テ之ニ論及セサルナリ

參議院ノ行政訴訟部ハ稍〻破毀法院ノ訴求局（シアンブル、デ、ルクエト）ニ似ル所アリ何ソヤ曰ク行政訴訟部及ヒ訴求局ハ共ニ訴狀ヲ受理若クハ却下シ得ル是ナリ然レトモ行政訴訟部ハ本部ノミニテ判決スル訴件ニ限リテ此權ヲ有ス訴求局ハ則チ何レノ民事訴訟ト雖モ之ヲナキハナシ且ツ民事局（シアンブル、シビル）ノ合議ヲ待タスシテ之ヲ行フヲ得又實際上ニ於テ行政訴訟部ハ直却下ヲ行フヿナケレトモ訴求局ハ自カラ本案ヲ査調シテ殆ト常ニ之ヲ行ヘリ而

シテ行政訴訟部ニ於テ其部長ノ署名シタル通照ノ命令ニ因テ訴訟ヲ受理スル時ニ當リ必シモ之ヲ行政訴訟判決ノ爲メニ開ケル參議院ノ會議ニ附スルヲ要セス故ニ其行政訴訟部ノミニテ本案ヲ判決ス可キ訴件ナル時ハ則チ本部ニ於テ之ヲ判決ス唯千八百五十二年一月二十五日ノ詔書第十九第二十一條ニ掲ケタル條欵ノ一ヲ訴件中ニ含メル場合ニ限リ參議院ノ會議ニ附ス

被告者ニ訴狀ヲ通照セシムル所ノ行政訴訟部長ノ命令ハ參議院ノ書記局ニ藏メタル訴狀ノ下部若クハ旁邊ニ附記シ左ノ如クニ書キ起スヲ例トス云ク「此訴訟ハ當所ノ第一使吏ニ因テ某氏ニ通照ス」ト第四條第五節ニ掲クル「通照ノ命令書」ノ名是ヨリ出ルナリ蓋シ此命令書ハ訴訟法第七十二條ニ依リ民事裁判所々長ノ作リタル命令書ニ稍類似スル者トス

使吏ノ云々○此條ニ述フル所ハ獨リ人民若クハ一ノ無形人身ヲ成セル會社ニ對スル訴訟ノミニ關係シ政府ニ對スル訴狀ニ與カラサルヲ知ルヲ要ス其政府ニ對スル訴狀送達ノ方法ハ特ニ第十七條ニ規定セリ

答辯ヲ爲スカ爲メニ被告者ニ與ヘタル猶豫期限ニ關シ千八百六年ノ規則第四條ノ裁判力ハ載セテ千八百六年十　月ノ詔書ニ在リ其第二十九條第二節ニ云ク此期限滿盡スレハ本訴ノ報告ニ從事ス可シト

第五條　訴狀若クハ答辯書ニ記セル代言人ノ署名ハ以テ代言人ヲ設置セシヿト該代言人ノ住所ヲ本人ノ住所ト撰定セシヿノ證トス可シ（訴訟法第六十一條第一項）

第六條　原告者ハ答辯書ヲ得テヨリ十五日內ニ第二ノ訴狀ヲ出スヲ得被告者ハ第二ノ訴狀ヲ得テヨリ十五日內ニ再答辯ヲ爲スヲ得ヘ

シ

一方ノ者ヨリ第一ノ訴狀ヲ併セテ二箇已上ノ訴狀ヲ出スヲ得ヘカラス

此規則第六條アルニ由テ原被告者ハ各〻第一ノ訴訟ヲ併セテ二ツノ訴狀ヲ送達スルヲ得ルナリ但シ假ノ訴狀ト其添書トヲ出スヲ得テ必スシモ之ヲ正式ニ準スル第一ノ訴狀ニ限ラサルヿハ既ニ前項ニ揭ケタリ是故ニ第六條ニハ二ツノ訴狀トアレ𪜈實ハ三ツノ訴狀アルナリ（ジュフル氏著書第二卷第三百四項）蓋シ此第六條ノ例則ハ訴訟法第七十七條乃至第八十一條ニ依テ命シタル所ニ則トリタル者ナレ𪜈訴訟法ニ比スレハ被告者ノ爲メニ更ニ利便ナル可シ何トナレハ訴訟法ハ被告者ニ唯一ノ答辯書ヲ出スヲ許セルノミナレハナリ而シテ其訴訟法ト今論スル所ノ千八百六年ノ規則ト此ノ如キノ區別アルハ恐クハ此規則中ニ口頭辯論ノナキニ由ル然レ𪜈今日ハ書類ヲ以テスル豫審法ニ口頭辯論ノ法ヲ附加シタルヲ以テ行政訴訟ノ保障ハ決シテ司法訴訟ノ保障ニ劣ラサルヲ知ル

第七條　數人ニ對シテ裁判ヲ爲ス可キ時其一部ハ答辯ヲ爲セ𪜈他ノ一部ハ之ヲ爲サヽレハ同一ノ判決書ニ依リ訴者ノ全部ニ向ヒ裁判ス可シ

此規則ノ精神ハ訴訟ヲ遲緩シ爲メニ訴訟ヲ好ムノ心ヲ勵マスヿヲ避クルニ在リ故ニ第七條ニ於テ數訴者ノ中答辯ヲ爲ス者アレハ訴者ノ全部ニ對シテ判決ヲ行フヲ許シ若シ期限ヲ怠タリテ答辯ヲ爲サヽル者アルモ其故意ト否サルトニ論ナク爲メニ判決ヲ猶豫ス可カラス但シ遲滯シテ答辯ヲ爲サヽル者ハ之ヲ爲シタル者ト同一ノ利益ヲ有スルヿヲ知ルヲ要ス

第七條アルニ由テ更ニ重要ナル他ノ結果ヲ生セサル可カラス何ソヤ曰ク訴訟法第百五十三條ニ掲クル所ト同一ノ場合ニ於テ闕席者ノ再招喚ヲ命セサル是ナリ蓋シ亦行政訴訟ハ駿速ニ局ヲ結フヲ要スルカ爲メナリ

第八條　兩造ノ代言人ハ費用ヲ出スヿナク書記局ニ於テ訴訟書類ヲ通閲スルヲ得ヘシ

訴訟書類ハ其正本アル時若クハ一方ノ者ノ承諾アル時ヲ除キ之ヲ書記局外ニ持チ出スヿヲ得ス（訴訟法第百八十九條）

第九條　書記局ニ訴訟書類ヲ持出シタル時ハ代言人ノ署名シタル領票ヲ出スニ由テ八日ニ超ヘサル期限内ニ之ヲ繳納ス可キノ義務ヲ生ス可シ此期限ヲ過キテ猶ホ繳納セサレハ司法宰相ニ於テ一日ヲ滯ルコトニ十「フラン」ニ下ラサル要償ヲ各代言人ニ命シ且ツ爲メニ

要償ノ勾留ヲ命スルヲ得ヘシ（訴訟法第百九十條）

第十條　何レノ場合ヲ論セス訴訟書類ヲ通閲スルカ爲メニ訴狀ヲ呈出若クハ送達スルノ期限ヲ遲延ス可カラス

書記局外ニ持出スヿヲ得ス○實際上ニ於テハ大ニ之ヲ寛ニシ代言人ニ於テ書類通照ノ爲メニ之ヲ局外ニ持出スヲ以テ殆ト通則トセリ（ジュール氏著書第二卷第三百六項）

第十一條　參議院ニ屬スル官衙ノ決定書ヲ本院ニ申訴スルトキハ原告者ニ於テ此決定書ノ送達ヲ得タル日ヨリ三ケ月後ニ至リ復タ之ヲ受理ス可カラス

三ケ月後ニ至リ受理ス可カラス○此規則アルニ由リ申訴セスシテ期限滿盡スレハ隨テ訴訟權ヲ失フ可シト論定セサル可カラス（訴訟法第四百四十條）

此期限ヲ算計スルノ方法ハ實際上ニ於テ其送達ノ日ト其期盡ノ日トヲ此期限中ニ算入セス是レ即チ訴訟法第千三十三條及ヒ千八百三十八年六月二十八日ノ王勅第一卷第二篇第五條及ヒ破毀上告期限ヲ定ムル共和曆第二年霜月一日ノ法律ヲ適施セシナリ參議院ノ判決正ニ此ノ如シ千八百三十七年七月二十日トロイエー件千八百四十七年十二月七日ホンテヌブロー選擧件判決破毀法院ノ裁決モ全ク相同キナリ千八百十三年六月二十二日千八百十四年六月二日ノ裁決千八百十五日千八百十六年十一月二十日千八百四十此參議院判決ハ千八百六十二年六月二日ノ法律第九條ニ依テ之ヲ認定シタリ

トロレー氏著書第五卷第二千二百七十二項ニ云クパビー及ヒムーリエー件ニ係ル千八百五十年十一月二十三日ノ參議院ノ兩判決ハ其舊判決ニ違ヒタリト余ノ思考スル所ニ依レハトロレー氏ハ此兩判決書ニ下シタル意義ニ於テ誤謬アルヲ免カレス蓋シ其第一ノ判決ニ係ル場合ニ於テハ千八百四十九年十月十九日ニ送達セラレタル決定書ヲ翌年一月二十一日ニ參議院ニ申訴シタルヲ以テ遂ニ受理セラレス第二ノ判決ニ係ル場合ニ於テハ千八百四十八年九月五日ニ送達セラレタル決定書ヲ同年十二月六日ニ參議院ニ申訴シタルカ爲メニ受理セラレタルナリ二ツノ判決ニ就キ此ノ如キ見解ヲ下セハ其參議院ノ舊判決ニ合スルヲ知ル然レトモジュフール氏ハ其著書第二卷第三百三十一葉ニ於テ言ヘル有リ曰ク出訴期限ヲ算數スルニ當リ宜ク其送達ヲ得ルノ日ト其出訴期盡ノ日トヲ計入ス可キヤ否ヤヲ知ルノ問題ハ殆ト之ヲ解クニ難ム可シ然レトモ參議院ノ判決以テ之ヲ明定セリ蓋シ行政訴訟ニ關シテハ「終リノ日ハ終ルノ日ニ算入セス」ト云ヘル民事訴訟法ノ大則ニ循ハス故ニ出訴期盡ノ日ヲ數ヘテ送達ヲ得ルノ日ヲ算セス即チ一月十二日ニ送達セラレタル決定書ハ四月十三日ヲ以テ參議院

ニ申訴ス可キ最後ノ日トスルノ類云々ト（千八百三十二年七月二十日トロワイエー府件千八百四十七年二月二十七日テルレアン府件千八百五十年十一月二十三日パビー件同年同月同日ムーリエー件判決ヲ看ヨ）

余ハ今亦前段ニ言フ所ト同一ノ注意ヲ爲ス可シ夫レ一ケ月内ニ二箇ノ第十三日アルノ理ナシ故ニ一月十三日ニ始マリタル一ケ月間ノ期ハ二月十二日ニ終ルヿ猶ホ一月一日ニ始マル年ハ十二月三十一日ニ終リテ翌年一月一日ニ終ラサルカコトシ之ヲ推セハ二月十三日ニ始マリタル月ハ三月十二日ニ終リ三月十三日ニ始マリタル月ハ四月十二日ニ終レルナリ隨テ四月十三日ニ致セル申訴ヲ以テ法ニ適スル者トスルトキハ是レ出訴期盡ノ日タル四月十二日ヲ算入セサルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ現ニ「終リノ日ハ終ルノ日ニ算入セス」ト云ヘル大則ヲ適施セリ故ニ參議院ノ判決ハ今古決シテ變更セシヿナキナリ（千八百五十九年一月二十日南部鐵道會社件判決）

上ニ掲舉シタル千八百六年ノ詔書第十一條ハ申訴シ得ル所ノ訴件ニ區別ヲ立テサルニ由リ其出訴期限ハ參議院ノ或ハ控訴院ノ職ヲ行ヒ或ハ破毀法院ノ務ニ服スルニ論ナク常ニ相同クシテ長短アルナシト決定ス可シ故ニ此期限ハ州廳ノ決定書ヲ弄權ナリトシテ申訴スル等ノ場合ニ適施ス可シ（千八百五十九年十二月八日サンピエル、ド、ルミリー邑件千八百六十三年四月十六日ゲコイベル府件同年七月六日ローテル件判決千八百六十二年三月二十日シノロン府件千八百六十六日ローテル件今此ローテル件ニ關シ政府ノ目代タルローピタル氏ノ請牒ヲ摘錄シテ左ニ示ス）

此問題ノ頗ル困難ナルハ余輩亦之ヲ識ル而シテ參議院ノ判決ニ於テ未タ曾テ之ヲ確定セシヿアラスド、コルムナン氏ハ此出訴期限ヲ州廳決定書ノ弄權ニ係ル申訴ニ適施ス可カラストスル說ヲ主張シ千八百六年ノ詔書第十一條ニ明文アルヲ以テ本論ノ根據トセリ即チ本條中ニ唯〻參議院

ニ屬スル官衙ノ決定書ヲ參議院ニ申訴ス云々トアル是ナリ故ニ氏ノ言ニ云ク州長ハ參議院ニ屬スル官ニ非スト又貴重ナル參議院長ジュフレー氏ハドゝコルムナン氏ト其論理ヲ異ニスレ𪜈其意義ヲ相同フセリ蓋シ貴重ナル院長ハ上等法衙タル參議院ニ於テ常ニ弄權ヲ制止シ得ルハ公安ニ大關係アル旨ヲ明カニシ且ツ他ノ諸法律學士ニ續キテ左ノ論ヲ陳セリ曰ク州長ノ決定書送達ノ後其出訴期限ハ既ニ滿盡スル𪜈其上長官タル宰相ニ對シ此決定書ヲ申訴スルヿヲ妨ケス此ノ如クシテ一タヒ滿盡シタル期限ハ再ヒ起生ス可キナリト余輩ハ敢テ此等論説ノ價値ヲ認メサルニ非スト雖モ然レ𪜈余輩ハ他ノ諸論者即チ姑ク其一二ヲ例スレハセリニー氏及ヒシヤーボー氏等ト共ニ左ノ説ヲ取ランノミ曰ク千八百六年ノ詔書第十一條ハ唯一通則ヲ定ムル者ニシテ參議院ニ訴出シ來レル諸訴件ノ特例タラス故ニ余輩ハ本條ノ成文ヲ以テ極メテ完全該博ナリト思惟ス夫レ州長ハ固ト參議院ニ直隷スル官衙タラサルモ其發スル所ノ弄權ニ係ル決定書ハ遂ニ參議院ノ判決ヲ受ク可キ者ニ屬スルヿヲ免カレス又弄權ニ係ル者ハ常ニ制止シ得ルト云ヘルヲ以テ公安ニ關係アリトスル𪜈ハ兩造ノ既ニ久ク承諾シタル況狀ヲシテ一方ノ者ノ他日或ハ激スル所アルニ由テ常ニ攪亂セラルヽナカラシムル如キモ亦公安ニ關係アル可シ若シ夫レ上長官ニ常ニ申訴シ得ルノ權ヲ附スルハ固ヨリ善シ何トナレハ是レ極メテ不當ナル弄權ヲ醫ス可キ最極度ノ藥劑タレハナリ

水流ノ浚除及ヒ改良ニ關スル州長ノ決定書ヲ弄權ナリトシテ參議院ニ致セル直訴ハ訴者ノ所有アル邑中ニ該決定書ヲ公布貼示シタル日ヨリ三ケ月ノ後ニ至リテ受理セラル可カラス千八百六十二年六月五日ドーシケエドゝレトー件

千八百六十四年二月八日マルケー件判決ナリ余ハ此等ノ判決ヲ以テ極メテ至當ナリト認ムル送達ヲ得タル云々○參議院ニ申訴スル期限ヲシテ絶ヘス經過セシムルニハ如何ナル程式ニ於テ送達書ヲ認記ス可キヤ千八百六年ノ規則ハ曾テ此點ニ言ヒ及ホサス而シテ參議院ノ判決ニ因テ久ク行政上ノ區別ヲ立ルヿ左ノ如シ曰ク第一、人民相互ノ間若クハ邑、寺務局、貧院等ノ如キ各個人ト看做シタル會社ノ間ニ起リタル訴訟ノ決定ニ係ル場合、第二、各個人若クハ各個人ト看做シタル會社ト政府トノ間ニ起リタル訴訟ノ決定ニ係ル場合是ナリ此第一ノ場合ニ於テハ申訴ノ期限ヲシテ經過セシムルカ爲メニ訴訟法第四百四十三條ニ準シ普通ノ程式ヲ以テ使吏ヨリ訴訟ノ本人若クハ其住所ニ決定書ヲ送達スルヲ必要トス千八百二十六年九月六日コケー件千八百二十七年三月八日ブリシヤン件千八百二十八年十一月五日ルノール件千八百四十二年五月二十日ウッランス府件千八百五十年十二月二十一日アンブリー邑件判決第二ノ場合ニ於テハ參議院ノ判決ニ因リ行政上ノ送達即チ巴里府ナレハ宰相、局長、課長若クハ其他官吏ノ文書ヲ送達スルヲ以テ足レリトス他ノ州ニ於テモ亦州長、直稅局長、陸軍會計監督及ヒ其他ノ官吏且ツ邑長若クハ副邑長ノ文書ヲ送達スルノミニシテ可ナリトセリ千八百三十六年四月六日ユテー件同年二月二十七日アングル邑件同年十一月二十二日シアトーテリー府件同年十二月十四日ミルリー邑件千八百三十七年七月十九日メイエー件千八百四十年八月十三日ゴッスラン件千八百五十二年十二月二十二日マグロン件判決等余輩カ前ニ擧ル所ノ區別ハ千八百六年七月二十二日ノ詔書第四條末節ノ前項及ヒ第五十一條ニ參互シタル千八百六年ノ規則第十六第十七條アルニ由テ生セシヿ甚タ明白ナリ爾後此區別ハ移シテ千八百二十八年八月三十一日ノ王勅ニ適施セリ該王勅ハ内地ノ參事院ト同一ノ職務ヲ行フ所ノ藩屬地内議會ニ出訴スル方法ヲ規定スル者ナリ即チ其第四條

ニ云ヶ私訴者若シハ出訴ノ事ヲ擔任シタル政府官吏ノ請求スル送達ハ使吏ヲシテ之ヲ爲サシメ行政首長ノ請求スル送達ハ該首長ノ署名シタル文書ヲ以テス可シト

行政官ヨリ參議院ニ申訴スル期限ヲシテ參事院ノ決定書ニ揭記シタル日ヨリ經過セシムル場合アリ即チ陸運警察違犯ニ係ル者是ナリ八千百五十一年五月三十日ノ法律第二十五條末節ヲ看ヨ蓋シ以テ行政官ヨリ參議院ニ申訴スル期限ヲシテ經過セシムル爲メニ其送達ヲ必要トスルニ因テ生ス可キ費用ヲ省キタルナリ夫レ陸運警察違犯ノ主訴者タル行政官ハ之ヲ判決スル日ヨリ以來宜ク其判決ヲ了知シタル者ト推測ス然レヒ余ノ思惟スル所ニ從ヘハ此法律上ノ推測ヲシテ行政官ノ關係スル凡テノ訴件ニ推廣ス可カラス何トナレハ出訴權ヲ失フト法律上ノ推測トハ其輕重互ニ相償フヲ得サル者ナレハナリ

行政訴訟決定ヲ不服ナリトシテ參議院ニ申訴スル期限ヲ輕過セシムルニ充分ナル行政上ノ送達中ニ野警人ノ爲シタル送達千八百五十六年四月十六日プーヒニー選擧件判決及ヒ邑長ノ爲シタル送達千八百六十三年四月十三日ドグロマル件判決ヲ置カサル可カラス

ド、コルムナン氏ハ其著書第五版第一卷第五十七葉ニ於テ行政上送達方法ノ甚タ不規則ナルヲ論セリ抑上ニ擧ケタル區別ノ理由ハ果シテ如何ノ者ニシテ道理ニ基ケルヤ千八百六年ノ規則中ニハ固ヨリ此ノ如キ區別ヲ立テタル明文ナシト雖モ然レヒ其第十六條ハ以テ行政上ノ送達方法ヲ政府ニ許シタルノ論據トスルニ足ル夫レ第十六條ニハ宰相ヨリ參議院ニ申訴スル事件ハ行政上ノ程式ニ準シ政府官吏ヨリ諸書憑ヲ司法宰相ニ致セシヿヲ訴訟關係者ニ通知シ之ヲシテ其通閲ヲ爲スヲ得セシム可シト定ム蓋シ此第十六條ハ特ニ參議院ニ出訴シ

タル原決定書ノ送達方法ノミヲ規定セサルハ勿論ナレ𪜈本條ハ政府ノ許シテ代言人ヲ置キ使吏ヲ雇用スルヲ必要トセストナシ且ツ行政上ノ程式ニ準シ政府ノ名ヲ以テ爲シタル送達ヲ適法ト許シタルヤ明ケシ而シテ豫審中政府ハ代言人ヲ置キ使吏ヲ用ユルヲ要セストスルトキハ更ニ一歩ヲ進メテ政府ハ參議院ニ屬スル官衙ノ決定書ヲ送達スルカ爲メニ必シモ使吏ニ依賴セスシテ可ナリト推論スルモ決シテ不當ナラサル可シ凡ソ此等ノ場合ニ於テ政府官吏ハ其本務ニ依テ其擔任スル文書ヲ作リ自カラ之ヲ訴訟關係者ニ送移スルノ權ヲ有ス故ニ他ノ官吏ヲ經由シテ之ヲ行フヲ要セス況ヤ此行政上ノ送達方法ハ「本件ニ關係スル決定書ハ行政上ノ手續ヲ以テ關係ノ受許與者ニ送達ス可シ」ト明記シタル千八百三十八年四月二十七日ノ法律第二條第二節及ヒ陪審ニ係ル千八百四十八年八月七日ノ舊法律第六條第二節及ヒ

權限抵觸訴訟ニ係ル千八百四十九年十月二十六日ノ規則第二十二條及ヒ陸運警察ニ係ル千八百五十一年五月三十日ノ法律第二十四條第四節及ヒ其他ノ諸法律ニ依テ特ニ之ヲ確認スルアルヲヤ

加之ナラス行政訴訟ハ特例ニ因ルノ外行政訴訟裁判官タル性質ヲ有セサル所ノ行政官吏ヨリ即チ宰相等ヨリ發出シタル文書ニ對シテ之ヲ行ヘリ夫レ何事モ某ノ文書ハ行政訴訟手續ニ因テ參議院ニ申訴シ得ルヤ否ヤヲ勘定スルヨリモ難キハナシ此文書ヲ發出スル行政官吏モ自カラ其文書ノ參議院ニ申訴セラル可キ者ナルヤ否ヤヲ知ラサルヿ甚タ多シ故ニ行政文書ノ大半ハ使吏ニ依賴シテ送達セサル可カラサル可シ然レ𪜈此ノ如クスルトキハ遂ニ行政ノ進行ヲ妨ケ且ツ屢〻巨多ノ徒費ヲ政府ニ要ス可シ又行政訴訟ハ越權若クハ弄權若クハ程式破犯ニ係ル純粹ノ行政文書ニ對シテ起ス可ケレハ此等ノ文書ニ關シテ

ハ行政上ノ程式ニ於テ送達スルヿヲ許サヽル可カラス若シ否ラサレハ行政文書ハ悉ク其弄權若クハ程式破犯ナル可キノ故ヲ以テ皆使吏ナシテ送達セシム可シト謂ハサル可カラス是ニ由テ之ヲ觀レハ行政上ノ手續ヲ以テ送達スル方法ヲ以テ頗ル道理ニ基ケル者トス

人民相互ノ間若クハ會社ノ間ニ於ル文書ニ關スル場合ニ於テハ上ニ擧ケタル理由ノ一ヲモ適施スルヲ得ス千八百六年ノ規則ノ條中ニハ固ヨリ人民ヲシテ其相手方ニ豫審ノ文書若クハ現ニ申訴スル原決定書ヲ送達スル爲メニ官吏ニ依頼セサルヿヲ許セシ明文アラサルハ固ヨリ之アルヲ得サレハナリ何トナレハ人民ハ公ケノ職務即チ法ニ依テ其送達ヲ爲スカ爲メノ任ヲ有セサルニ因リ苟モ己レニ利ス可キ性格ヲ其送達ニ被フシムルヿヲ得ス故ニ普通法ニ循ヒ使吏ニ依頼スルヲ必要トス使吏ハ法ニ依テ送達等ノ務メニ任スル者ナリ是レ千八百

六年七月二十二日ノ詔書第四條末節ノ前段及ヒ第五十一條ニ依テ然ルナリ

前項ニ定メタル區別ハ參議院ノ新判決ニ依テ變更セリ新判決ハ邑并ニ人民ハ其相手方ヨリ參議院ニ申訴スル期限ヲ經過セシムル爲メニ使吏ノ特別送達ヲ要セストセリ（千八百四十一年一月二十九日ドシアンピニー件千八百五十一年五月二十四日プーパルダン件同年六月十四日グランジジエー件千八百五十三年五月十二日ウリザンム邑件同年七月十五日ジュプレッシー件千八百五十五年十一月二十二日グロー件判決等）抑官ノ爲メニ爲シタル行政上ノ送達方法ト人民ニ命シタル使吏ニ依頼スル送達方法トノ間ニ定メタル區別ヲ變更シタルハ何如ナル主意ニ基ケルヤ蓋シ千八百六年七月二十二日ノ詔書第十一條ニ用サタル「ノチフィエー」（送達セラレタルト云フ義）ルト云ヘル語ヨリシテ極メテ精微ナル議論ヲ惹出シ來リテ然ルナリ其論者ノ言ニ云ク「デシジョン、ノチフィエー」（送達セラレタルナル語ト「デシジョン、シニフィエー」（決定書ト譯ス）同義ニナル

語トハ其義ヲ相同フセス蓋シ「ノチフィカシヲン」ト云フノ義ニ止マレ「シニフィカシヲン」ト云フトキハ「決定書ノ正寫ヲ交付ス」ト云ヘル義トナルナリ是故ニ現ニ行フタル決定書ヲ通知スレハ則チ詔書第十一條ノ目的ヲ充タシタルナリト

參議院ハ上文ノ說ヲ益〻推廣シテ數年間左ノ如ク判決シタリ曰ク申訴期限ヲシテ經過セシムルニハ行政上ノ程式ニ從ヒ或ハ普通ノ書信等何レノ文書ヲモ之ヲ要セス唯〻相手方ノ代言人ニ決定書ノ旨ヲ通告スレハ則チ相手方ヲシテ此通告ノ定期限後ニ申訴スルヿヲ許サヽラシムルニ足ルト千八百五十年六月一日ルーシヲン件判決然ルニ判決彙纂者及ヒ著書家ハ頻リニ此判決ヲ非難セシカ頗ル其理アリトス（ルボン氏千八百五十年判決錄第六百四十一葉ジュブール氏著書第二卷第三百三十一項ヲ看ヨ）ルボン氏ノ書ニ政府ノ目代ド、フヲルカード氏ノ言ヲ擧テ曰ク唯〻決定書ノ旨ヲ通告スルハ以テ「ノチフィカシヲン」（送達ノ義上ニ見タリ）ニ充ツ可カラス又千八百六年ノ詔書ニハ「ノチフィカシヲン」云々トノミ揭ケテ使吏ヲシテ送達セシム可キ「シニフィカシヲン」（解上ニヲ行フヿヲ命スルヿナシ）是ニ由テ勝訟者ハ判決ノ旨ヲ裁判廳ニ於テ敗訟者タル相手方ニ知ラシムルヲ必要トス而シテ相手方トノ往復文書ニ於テ判決ノ旨ヲ通知スルヲ以テ充分ナリトス可カラスト

已上フヲルカード氏ノ說ハミュルース府件ニ係ル千八百五十三年十二月一日ノ判決アル以來參議院ノ採用スル所トナリタルカ如シ該判決ハ申訴期限ヲ經過セシムル爲メニ別ニ文書送達ヲ要セス唯〻普通ノ通告ノミニシテ足レリトスル舊判決ヲ稍〻排斥シタル者ニシテ即チ千八百六十三年一月二十二日ノミロン件ニ於テ政府ノ目代ローピタル氏ノ據憑セシ所ノ者是ナリ氏ノ言ニ云ク今引用スル所ノ此最終ノ判決ハ十年來曾テ變更セス參議院諸君カ訴者ヲ以テ殆ト充分ニ判決ノ旨ヲ

知得シ殆ト明白ニ之ヲ知了セリトスルヲ拒否シ且ツ爭論ノ門ヲ閉ツルカ爲メニ諸君カ相手方ノ充分ニ論難ス可キ文書（即チ決定書）ヲ之ニ交付セシムヲ欲シタルハ頗ル當然ノ理ニ合シ且ツ行政訴訟權ヲ大ニ重ンズルニ因テ然ルナリ是故ニ諸君ハ「ノチフィカシチン」ヲ命スル然レモ民事訴訟法ノ「ノチフィカシチン」ヲ命スルニ非ス何トナレハ行政訴訟ニハ確定不變ノ程式ナケレハナリ故ニ其「ノチフィカシチン」ハ完備シテ且ツ送達ヲ受ク可キ者ノ相手方若クハ「ノチフィカシチン」ヲ爲スノ職ニ在ル官吏ヨリ發出スルヲ以テ充分ナリトスト（千八百六十三年ルポン氏判決錄第六十四葉ヲ看ヨ）千八百六六年ノ詔書第十一條ニ用ヰタル「ノチフィエー」ナル語ト「シニフィエー」ナル語トハ互ニ其意義ヲ異ニストハ果シテ實ナルヤ姑クミラン判決錄中ニ此兩語ニ下シタル解釋ニ從ヘハ聊カ疑フ所ナキヲ得ス此判決錄「ノチフィカシチン」ノ條ニ曰ク「ノチフィカシチン」トハ裁判上ノ程式ニ於テ某件ヲ通知スル事ナリ又其「シニフィカシチン」ノ條ニ曰ク「シニフィカシチン」トハ裁制上ノ手續ニ因テ某ノ判決某ノ文書ノ「ノチフィカシチン」ヲ爲スヿ即チ「通知ノ」ヲ爲スナリト是ニ由リ「シニフィカシチン」トハ「相圖ヲ爲スヿ」即チ「通知ヲ爲ス」ノ謂ニシテ「ノチフィカシチン」ト其義殆ト相異ナルナキヲ知ル余ノ思考スルニ據レハ此ノ如キノ見解ハ千八百六年七月二十二日ノ詔書第十一第五十一ノ兩條ヲ參互斟量シテ生セシナラン何トナレハ此兩條ニハ隨意ニ「シニフィカシチン」若クハ「ノチフィカシチン」ナル語ヲ互用スレハナリ更ニ熟鑑ミレハ詔書第十一條ハ兩造ノ中ヨリ參議院ニ起訴スル事ト題スル款中ニ在リ而シテ該款ハ「宰相ノ申報ニ因テ起シタル行政訴件ニ係ル特例」ト題スル後款ト相對照セシメタル者ナリ然ラハ則チ此第十一條ニ揭ケル送達ノ方法ハ人民ヲ以テ勝訟者トスル決定書及ヒ行政官吏ヲ以テ勝訟者トスル決定書ニ併セ施サヽル可カラ

ス何トナレハ本條中ニハ送達セラレタル決定書ニ由テ勝訟者トナリタル者ノ身分ニ隨テ苟モ差別ヲ立ツルヿ決シテ之アラサレハナリ是故ニ本條ヲ據トシテ三ケ月ノ申訴期限ヲ經過セシムルニ充分ナリト觀察シタル「ノチフィカシヨン」ノ特權方法ヲ官吏ノミニ限ラント欲スルハ頗ル其當ヲ失ス今假リニ多少ノ特例ヲ第十一條ニ存スルアリト定ムルモ其特例ハ都テ人民ノ爲シタル「ノチフィカシヨン」ト官吏ヨリ人民ニ爲シタル「ノチフィカシヨン」トニ通シテ適施セサル可カラス

法律ノ力ヲ有スル千八百十二年四月十七日ノ詔書ハ「ノチフィエー」及ヒ「シニフィエー」ノ兩語ヲ異別センカ爲メニ近時想定シタル精微ナル誤謬ヲ看破セリ該詔書中言ヘルアリ曰ク凡ソ純然タル行政文書ハ上官ヨリ下官ニ送付スルヲ以テ之ヲ執行セシムルニ充分ナリトスレヒ所有ノ爭ヲ判斷スル參事院ノ決定書ハ之ト同一視ス可カラス又此等ノ決

定書ハ即チ裁判宣告書ナリ故ニ其期滿得免若クハ其控訴ス可カラサル裁判ノ力ハ勝訟者ニ於テ先ツ法ニ適シテ該決定書ヲ送達シ且ツ法律及ヒ規則ニ依テ定メタル「シニフィカシヨン」ノ期限後ニ至リテ始メテ其効アル可キヿヲ熟考シ云々ト豈ニ明白ナラスヤ

參議院ニ申訴スル期限ヲ經過セシムルニ必要ナル送達方法ニ關シ余ハ千八百六年ノ詔書ニ就キ如何ナル見解ヲ下スヤヲ左ニ辯セン余ハ「ノチフィエー」及ヒ「シニフィエー」兩語ノ意義ニ係ル精微ノ論即チラブレー氏カ名ケテ「微妙ノ空論」トナス可キ者ヲ姑ク置キ千八百六年ノ詔書第四條末節ノ前項及ヒ第五十一條ニ據テ左ノ如クニ判斷ス可シ曰ク凡ソ人民相互ノ間ニ於テハ送達通照ノ性質如何ヲ論セス皆使吏ニ依賴シテ送達ヲ行フヲ要ス故ニ第十一條ノ期限ヲシテ人民相互ノ間ニ經過セシメントスルニハ一般ニ此程式ニ循ハサル可カラス然レモ同上

ノ詔書第十六第十七條其他ノ諸法律及ヒ規則アルニ因リ政府ハ獨リ通照送達ヲ爲スカ爲メニ常ニ使吏ニ依賴スルヲ要セス故ニ行政上ノ程式ニ循ヒ總共ノ手段ヲ以テ即チ其公衆ニ關スルトキハ法律全書貼示公布ノ書等ニ送達書ヲ登記シ其人民、會社、邑等ノ如キ一個ノ訴者ニ通照送達スルトキハ普通ノ文書通告ノ手段ヲ以テシテ足ル可シト

右ニ定ムル所ノ如クナルトキハ人民ノ間ニ於テ使吏ヲシテ送達ヲ爲サシムルニ當リ決定書ノ全文ヲ正寫セシ者ヲ以テスルニ非サレハ出訴期限ヲ經過セシムルノ効ナキヤ否決シテ然ラス詔書第十一條ニハ毫モ此ノ如キヿヲ命スル明文ナキカ故ニ余ハ參議院ニ全權ヲ附シ之ヲシテ使吏ノ送達シ若クハ行政上ノ手續ヲ以テ送達セル決定書ノ寫本ニ載スル所ハ果シテ之ヲ領收シタル訴訟關係者ニ出訴ヲ催促シ及ヒ其出訴シ得ルニ充分ナル者ナルヤ否ヤヲ判定セシム可シ政府ノ目代タルド、フォルカード氏ハ參議院ノ判決ニ依テ一方ニハ唯、決定書ヲ知了スルノミヲ以テ送達ノ効アル者トセス他ノ一方ニハ使吏ノ特別送達ヲ必要トセスト辯言シ了リ更ニ左ノ一節ヲ附陳セリ曰ク確的ト思惟スル此兩方ノ點ノ中間ニ於テ參議院ノ判決ハ左ノ場合ニ於テ決定書ヲ送達シタルト觀察ス即チ勝訟者タル一方ヨリ該決定書ニ載スル所ヲ相手方ニ通知セシムルニ裁判上ノ證書若クハ裁判外ノ證書ヲ以テスル時是ナリ（アクト、ジュジシエール、アクト、エキストラジュジシエール）（ルボン氏著千八百五十五年ノ判決錄第六百五十八葉）

參議院ハ相手方ニ送達シタル請牒及ヒ本院判決書ニ參事院ノ決定書ヲ登錄スルヲ以テ該決定書ヲ特ニ送達スルニ同シト觀察セリ千八百五十八年十二月二十三日（ユレゲウ件判決）然レトモ舊判決ハ爲メニ全ク廢棄セラレス參議院ハ猶ホ左ノコトクニ判決セリ即チ第一ニ參事院決定書ノ副本ヲ得タルヨリ三月ノ後ニ致セル申訴ハ受理ス可カラストセリ千八百五十四年十二月二十八日ジナ

リベー件判決 蓋シ參議院ハ此副本ヲ以テ相手方ニ辯明ヲ爲スニ足ル者ト思惟スルヿ敢テ疑フ可カラサレ𪜈是レ眞ノ送達文書ニ非ラス第二ニ弄權ニ係ル申訴ノ期限ハ邑ニ對シテ邑會ノ開會ノ日ヨリ經過ス此開會ハ邑會ニ於テ其申訴ノ目的タル決定書ノ通照ヲ得タル日ナリ千八百五十九年十二月八日サン、ピエル、ド、スミリー邑件判決 此ノ如キハ送達文書ヲ要セスシテ唯、決定書ヲ知了スルノミヲ以テ足レリトスル舊判決ノ主意ニ復ルニ非スヤ

又一方ヲ顧ミレハ邑ト邑ノ建築者トノ間ニ起レル爭訟ニ係ル決定書ヲ參議院ニ出訴スル期限ハ唯、邑長ヨリ該決定書ヲ邑會ニ知會スルノミニ因テ經過セス必ス該決定書ヲ送達シタルヲ要ストセリ千八百五十八年七月三十日ボーフチル邑件判決 今如何シテ送達文書ナク𪜈唯、決定書ヲ知了スルノミヲ以テ足ルトスル舊判決ヲ採レル前段ノ兩判決ト茲ニ擧クル所ノ判決トヲシテ並ヒ行ハレテ相悖ラサラシム可キヤ恐ラクハ人々大ニ之ヲ解クニ苦マンノミ

參議院ハ一般定規トナル可キ方法ニ於テ千八百六年七月二十二日ノ詔書第十一條ヲ說明スル所ノ千八百十二年四月十七日ノ詔書即チ法律全書ニ登記シタル者ニ背キテ實ニ痛ム可キノ混雜ヲ生シタリ何ソヤ曰ク以上論スル所ノ如クナルヲ以テ今日ハ行政裁判ニ於テ一モ安固ニシテ信ヲ置ク可キ者アラス即チ何レノ場合ニ於テ決定書ヲ以テ法ニ適シテ送達ストシ何レノ時ニ於テ法ニ適セスシテ送達スルトスルヤヲ知ルニ堪ヘタル規則ナキ是ナリ是レ行政裁判ノ司法裁判ニ劣レルノ原因ニシテ最モ詳カニ行政法ヲ研究セシ者ト雖モ某々ノ決定書ヲ以テ控訴ス可カラサル裁判ノ力アル者ト明言スルヲ得サルナリ」

法律上ニ於テ何レノ送達ヲ爲サヽルモ出訴期限ヲシテ經過セシムルノ場合アルヿ左ノ如シ

第一　陸運警察ニ係リ千八百五十一年五月三十日ノ法律ニ開載スル場合

該法律第二十五條第三節ニ云ク行政官ノ名ヲ以テスル出訴ハ決定書發出ノ日ヨリ三ケ月内ニ於テス可シト

第二　邑選擧ニ對スル訴訟ノ場合

千八百五十五年五月五日ノ法律第四十五條ニ云ク參事院ニ於テ州廳ヨリ書類ヲ領受スルノ後一ケ月内ニ決定書ヲ發出セサルトキハ其訴訟ハ却下セラレタル者ト看做スト蓋シ參事院ヨリ決定書ヲ發出セサルニ由テ參議院ニ申訴スルニ當リテヤ其出訴期限ヲ經過セシムル爲メニ宜ク送達スヘキノ決定書ナキヿ明ケシ

第三　千八百三十一年四月十八日ノ法律ニ開載スル場合

該法律第二十七條ニ云ク第一期拂出前ニ決算ノ主意ノ通告ヲ得

タレハ此第一拂出ノ日限ヨリ三ケ月内ニ退老金ニ係ル訴訟ヲ起スヲ要ス若シ此期限ヲ過クレハ出訴權ヲ失フ可シト

政府及ヒ政府ノ名代人タル行政官ノ爲メニ許シタル行政上ノ手續ニ準スル送達方法ハ邑ノ爲メニ亦之ヲ許スヲ得ルヤ蓋シ千八百六年七月二十二日ノ詔書第十六第十七條及ヒ諸法律幷ニ規則ハ唯宰相ノ申報ニ因テ豫審セル事件若クハ政府ニ關係スル事件ノミヲ載セ邑若クハ州ニ關係スル事件ニ及ハス然レヒ參議院ノ判決ハ行政上ノ送達方法ヲ邑ニ適施セリ況ヤ純然タル行政官ノ一支派ニシテ且ツ法律ニ依リ漸ク政府ニ與ヘタル利益及ヒ特權ヲ享有スル所ノ州ニ於テヲヤ此送達方法ヲ適施ス可キヿ固ヨリ論ナキナリ（千八百五十三年一月六日ジアクー件同年二月十七日ジエグレシー件判決千八百五十四年四月六日セーヌ州件判決ノ論據等）

余ハ狗税本色税等ノ如キ直税ト看做セル租税ニ係ル事件ニ於テ因ヨ（プラジチン件同年七月十五日プレスタシヲン、アンハナチユル）

リ同上ノ送達方法ヲ許認スト雖モ獨リ參事院ノ職權ニ入ル可キ所有ニ係ル問題ニ關シテハ頗ル之カ見解ヲ爲スニ苦ムヲ覺ユ竊ニ惟フニ僅ニ行政上ノ手續ヲ以テ決定書ノ送達ヲ得テヨリ三ケ月內ニ參議院ニ出訴セサルノ一事ヲ以テ邑ノ相手方ニ對シ法律上ニ明文ナキニ依リ出訴權ヲ失フ可シト宣告スルハ甚タ苛酷ナルカ如シ是レ宜ク參事院ニ關スル後來ノ法律ニ於テ規セサル可カラサルノ點ナリ

參議院ニ出訴スル期限ヲ經過セシムルニハ參事院決定書ノ全文ヲ謄寫送達スルヲ必要トセス唯其本文ノミヲ送達スレハ乃チ足ル(シスポジチフ)鄉路補助金ニ係ル件ノ判決即チ是ナリ千八百六十二年七月四日ビルユク件判決

結社セル數名ノ請負人相連帶シテ公ケノ土工ヲ請負ヒタルトキハ請負ニ關スル爭訟ヲ判斷シタル參事院ノ決定書ヲ數請負人中ノ一名ニ送達スルヲ以テ全請負人ニ對シ出訴期限ヲ經過セシムルノ効アリトス

參事院ニ對シ本人幷ニ結社員等ノ名ヲ以テ從事スル代人ノ住所ニ向ケテ結社員中ノ一名ニ致セル適法ノ送達モ亦同シ千八百六十一年一月十日アルチゾニ件判決

訴者二名ノ爲メニ決定書ヲ發出シタル時其一名ノ求メニ因テ爲シタル送達ハ未タ送達ヲ行ハサル他ノ一名ノ爲メニモ亦出訴期限ヲ經過セシムルノ効アル可シ千八百五十二年八月十三日ルノー件判決及ヒ之ニ反對スル千八百三十年五月五日ラエー件判決ヲ看ヨ

行政官ニ許シテ行政上ノ手續ヲ以テ決定書ヲ送達セシムルノ方法ハ或ハ政府ノ爲メニ反リテ不便ヲ生スルヿアリ何ソヤ信書ニ由テ決定書ノ送達ヲ得タル者ハ往々此送達書ヲ隱蔽シテ未タ之ヲ領受セスト主張シ出訴期限後ニ至リ敢テ行政上ノ決定ヲ控訴スル是レナリ此場合ニ於テ其控訴ヲ効ナシト訴フ可キ所ノ政府ハ始メニ決定書ノ送達

ヲ爲シタル日子ヲ證舉シテ其出訴期限ノ既ニ經過シタルヿヲ辯明セサル可カラス然ルニ政府ハ自カラ此送達書ノ原本ヲ所持セサルニ由テ遂ニ敗訟ニ至ルノ例尠カラス千八百三十八年一月二日グルユテー件同年四月十二日レー件判決等ヲ看ヨ故ニ此時ニ當リ出訴期限後ニ訴フル者ニ於テ參議院ニ出スルヨリ三ケ月前ニ決定書ノ送達ヲ得タルヿヲ確認シタルヤ千八百三十七年七月二十六日ルメール件判決將タ該決定書ニ循ヒ現ニ之ヲ執行シタルヤヲ據證スルニ非サレハ宰相ハ勝訟者タルヿヲ得ス蓋シ右二者ノ一ヲ據證スレハ隨テ其控訴ハ受理セラレサル可シ訴訟法第四百四十三條第三節ノ論據凡ソ此ノ如キノ不便ヲ避ケンカ爲メニ行政官吏ハ決シテ忘却ス可カラサル簡易ノ用意ヲ爲スヨ往々ニシテアリ即チ其送移スル決定書ノ副本中ニ送達書ヲ附記スル是ナリ此ノ如クスルトキハ參議院ニ該決定書ヲ控訴スル者ハ必ス該決定書ノ副本ヲ呈セサルヲ以テ之ト共ニ其送達ヲ得タル證據

ヲ出シテ遂ニ其出訴期限ニ遲レタルヿヲ覺舉セラル可シ加之ナラス千八百二十一年十二月十二日ノ王勅第二條及ヒ千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第六條及ヒ千八百六十二年五月三十一日ノ詔書第五百三十二條ニ定ムル所ニ據リ決定書ヲ送達セラレタル者ニ其受領證書ヲ出ス可シト命スルヲ得ヘシ且ツ行政官ノ名ニ於テスル送達ハ送達シタル決定書ノ副本ニ邑長ノ手記署名スル者ヲ以テ充分ナル證據ト爲スニ足レリ千八百五十四年七月二十日ジュジュー件判決郵便ニ附シテ決定書ヲ送達シタルヿヲ行政官吏ノ備フル簿冊ニ記錄スル者ヲ以テ其送達ヲ爲シタル充分ノ證據トス可カラス千八百三十九年六月二十日ジュクレー件判決該訴件ニ係リ宰相ハ其申述スル所ヲ支柱センカ爲メニ其文書ハ既ニ郵便ニ附シテ寄送シ今日ノ判決アル迄十年間ノ久キヲ經レトモ出訴者タルジュクレー氏ハ未タ曾テ此事ヲ言ヒ出サスト論辯セシ

カトモ遂ニ却ケラレテ用サラレス何トナレハ郵書ハ往々受取人ニ到達セサルヿアルヲ以テ法ニ適スル送達ノ證據トスルニ足ラサル場合アレハナリ千八百六十二年十二月二十六日サール件判決

行政官ノ公用文書ノ名ヲ以テ送達書ヲ封入スル州廳文書ヲ局ノ使丁ヨリ相手方ニ交付シ相手方ハ其領收票ヲ出セル時ノ外宰相ノ決定書送達ヲ以テ法ニ適スト觀察セス千八百五十六年八月十八日シュグローー件判決本文ニ述フル所ニ反對スル千八百六十年五月二十三日トーパン件判決ヲ看ヨ此千八百六十年ノ判決ハ方ニ控訴スル參事院ノ決定ヲ通告セル直稅事務長ノ文書ヲ納租者ニ交付セシト認ムル邑長ノ保證書ハ以テ出訴期限ヲ經過セシムルニ充分ナリト判定セリ

余以爲ク若シ此文書ヲシテ果シテ保證ヲ爲セル邑長ヨリ直チニ交付シタルナレハ該判決ヲ以テ極メテ至當ノ者ト爲ス可ケレトモ其實之ヲ交付セシハ府ノ使丁ニシテ邑長ハ唯之ヲ保證セシノミ此ノ如クニ實

施スルトキハ大ニ通規ヲ破ルト謂フ可シ千八百六十三年八月十三日クロマル件判決

參議院ハ政府ノ爲メニ出訴期限ヲ經過セシムル所ノ送達方法ニ關シテ極メテ容易ニ見解ヲ下セリ

第一　參議院ハ王勅ヲ法律全書ニ登錄スルニ因テ出訴期限ヲ經過セシムルヿヲ許セリ例ヘハ退老金清算ニ關スル王勅千八百三十七年四月二十三日クルレモン、トヲール件判決其他ノ諸件ヲ判定セル王勅千八百三十九年七月一日フェルミー件千八百四十九年六月九日ドカルボン件判決ノ登記ニ係ル件ノ類是ナリ此レ所謂「何人モ法律ヲ知得セスト豫定シ難シ」ト云ヘル格言ヲ適施セル者ニシテ法律全書ニ載セテ之ヲ公告スレハ凡テノ關係者ニ一々送達スルニ均キ効アリトスルニ因ル

第二　是ニ由テ推考スレハ參議院ニ控訴ス可キ決定書ヲ既ニ執行スルニ於テハ本院ニ對スル出訴期限ヲシテ經過セシム可キヿ固

ヨリ論ヲ待タス千八百四十六年五月十二日ラバル府件判決ニ於テ該決定書ヲ詳知スルト想定ス可キ所爲アレハ乃チ出訴期限ヲ經過セシムルニ足ル千八百四十六年五月二十七日レンス府件千八百四十八年四月十日ブレエノ件千八百五十年三月二十三日ラフアルグエ件同年十一月三十日ボレー件判決千八百五十四年五月十八日ピサン件千八百五十四年五

第三　公利ニ關スト公告スル詔書ハ千八百四十一年五月三日ノ法律第二編ニ依リ定メタル程式ニ準シ邑内ニ其公告ノ日ヨリ三ケ月ノ後ニ至リ邑ヨリ之ヲ訴フヲ得ス千八百五十年十二月十四日バチグヲル邑件判決

參事院ノ判決書ニ關シテハ如何ソカ之ヲ判定スルヤ縱令其行政官ノ爲メニ爲シタル時ト雖モ必ス使吏ヲシテ之ヲ送達セシム可キヤ或ハ前項ニ論スル如ク政府ノ爲メニ爲シタル決定書ト各個人若クハ各個人ト看做セル會社ノ爲メニ爲シタル決定書トノ間ニ定メタル區別ヲ今之ニ移用ス可キヤド、コルムナン氏ノ說ニ從ヘハ參事院ノ判定書ハ

裁判宣告書ト看做スカ故ニ其出訴期限ヲ經過セシムルカ爲メニ必ス使吏ノ送達ヲ要ス氏著書第五版第一卷第二百一葉ヲ看ヨ此點ニ就キド、コルムナン氏ノ論ハ參議院ノ判決ト相反背セリ而シテ氏カ引證セル所ノ參議院判決ハ皆行政官ノ其訴訟ニ關係セス且ツ決定書ヲ送達セサリシ場合ニ於テ宣告シタル者ナリ若シ夫レ參事院ノ決定書ニシテ行政官ノ爲メニ爲シタル所ノ者ハ皆參議院ニ於テ判決シテ之ヲ行政上ノ程式ニ準シ送達スルヲ以テ出訴期限ヲ經過セシムルニ充分ナリトセリ千八百三十七年七月十九日メイエー件同年十月二十七日ベルタン件千八百三十八年七月十八日ラバル件千八百四十年八月六日ロシュソン邑件判決千八百五十一年七月十五日破毀法院裁判及ヒ陸運警察ニ關スル千八百五十一年五月三十日ノ法律第二十四條第四節ヲ看ヨ

三ケ月ノ出訴期限ハ政府、邑、貧院、幼年者其他ノ特權ヲ有スル者ニ對シテ經過スルハ是レ不變ノ判決ノ點ナリ而シテ其故何如トナレハ蓋シ政府、邑及ヒ公舍ニ關シテハ苟モ疑團ヲ懷ク可キノ理ナシ即チ此三者

ハ人民ト同一ノ期滿得免法ニ制セラルレハナリ（民法第二千二百二十七條）然レ𪜈幼年者ニハ民法第二千二百五十二條ニ依リ特權ヲ與ヘタルヲ以テ此ノ如キ短縮ナル期滿得免法ヲ之ニ適施セス（民法第千六百六十三第千六百七十六第二千二百七十八條訴訟法第三百九十八條ヲ看ヨ）況ヤ今論スル塲合ニ於テヲヤ亦當ニ其期限ヲ舒長セサル可カラス夫レ爭訟ハ早ク局ヲ結フヲ要スルカ故ニ社會ハ人民ノ公益ニ背キ爭端ヲシテ斷ヘサラシム可キ所ノ特權ヲ與フ可カラスト雖モ今論スル所ノ塲合ニ際シ參議院ノ判決ハ後見職監督人ニ送達ヲ爲セル日ヨリ幼年者ニ對スル控訴期限ヲ經過セシムル訴訟法第四百四十四條ヲ採取スルヲ得ヘケン然ルニ千八百十七年五月十四日ノ判決ハ訴訟法ノ該條ヲ以テ參議院ニ申訴スル塲合ニ適施ス可カラスト宣告シタリ

三ケ月ノ期限滿盡ノ後ニ參議院ニ申訴シタルニ因テ生スル訴訟權失却ハ公ケノ秩序ニ關係アルヲ以テ宜ク官ヨリ命シテ既ニ訴訟權ヲ失ヘリトスルヲ得ルヤ千八百二十六年六月七日ドウッチニー件千八百四十七年四月八日ルージュモン件千八百五十年一月十二日モンジエー貧院委員件同年七月六日ミュリアン件ニ係ル參議院ノ判決ハ明白ニ之ヲ然リト宣告シタリ又彼レハ實ニ皇帝ノ代人ナリ」ト云ヘル格言ニ循ヒ參議院ハ命シテ之ヲ受理セシメサラシムルヲ得ヘシ蓋シ行政訴訟ノ議ニ參會スル國長ハ政府ヲ被告トシテ期限滿盡ノ後ニ出訴スル者アル時ニ當リ其屬吏ノ決定改止ヲ請求スルヲ拒否ス可キ權利ヲ有ス」千八百四十九年三月三日ノ法律ヲ行フノ際同年六月九日ド、カルボン件ニ係ル參議院判決ニ就キ政府目代ヨリ上文ニ論スル所ノ者ニ關スル一ノ問題ヲ生シタリ當時政府目代ノ言ニ曰ク舊法ヲ行フノ時ハ該問題ニ就テ曾テ疑團ヲ生セス何トナレハ參議院ヲ以テ皇帝ノ名代

人ト觀察ス可キカ故ニ本院ハ其職務ヲ以テ行政官ニ便益ナル凡テノ手段ヲ適用シテ疑ハス參議院ニ關スル新法律ヲ行フニ當リテモ亦舊時ニ同シカル可シ蓋シ新法ハ其設立スル所ノ新法衙（即チ參議院）ニ對シ人民ノ有スル所ノ保障ヲ一層鞏固ニセンコトヲ目的トシタルハ勿論ナレトモ爲メニ決シテ行政官ニ久ク與ヘタル所ノ保障ヲ滅殺セサルコト確トシテ疑フ可カラスト此請牒ハ遂ニ上ニ引キタル參議院判決ニ因テ採取セラレタリ（千八百五十年一月十二日モンジエー貧院委員件同年一月十九日ボルチー邑件判決）況ヤ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書發布以降ヲヤ固ヨリ當ニ舊時ニ異ナラサルヘキナリ抑參議院ノ判決ハ歴史上ノ前例ニ適合ス蓋シ最古ノ時ハ訴狀扱役ナル者アリテ國王ノ側ラニ侍シ國王ニ上ツレル訴狀ノ受理ス可キヤ否ヤヲ調査シテ其成規ニ循ハサル者ト受理ス可カラサル者トヲ却下スルヲ任トセリ今新法ニ於テ即時却下ヲ確認シタルニ因リ隨テ職務ヲ以テ訴狀ノ受理ス可キト否ヤトヲ調査スルノ權ヲ生セシナリ

破毀法院ニ於テモ亦前段ニ論スル所ニ同シ宜クニシアガイアル氏カ如何ンニ該法院ニ訴訟權失却ノ宣告ヲ行フノ權アルコトヲ辯明セシヤヲ下ニ見ルヘシ氏ノ言ニ云ク所謂私利ナル者ハ破毀法院ニ於テ極メテ狹小ナル位所ヲ占ム夫レ爭論ノ點ハ上告セラレタル原裁判ト侵犯セラレタリト主張スル法律トノ間ニ在リ此事ニ就キ上等法衙（即チ破毀法院）ハ何事モ皆公ケノ秩序ヲ主眼トスルト謂フヲ得ヘシ是故ニ上等法衙ハ其職務ヲ以テ些細ナル程式ノ違戻ヲ摘舉シ及ヒ普通裁判所ナレハ論ヲ待タスシテ訴訟法第百七十三條ヲ適施ス可キ招喚狀ノ取消ヲ命スト（千八百六十三年五月二十日破毀法院裁決ヲ看ヨ）敗訟者ハ首タル決定書ニ對スル控訴期限ノ滿盡スルニ由テ受ケタル

訴訟權失却ヲ回避スルカ爲メニ第一決定書ヲ執行セシメソトシテ宣告シタル第二決定書ニ對シテ控訴ヲ爲シ併セテ第一決定書ニ對シテ不服ヲ訴フアリ然レトモ二箇以上ノ決定書ヲ合セ訴フル者ハ受理スヘカラスト宣告シタルヿハ明白ニ載セテ參議院判決書ニ在リ千八百五十四年一月五日クーレー件同年八月二日ジュラン件千八百五十七年十二月十日マルタン及ヒパスチド件千八百五十八年二月四日フレーシュ件千八百五十九年三月十七日リチーシコ件千八百六十年一月五日ド、ルュルサルム件判決但シ第一決定書ハ假ノ決定タルニ止マルトキハ此限ニ非ス千八百六十二年一月三十日テーセール件判決

訴訟法第四百五十一條ノ主義ハ參議院ニ屬スル官衙ノ決定書ニ適施ス可シ是故ニ本案ニ關セサル豫審決定書ノ控訴期限ハ之ヲ送達セル日ヨリ數ヘスシテ本案ノ確定裁判ノ日ヨリ數フ千八百二十六年七月十九日パチュレル件千八百五十三年一月二十七日ウッソン ジュー件判決共和曆第四年霧月二日ノ法律第十四條然レトモ本案ニ關スル豫審決定書ハ其送達ノ日ヨリ三ケ月內ニ控訴スルヲ得千八百十七年十二月三日ダントン件判決

訴訟法第四百四十七條ニ掲ケル規則モ亦同ク參議院ニ屬スル官衙ノ決定書ニ適施ス可シ訴訟法ノ該條ハ敗訟者ノ死去ニ因テ其相續人ニ送達ヲ爲スノ日ニ至ルマテ控訴期限ヲ停止セリ千八百三十三年八月十八日レニエー件判決

不服トシテ控訴セラレタル決定書ノ本文ノミヲ以テ該決定書ノ判決ヲ搆成セル者トス故ニ宰相ハ決定書ノ本文ニ關セス特ニ其理由ノミニ對シテ出訴スルヲ得スリ千八百五十一年二月八日ツールヨリナントニ至ル鐵道會社件判決行政官若クハ邑ヲ勝訟者トスル決定書ニ對シ人民ヨリ出訴スル場合モ亦同シ千八百五十五年四月十九日コルシエー件判決

參議院ハ本院ニ控訴セル決定書ノ送達ヲ無効トスル訴即チ無効トスルニ由テ三ケ月ノ出訴期限ノ經過ヲ沮止スル訴ヲ裁判スルノ權ヲ有ス是故ニ參議院ハ邑ニ對シテ沮達ヲ爲シタレトモ訴訟法第六十九條第五項及ヒ第七十條ニ依準シ邑長若クハ副邑長ニ於テ該送達書ニ檢署

セサル者ヲ無効ト宣告スルヲ得千八百二十三年七月二十三日マンステー一件判決トスルノ訴ニノ送達書ノ外面ノ程式ニ係ル者ハ爲メニ疑團ヲ生スルナシト雖モ若シ出訴期限ノ三月ケ内ニ控訴セサルニ由テ其權ヲ失ヒタリトセラレタル控訴者ニ於テ其本住ニ向ケテ原決定書ヲ送達セサルカ故ニ之ヲ無効ナリト主張スルキハ前ニ論スル所ト同一ナルヤ否ヤ此送達ノ法ニ適スルト否ヤトハ之ヲ相手方ノ本住ニ爲シタルト否ヤトヲ認知スルノ點ニ屬スルヲ以テ宜ク先ツ普通裁判所ヲシテ住所ニ係ル問題ヲ判定セシメ而ル後參議院ニ於テ送達ノ適法ト否ヤトヲ判決スヘキヤ蓋シ參議院ノ判決ハ現ニ此ノ如クニ該問題ヲ分解シタリ千八百三十六年四月六日ゲーノドタラテル件判決トロレー氏モ亦其說ヲ同フセリ氏著書第五卷第二千二百八十三項ヲ看ヨ是レ住所ハ普通法ノ方法ニ因テ之ヲ得及ヒ之ヲ失フカ故ニ普通裁判所ニ於テ擔保スル者タルニ由ルナリ然レトモ余ハ此判決ヲ以テ本然ノ主義ニ違ヒ最モ重大ナル弊害ヲ生ス可シト思惟ス何カ故ニ乃チ然ルヤ他ナシ行政裁判所ニ對スル訴件ニ係ル訴訟手續ハ法ニ適シ則ニ遵フ者タレハナリ凡ソ裁判所ハ何事ヲ論セス之ニ訴ヘ來レル訴訟手續ノ裁判官タラサル可カラス是レ正ニ本訴ノ裁判官ハ猶豫訴訟ノ裁判官ナリト言ヘル原則ヲ適施ス可キ場合ナリ此ノ如キ場合ニ於テ參議院ハ唯送達ノ法ニ適スルト否ヤトニ關係シテ住所ヲ勘査スルノミ故ニ住所ハ送達ヲ不適法トスルノ一手段タルニ止マリ控訴ス可カラサル裁判ノ力ハ住所ノ上ニ在ラスシテ不可受理ノ上ニ在リ故ニ此點ニ係ル決定ハ是ヨリ後兩造ノ間ニ住所ニ就テ論議ヲ起スノ障碍ヲナサヽル可シ若シ果シテ余ハ反對スル論說ノ如クスルキハ訴者ノ一方ハ其住所ニ送達セラレサルヲ名トシテ送達書ノ不法ヲ論シ隨意ニ行政訴訟ノ進行ヲ妨止スルヲ得ルニ至ル可シ其本然ノ主義ニ

反シ且ツ訴訟手續ノ駿速ナルヿヲ欲スル規則ノ精神ニ背クヿミナラス其弊ヤ訴訟ニ訴訟ヲ累テソトス實ニ其謂レナキナリ

規則第十一條ハ定書送決達ノ日ヨリ三ケ月ノ後ニ起シタル凡テノ控訴ヲ全ク受理ス可カラスト定メタルカ故ニ參議院ハ不服トスル決定書ヲ送達セシムル者ニ對シテ亦此出訴期限ヲ經過セシム可シト判定シテ民事訴訟ノ原則即チ「人ハ躬身ヲ出訴權ヲ剝カス」ト云ヘル者ヲ許認セス千八百三十年四月二十一日内務省件千八百三十九年十二月二十六日クリソン件千八百四十二年七月十五日ラフレナイエー件千八百五十一年十一月十五日ボシチー件判決是ニ由テ參議院ハ法律全書ニ登載スルニ因テ法律タル力ヲ有スル千八百十二年四月十七日ノ詔書ノ條則ヲ犯セルヿ明々タリ

州長ノ行フタル參事院決定書ノ送達ハ宰相ニ對シテ其出訴期限ヲ經過セシム千八百五十一年六月二十八日ゴースラン件同年十一月十五日ボシチー件同年十二月十二日アンヌトン件千八百五十四年一月十二日セラシエ件同年七月二十日ダジウ件判決千八百五十一年四月十日カルチエー件判決何トナレハ州長ハ中央シメタル場合モ亦同シ六日カ

行政官ノ名代人タレハナリ然レトモ州長ノ行フタル普通ノ送達ハ宰相ニ於テ之ヲ承認セル者ト主張スルヲ得ヘカラス千八百三十二年十月二十四日フレーキス件判決故ニ州長ハ送達セシムル爲メノ任ヲ有スト看做サルレトモ之ヲ承認スル爲メノ任ナキナリ千八百五十二年二月十八日モリーズ件判決然レトモ陸軍省ノ名代人タル會計監督ニ對シ勝訟者ヨリ致セル行政裁判宣告書ノ送達ハ以テ陸軍宰相ニ與ヘタル三ケ月ノ出訴期限ヲ經過セシム千八百四十七年八月二十日コーサチル件判決鄕路扶助金ニ關シテ政府ヲ敗訟者トスル參事院決定書ヲ森林保護官ニ送達スル者モ亦同シ千八百六十一年五月二十二日大藏省件判決但シ此見解ハ宜ク他ノ緊要事件ニ推廣スヘカラス

州長ハ行政ニ關スル參事院決定書例ヘハ直稅若クハ土工ニ係ル訴件

ノ決定書ヲ參議院ニ控訴スルノ權ヲ有スルヤ曰ク否此權ハ千八百六年七月二十二日ノ詔書第十六第十七條アルニ依テ特ニ宰相ニ屬ス蓋シ此兩條ハ宰相ノミヲ以テ政府ノ原告若クハ被告トシテ參議院ニ出訴スルノ性格ヲ有ストスル者ナリ但シ宜ク本書第千百二十六項ヲ參看スヘシ

三ケ月ノ期限滿盡ノ後宰相ハ其當該省ニ於テ破法若クハ越權ニ係ル諸行政衙ノ決定書ヲ參議院ニ申訴シ以テ法律ノ維持ヲ圖ルヲ得千八百三十六年九月三日內務省件千八百三十八年二月八日大藏省件千八百四十年二月二十七日ルーシヲ件判決共和曆第八年風月二十七日ノ法律第八十八條ノ論辯治罪法第四百四十一第四百四十二條ノ法律第四十四條ヲ看ヨ抑宰相ニ此等ノ訴訟ヲ起スノ權アル所以ハ其法律ノ執行ニ屬スル一切ノ事殊ニ行政ニ係ル法律執行ニ擔任スルニ由ル是レ宰相一般ノ當任ナリ然レトモ宰相ハ敗訟者ニ命シタル罰金減免ヲ請求スルノ權ナシ千八百二十三年三月十九日內務省件

千八百四十年十二月十八日工部省件判決

宰相ハ相手方ニ於テ控訴シ得ル期限滿盡ノ後ニシテ且ツ現ニ起訴セントスル事件ニ就キ相手方ヨリ控訴ヲ爲セシフナキ時ニ非サレハ法律維持ノ爲メニ訴訟ヲ起スヲ得ス千八百四十二年四月八日ルコルデール件判決又宰相ハ判決不當ナルカ故ノミヲ以テ此訴訟ヲ起スヲ得ス千八百四十七年八月二十日コーサナル件判決

通常出訴期限滿盡ノ後ニ於テ附帶ノ控訴ヲ爲スヲ被控訴者ニ許セル訴訟法第四百四十三條ハ行政訴件ニ適施スルヲ要ス夫レ附帶ノ控訴トハ控訴者ニ對シ被控訴者ノ致セル所ノ辯護ナリ此附帶ノ控訴ナル者ハ被告ハ原告ヨリ寧ロ保護セラル可シト云ヘル原則ニ從ヒ何レノ程式ヲ履ミ何レノ期限ヲ守ルヲ要セス而シテ其被控訴者ニ利便ナルヿハ首タル控訴アルニ由テ被控訴者ヲシテ其裁判承認ノ義務ヲ解除

スルヿアルニ至ル且ツ控訴ニ係ル普通法ノ例則ニシテ千八百六年ノ詔書ニ違ハサル者ハ皆參議院ニ對スル申訴ニ適施ス可シ此等ノ理由ニ循ヒ參議院ハ今日ニ至リ古ヘ拒否シタル附帶ノ控訴ヲ許認セリ千八百四十七年二月十二日アシアルジー件同年十二月二十一日トリアノン件千八百五十年二月九日カルノー件千八百五十一年四月十六日ブルイーエー件千八百五十四年一月十二日セラジェ件千八百五十六年八月十八日「リストシビル」件判決

凡テノ附帶控訴ヲ含有セル千八百六年ノ詔書第十八條ニ依テ規定ス本條ハ必要トスル場合ニ於テ取テ以テ三ケ月ノ出訴期限後ニ至リ附帶控訴ヲ認許セシムルノ論據ニ供ス可シ何トナレハ本條中未タ曾テ此等ノ訴ヲ受理スルト否ヤトニ就キ一ノ約款ヲモ置カサレハナリ

然レトモ附帶訴訟ノ受理ト不受理トハ首タル訴訟ノ受理ト不受理トニ因ル者ナリ故ニ首タル訴訟ノ受理セラレサルトキハ附帶訴訟モ亦受理セラル可カラス千八百四十二年八月二十六日リベル邑件千八百四十六年七月九日工部省件千八百四十七年二月二十七日リシアル件千八百五十四年七月二十日ダジウ件千八百五十五年五月三十一日ボードロン件千八百六十二年七月十日チーキゾンヌ件千八百六十三年四月十六日グユイヘル件判決

相手方ハ何時ニテモ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキニ由リ附帶ノ訴訟ヲ起セル者ニ對シ首タル訴訟以前ノ執行若クハ承諾書ヲ據トシテ抵抗スルヲ得ス千八百四十八年三月三十一日リシアル件千八百五十一年四月十六日ブルーイーエー件判決

首タル訴訟ヲ起セル者ヨリスル取消願ヲ裁判セサル間或ハ相手方ニ於テ此取消願ヲ承諾セサル間ハ何時ニテモ附帶訴訟ヲ起スヲ得ヘシ千八百五十年三月十六日トルーアン件判決此見解ハ訴訟法第四百三條中ニ暗ニ含メル例則ニ基キテ必ス生ス可キ者ナリ蓋シ該例則ニ循ヘハ取消願ハ其承諾ヲ得タルニ非サレハ契約トナラス故ニ此承諾アルノ前ハ兩造互ニ束縛ヲ受ケス各〻意向ノ自由ヲ有スルヿナリ

右ト同一ノ理由ナルヲ以テ原告者ヨリ取消ヲ求ムルモ被告者ニ於テ

之ヲ承諾セサルトキハ法ニ適シテ被告者ノ爲シタル附帶訴訟ヲ行フノ障碍ヲ爲サス（千八百五十三年五月十二日ソーシノ件千八百六十三年八月十二日ピアナ選擧件判決）全ク附帶訴訟ヲ起スノ權ヲ特有シテ取消ヲ承諾シタル場合ニ於テモ亦同シ（千八百五十四年一月十二日ラコンブ件判決）

參議院ニ出訴スル期限ヲ經過セシムルニハ決定書送達ヲ必要トスルカ故ニ若シ未タ此式ヲ執行セサレハ決定書ノ宣告以來既ニ三十年ヲ越ユルト雖モ其送達ナキニ由テ之ヲ控訴シ得ルト判定セサル可カラス（千八百三十九年四月二十五日バレロワア件判決千八百三十四年十一月二十六日破毀法院裁判）但シ始審裁判官ノ宣告ヲ執行シタル時及ヒ其執行ヨリ三十年ノ後ニ控訴ヲ起セシ時ハ此限ニアラス（千八百九年十一月十四日及ヒ千八百三十二年十一月十五日破毀法院裁決）請フ此ノ如キ差異アル所以ヲ左ニ辯セン蓋シ凡ソ始審ノ裁判ハ勝訟者ノ爲メニ執行裁判（アクシテ、ジュジカシ）ト名クル所ノ訴訟權ヲ生シ敗訟者ノ爲メニ訴訟ヲ廢滅ス可キ手續即

チ控訴ヲ起スノ權ヲ生ス普通法ニ於テハ訴訟權ヲシテ三十年間繼續セシムルト雖モ裁判宣告書ノ送達ヲ行ヘハ其期限ヲ短縮シテ三ケ月ト爲スヲ得若シ或ハ宣告書ヲ送達セスシテ是ヨリ後三十年間敗訟者ニ於テ始メニ爭フ所ノ物件ヲ握有スルトキハ勝訟者ニ屬スル執行裁判權ハ期滿得免法ニ因テ消滅ス之ニ反シテ裁判宣告ノ後三十年間勝訟者ニ於テ爭フ所ノ物件ヲ保有スルトキハ敗訟者ノ控訴權ハ爲メニ消滅ス此時ニ際シテハ期滿得免ノ期限ヲ短縮スルカ爲メニ必シモ裁判宣告書ヲ送達スルヲ要セサルナリ

第十二條　前ニ定メタル期限內ニ申訴スル者アルニ因テ其通照ノ命令ヲ爲シタル時ハ三ケ月內ニ此命令書ヲ送達セサル可カラス違ヘハ則チ申訴ノ權ヲ失フ

三ケ月內○規則ニハ此期限ノ始マル可キ第一日ヲ指定セサレトモ宜シ

行政訴訟部長ニ於テ訴狀ノ末ニ記入シタル通照ノ命令ノ日子ヲ以テ其第一日トスヘシ又原告ノ代言人ハ參議院ノ書記局ヨリ其始メニ呈出シタル訴狀ヲ請受シテ命令書ニ併セ送達セシム（千八百三十八年六月二十八日ノ規則第四篇第一部第三十條ノ論據）

「終リノ日ハ終ルノ日ニ算入セス」ト云ヘル原則ニ循ヒ通照ノ命令アル日ヲ此期限ヨリ省キテ宜ク期限滿盡ノ日ヲ之ニ加入スヘキヤ此問題ハ當ニ此ノ如クニ解釋スヘシト思惟ス若シ或ハ否ラサレハ本文ニ「三ケ月外」ト謂フ可クシテ「三ケ月內」ト謂フ可カラス

然レトモ參議院ハ却テ此ノ如キノ說明ヲ許サス規則第十二條ニ定メタル三ケ月ノ規限中ニ送達ノ日ト期限滿盡ノ日トヲ加入セスト判決セリ是故ニ千八百五十五年十月二十二日ニ爲シタル通照ノ命令ハ翌年一月二十三日ニ送達シタルヲ以テ法ニ適スト定メタリ（千八百五十八年二月四日グランジエー件判決ヲ看ヨ）蓋シ一月ニ二箇ノ第二十三日アルノ理ナキヲ以テ三ケ月ノ期限滿盡ノ日ハ宜ク第二十二日タルヘキヿ猶ホ一月一日ニ始マリタル年ハ十二月三十一日ニ終ルカコトシ但シ此參議院判決ハ千八百六十二年六月二日ノ法律第三條ニ「前條ニ揭ケタル凡テノ期限ハ完周トス」（フラン）トアルヲ引テ極メテ勢力アル根據トスルニ足ル抑ヽ該法律ハ破毀上告ノ爲メニ制定シタル者ナルニ之ヲ參議院ニ移シテ適用スルハ其類ヲ同フスルニ由ル

違ヘハ則チ申訴ノ權ヲ失フ○參議院ハ其職務ヲ以テ此失權ヲ命ス（千八百三十六年十一月二十二日マルトー件千八百三十七年十一月一日モルント一邑件千八百四十七年四月八日コンビー件千八百四十九年一月六日ドクラーブ件同年六月二十三日ジアクマル件同年七月二十八日クロラー件千八百五十三年四月二十一日ルフェブル件千八百五十四年七月二十六日サントーグスタン孤院件判決）

送達ノ目的ハ被告ヲシテ原告ノ要求スル主義ト其出セル書憑トヲ知

會セシムルニ在リ而シテ此要求スル主意ヲ説明シ且書憑ヲ呈出セシフニ就キ首タル文書ハ訴狀ニ附添スル覺書タルヤ明ケシ是故ニ參議院ハ起訴狀ニ掲示スル覺書ヲシテ通照ノ命令ニ依テ定メタル期限内ニ被告ニ送達セシメサルノ一事ヲ以テ其申訴ヲ受理ス可カラスト宣告セリ（千八百五十一年八月九日リゴー件千八百五十二年六月四日サルー件判決ジュフール氏著書第二卷第三百二十四頁ヲ看ヨ）

通照ノ命令ヲ下ス可キ皇帝ニ訴狀ヲ上ルニ因テ參議院ニ於テ訴訟ノ端ヲ開クノ方法ハ千七百三十八年六月二十八日ノ規則第一部第四篇第二十八第三十ノ兩條ニ基ク者ニシテ是レ往昔被害者等カ其滿足ス可キ償ヲ得ンカ爲メニ國王ニ上書セシ所ノ慣行ニ擬倣スルナリ今ノ破毀法院ハ古ヘ國王ノ有セル特權ナシト雖モ尚ホ該法院ニ於テ昔時國王ニ對シ爲セル如クシテ其訴訟ノ端ヲ開ケル方法アルハ亦此往昔ノ慣行ニ倣ヘルノミ

通照ノ命令ハ直チニ被告者ニ送達セサルモ始メニ該被告者ノ代人トシテ參事院ニ出頭シ且ツ此送達ヲ受ク可キノ權ナシト主張セサル者ニ送達スレハ法ニ適シテ其効アリトス（千八百六十三年七月七日アプリル件判決）

訴訟ノ端ヲ開ク可キ訴狀ヲ參議院ニ呈スル前ニ原告ヨリ被告ニ對シ參議院ニ出頭ス可シト通知スル招喚ハ以テ規則ニ定ムル期限内ニ於テス可キ通照ノ命令書ノ送達ニ充ツルヲ得ス（千八百三十七年十一月一日モントー邑件判決）

各個人若クハ會社相互ノ間ニ於テスル通照ノ命令書ノ送達ハ普通法ニ準シ使吏ニ依頼シテ被告若クハ被告ノ住所ニ致ス可シ（千七百三十八年ノ規則第三十條及ヒ千八百八年ノ詔書第四條第六節ノ論據）

規則第十二條ハ此第一款「人民ヨリ參議院ニ起訴スル事」ト云ヘル命題ニ因テ之ヲ指示セル如ク宜ク之ヲ右ニ舉ル場合ニ限ルヘシ若シ夫レ政府ヲ以テ原被告トシテ訴ヲ起ストキハ吾輩カ後欵ニ論スル所ノ千八百六年ノ規則第十六第十七條ノ程式ニ依

準スルヲ要ス

規則第十二條ハ被告カ佛蘭西本國中何レノ地方ニ住居スルモ之ニ通照ノ命令書ヲ送達スル期限ヲ定メテ皆三ケ月トナシタルハ實ニ明白ナル缺典ナリ抑巴里府下ニ住居スル被告ニ送達ヲ致スハ國境ニ住居スル被告ニ送達ヲ致スヨリ原告代言人ノ爲メニ日時ヲ要スルノ少キハ固ヨリ論ナシ然ラハ則チ距離ノ遠近ニ因テ期限ヲ縮舒スル「猶ホ第四條ニ於ルコトクス可キナリ」

第十三條　佛蘭西本國外ニ住居スル者ハ前兩條ニ定メタル三ケ月ノ期限外ニ於テ更ニ訴訟法第七十三條ニ定ムル猶豫期限ヲ有ス可シ」

規則第十三條ハ千八百五十九年六月十一日ノ法律ヲ定ムルニ依リコルス州及ヒアルジェリーニ之ヲ適施スルヲ廢止シタリ該法律ノ條則左ノ如シ

第一條　コルス州及ヒアルジェリーノ住民ヨリ參議院ニ申訴スルニ就キ遵守ス可キ期限ハ千八百六年七月二十二日ノ詔書ニ依リ佛蘭西本國ノ住民ニ對シ定メタル期限ニ同シカル可シ

第二條　破毀法院ニ民事ノ上告ヲ爲スカ爲メニ遵守ス可キ期限ニ就キ佛蘭西本國ニ關シテ定ムル法律及ヒ規則ハ亦コルス州及ヒアルジェリーニ適施ス可シ

第三條　凡ソ此法律ニ抵觸スル條則ハ皆廢止ニ屬ス

千八百六年ノ規則第十三條ヲシテ獨リ其第十一條ノ場合ニ適施スル者タラシメハ充分ニ之ヲ領會スルヲ得ン何トナレハ參議院ニ申訴スル原告ハ其訴狀ヲ本院ニ致スカ爲メニハ其住所ヨリ巴里府ニ至ル距離ニ比例シテ時間ヲ延フルヲ必要トスレハナリ然レトモ若シ更ニ該條ヲ第十二條ノ場合ニ適施シ通照ノ命令書ヲ得タル者即チ原告ノ外國ニ

住居スル時ニ當リ該命令書ヲ送達スルカ爲メニ期限ヲ延フ可シトスルニ及ンテハ余之ヲ解スル能ハス蓋シ此場合ニ於テ通照ノ命令書ヲ得タル者ノ住所ハ外國ニ在リト雖モ現ニ其代人ノ巴里府ニアルアリ何ソ延期ヲ要センヤ故ニ第十三條ニ云フ所ハ通照ノ命令書ヲ送達セラル可キ者即チ被告ノ外國ニ住居スル時ニ關係ストナシテ始メテ僅ニ會得ス可シ然レモ遂ニ强テ解ヲ下スノ弊ヲ免カレス權限抵觸訴訟ノ裁判ニ就キ踐守ス可キ程式ニ關スル千八百五十九年十月二十六日案スルニ原書五十四十ノ誤ナル可シノ規則第二十一條モ亦同一ノ弊アリ獨リ訴訟法第四百四十五條ハ此謬リニ陷ラス夫レ權限抵觸訴訟裁判ニ係ル程式ニ就テ之ヲ論センニ其通照ノ命令書ヲ得タル參議院附屬代言人ヲ有スルカ故ニ佛蘭西本國ハ勿論巴里府ニ住居スル相手方ニ對シ普通ノ期限中ニ其通照ノ命令書ヲ送達セシムルニ於テ曾テ障碍アルナシ是

ヲ以テ千八百六年ノ規則第十三條ヲ其第十二條ト千八百四十九年ノ規則第二十一條第二節ヲ訴訟法第七十三條ト相關係セシムルハ蓋シ誤レリ但シ被控訴者ノ外國ニ住居スル時ハ宜ク別ニ論スヘキナリ現ニ千八百六十二年六月二日ノ法律第五第六條ハ充分ニ此等ノ點ヲ說示ス然レモ此法律ハ獨リ民事ニ係リ破毀法院ニ上告スル方法ヲ定ムルカ爲メニ作レルナレモ以テ千八百六年ノ規則ノ弊ヲ補正スルノ材ニ供スルヲ得ヘシ

參議院ニ申訴シ且ツ通照ノ命令書ヲ送達スルカ爲メニ千八百六年ノ詔書第十一第十二第十三條ニ依リ定メタル期限ハ嚴ニシテ動カス可カラス是故ニ既ニ此期限ヲ過クレハ隨テ原決定ヲ控訴ス可カラサル裁判タル力ヲ與フ或ハ敢テ其延期書ヲ許與スルハ是レ原裁判廳ニ對シテ尊敬ノ意ヲ欠クナリ（其義ヲ反對ニスル千七百三十八年六月二十八日ノ規則第一部第四篇第十二條ヲ看ヨ）

千八百十五年百日政府ノ事件ノ如キ已ムヲ得サル情由アル場合ニ於テハ定規トナル可キ一般處分ニ因テ延期書ヲ許與シタルコトアリ（千八百十五年十一月二十九日ノ王勅ヲ看ヨ）

コルス及ヒアルジュリーヲ除キ諸藩屬地ヨリ參議院ニ申訴スルコト及ヒ通照ノ命令書ヲ送達スルコトニ關シテハ宜ク千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第百三十八條以下ト千八百三十八年二月二十六日ノ王勅修正條例幷ニマシウ件ニ係ル千八百三十九年十二月十八日ノ參議院判決トヲ參看スヘシ

第十四條　訴件ヲ調査スルニ因テ其事實若クハ書憑ヲ檢覈シ或ハ本人ヲ招喚糺問スルコトヲ命令ス可キトキハ司法宰相ニ於テ主任ノ訴狀（メートルヒト）扱役一名ヲ指定シ或ハ隔遠ノ地ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ且ツ司法宰相ハ此等ノ豫審ニ從事ス可キ程式ヲ規定ス可シ

參議院ハ事實ヲ明瞭ニスルニ適當ナル凡テノ豫審處分ヲ命シ及ヒ許件ヲ審悉シテ確定裁判ヲ行フ可キ者タラシムルニ必要ナル權力ヲ有ス可キノ理アリ且ツ現ニ之ヲ有スルコトハ猶ホ諸裁判所ニ於ルコトシ此權利ハ規則第十四條ニ依リ正シク之ヲ認メタリ是故ニ參議院ハ訴訟ニ關係アル者ヲ呼出シ書憑ヲ調査シ爭訟ノ地ニ臨視シ鑑定者ノ報告ヲ求メ糺問ヲ爲シ兩造ノ申述ヲ聽キ及ヒ書憑ノ眞僞檢覈ヲ命令スルヲ得（千八百二十八年八月三十一日ノ王勅ヲ看ヨ）

此等ノ執行處分ヲ命令ス可キ者ハ行政訴訟ヲ會議判決スル參議院ナルヤ將タ特ニ行政訴訟部ノミナルヤ此點ニ關シ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書第十七第十九第二十第二十一條及ヒ同年同月三十日ノ詔書第二十一條ヨリ生スル區別ヲ立ツルコトハ猶ホ訴訟ノ本案ニ於ルコトクス可キヤ余ハ必ス此區別ヲ立ツ可シト思惟セス何トナレハ豫審

處分ハ千八百五十年六月二十五日ノ規則第四十一條及ヒ千八百五十二年一月二十五日詔書第十七條同年同月三十日ノ詔書第三條第二節及ヒ第三節ト千八百六年七月二十二日ノ規則第十四條トアルニ因リ何事ヲ論セス都テ行政訴訟部ヨリ之ヲ命令スルヲ得レハナリ（千八百三十九年九月十八日ノ王勅第二十六條）

ジュフール氏著書第二卷第三百二十八項ニ云ク行政訴訟委員ハ其職務ヲ以テ若クハ訴者ノ請ニ因リ豫審ノ際、書憑調査、鑑定、證人廉問、書憑檢覈、實地臨視等都テ必要トスル處分（千八百五十二年一月三十日ノ詔書第三條ヲ看ヨ）ヲ爲スノ權ヲ有ス（千八百三十四年八月五日モーゲアン件千八百三十年五月五日バラー件千八百三十四年六月六日アマル件判決ヲ看ヨ）是ニ由リ行政訴訟委員ハ委員長ノ注意ニ從ヒ巴里府ニ遠隔ナル地ニ於テ治安裁判官、州長、郡長、土工家等ヲ命シテ豫審ノ事ニ從ハシムト實際上豫審判決ハ行政訴訟部ノ意見ヲ聽キテ該部長之ヲ行フロジェ件ニ係ル千八百五十五年十一月二十二日ノ判決ハ其一例ナリリエス件ニ係ル千八百五十八年四月八日ノ判決モ亦以テ例トス可シ該判決中ニ豫メ兩造ヲ呼出シ土工家ヲシテ本書ニ記載スル事項ヲ檢査セシムル爲メ行政訴訟部長ノ爲シタル命令ヲ引キビアンボー件ニ係ル千八百六十一年八月三十一日ノ判決モ均ク行政訴訟部長ノ命令シタル鑑定云々ヲ引ケリ（シアンチーブ件ニ係ル千八百六十三年七月三十日ノ判決ヲ看ヨ）今此ノ如キ文式ヲ用ユルノ理由如何ヲ究ムルトキハ殆ト解ス可カラサル者アリ請フ之ヲ辯セン夫レ行政訴訟ヲ議決スル參議院及ヒ行政訴訟部ハ國長ノ署名ヲ須ツテ始メテ眞ノ裁判タル性質ヲ有ス可キ判決案ヲ草スルノ權アルニ止マルトスルニ及ンテヤ宜ク自カラ本案ヲ裁判スヘキ權ヲ固有セサルニ由リ隨テ亦行政訴訟部長ヲ以テ此權ヲ固有スト認メ難シ何トナレハ一會一部ノ長ハ全會全部ニ比シテ其權更ニ狹小ナル可ケレハ

ナリ然レモ千八百四十九年三月三日ノ法律ニ依テ構成シタル共和政府ノ獨立權アル參議院ヲ置キタルトキハ曾テ此ノ如キノ難疑ナシ是レ千八百五十年六月十五日ノ規則第四十一條ニ於テ豫審ニ關スル件ニ係ル行政訴訟部ノ權ヲ明定シタル所以ナリ又千八百五十二年一月三十日ノ詔書第三條第三節ニハ豫審ノ文書ヲ議決命令スル權ノ出ル所ノ者ヲ說明セスシテ唯「豫審ノ文書ハ部長ノ名ヲ署ス」トアルヲ以テ復タ同上ノ難疑ヲ生スルニ至レリ但シ實際上ニ於テハ行政訴訟部自カラ其意見ヲ述フルニ及ヒ部長ハ唯之ヲ聽キテ即チ豫審ノ文書ニ署名スルノミ蓋シ是レ部長一人ヨリモ寧ロ行政訴訟部全員ニ權威ヲ與フルヲ恐レテ然ルナレトモ夫ノ國長ニ屬スル特權ヲ行政訴訟部ニ剝キテ之ヲ獨立ノ官衙ニ移與スルヿ普通裁判ニ係リ破毀法院ノ爲メニ爲シタル所ノ如クセントスルノ旨意トハ遂ニ相合ハサルナリ

千八百五十二年一月三十日ノ詔書第三條第三節ハ豫審ノ文書ノ事ノミニ言ヒ及ホセルヲ以テ凡ソ本案ニ係ル假リノ判決若クハ本案ニ關スル豫審判決ヲ爲スノ權ハ當該ノ事件ニ就キ行政訴訟ヲ會議判決スル參議院ニ屬セサル可カラスト論定スルヲ要ス若シ否ラスシテ行政訴訟部ノミニ於テ此等ノ判決ヲ爲スアラハ訴者ハ爲メニ法ニ依テ有スル所ノ訟廷公行及ヒ參議院ノ各行政部ヨリ徵集セル參議官十名ヲ行政訴訟本部員ニ加ヘテ行政訴訟ノ會議判決セシムルノ二保障ヲ失フ可シ

以上論スル所ノ如クナルヲ以テノ故ニ凡ソ文書上ノ豫審ヲ指揮スルハ行政訴訟部ノ任タルヲ知ル（千八百五十二年一月二十五日ノ詔書第十七條）而シテダレストト氏ハ充分ニ此任ヲ行政訴訟部ニ與ヘタルノ理由ヲ說明セリ曰ク行政訴訟ノ事件ハ必ス直接若クハ間接ニ公ケノ事ニ關係ス故ニ行政官ハ

其通知ヲ受ケ又己レノ意見ヲ述ヘ己レノ知ル所ヲ説明シ且ツ己レノ有スル所ノ書憑ヲ呈出スルアルヲ要ス若シ參議院ニシテ行政訴訟ノ豫審ヲ指揮セサル𪜈ハ行政官等ハ敢テ屢〻抗抵シ常ニ唯〻私訴者ノ利益ヲ害スルノミナラス時トシテ公利ヲ妨クルニ至ル可シ蓋シ行政裁判官ハ自爲ノ性質ヲ有ス可シ決シテ司法裁判官ノ如クニ甚タ被爲ノ性質ニ任ス可カラス之ニ反スレハ則チ巨害ヲ生セン（氏著行政裁判論第六百五十六葉）ノミト

參議院ニ固有ノ權ヲ與ヘ之ヲシテ行政官長タル共和政大統領ト殆ト相對抗スル者トナシタル千八百四十九年三月三日ノ法律ニ依リ各行政務ノ長其他凡テノ官吏ヲ徵集シテ將サニ議決セントスル事項ノ説明ヲ求ムル權ヲ參議院ニ附シタルハ是レ前段ニ論スル理由アルカ爲メナリ（本文法律第五十三條）然レ𪜈今日ノ制トナルニ及ンテヤ參議院ハ國長ノ權力ニ資シテ自カラ行フアルヲ以テ復タ昔時ノ如ク行政官吏ノ抵抗アルヲ恐ルヽニ足ラス

參議院ノ訴訟手續ハ普通裁判所ノ訴訟手續ニ優レル者アリ即チ吾輩カ前ニ記列シタル豫審方法ハ訴訟法ニ定ムル如キ厭フ可キ無根ノ程式ヲ要セサル是ナリ千八百六年ノ詔書第十四條ハ此等豫審ニ從事スル程式ヲ定ムルノ全權ヲ參議院ニ委シ苟モ之ヲ處罰スル條則ヲ附添セス是ニ由テ參議院ハ之ニ出訴シ來レル事件ヲ勘査スルニ當リ陪審官ヨリモ廣大ナル權ヲ有ス

第十五條　凡ソ此詔書ニ依テ期限ヲ定メサル場合ニ於テハ司法宰相ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム可シ（下文ニ掲クル第二十一條ノ場合等是ナリ）

現今ハ前條ノ註脚中ニ論スル所ニ從ヒ行政訴訟部ニ於テ此等ノ期限ヲ定ム

第二節　宰相ノ申報ニ因テ始マレル行政訴件ニ係ル特殊ノ規則

(提要)第三百二十八　政府自カラ原告トナレル行政訴件ノ訴訟手續

第三百二十九　政府ニ與ヘタル特權ノ基礎

第三百三十　行政官ハ政府ト同一ノ利益ヲ享ルヲ得

第三百三十一　邑及ヒ州ハ如何

第三百三十二　政府ヨリ起シタル訴訟告達ノ方法

第三百三十三　政府ノ被告タル場合ニ於ケル訴訟手續

第三百三十四　通則ノ答辯期限ハ被告タル政府ニ適施ス可キヤ

第三百三十五　宰相自カラ某ノ決定書ヲ承諾シタルトキハ更ニ之ヲ控訴スルヲ得ス但シ州長若クハ直稅事務長ハ此限ニ非ス

第十六條　宰相ノ申報ニ因テ行政訴訟ヲ起シタルトキハ行政上ノ普通程式ニ準シ政府官吏ヨリ諸書憑ヲ司法宰相ニ送致セシヿヲ本訴ニ關係スル者ニ告達シ之ヲシテ第八第九條ニ定メタル程式ニ循ヒ其通閲ヲ求メ且ツ規則ニ揭ケル期限內ニ其答辯書ヲ出スヿヲ得セシム可シ但シ宰相ノ申報ハ本訴ニ關係スル者ニ示ス可カラス

參議院ニ對シ訴ヲ起セル政府ハ或ハ原告トナリ或ハ被告トナルアリ而シテ第十六條ハ政府ノ原告タルトキニ踐履ス可キノ程式ヲ規定シ次ノ第十七條ハ其被告タル場合ノ例則ニ係ル第一ノ場合即チ政府ノ原告タルトキハ參議院ノ書記局ニ訴狀ヲ呈シ代言人ヲ設ケ通照ノ命令ヲ申請シ使吏ヲシテ之ヲ被告ニ送達セシムル等ノ程式ヲ踐ムヲ要セス」宰相ノ申報○行政訴訟ハ宰相ノ申報ニ因テ始ムルヲ得ルトセシカ現時實行スル所ヲ見ルニ原告タル宰相ハ唯參議院長ニ普通ノ文書ヲ送

移スルノミ

行政上ノ程式○宰相ノ起セル訴訟ハ行政上ノ程式即チ普通ノ文書ニ因テ之ヲ其被告者ニ通告スルハ被告カ原告ノ出セル書悪ヲ通閲シテ答辯ヲ爲シ得ンカ爲メナリ蓋シ此通告ハ被告ニ向ヒ普通裁判所ノ送達若クハ人民或ハ會社ヨリ起セル行政訴件ニ係ル參議院ノ通照ノ命令ト同一ノ効アリトス

千八百六年ノ詔書ニ依リ參議院ニ出訴スル政府ニ此ノ如キノ特權ヲ附シ行政訴訟ヲ起セル各個人ニ命スル如ク之ニ代言人ヲ設置スルノ義務ヲ負ハシメサルハ抑何ノ故ソヤ蓋シ是レ普通民事裁判所ニ於テ政府ハ代書師ヲ置クヲ要セストスル者ト同一ノ理由ニ根シテ然ルナリ（共和暦第四年暖月十日ノ布令千八百二十八年八月二十七日ノ破毀法院裁決ヲ看ヨ）極メテ明白ナル公益ヲ計リテ然ルナリ請フ細カニ之ヲ辯セン夫レ政府ハ無數ノ關係ニ因テ各

個人若クハ會社ト相密接スルノ故ヲ以テ爭訟ヲ起スノ機會モ亦極メテ多シ此レ其成ル可ク經費ヲ省キテ司法裁判所及ヒ行政裁判所ニ申訴シ得ンコトヲ欲シタル所以ナリ之ヲ極メテ明白ナル公益ヲ計リテ然ルト謂フ是故ニ政府ハ檢事長若クハ檢事ヲシテ普通司法裁判所ニ訴ヘ宰相ヲシテ參議院ニ訴ヘシムルヲ得況ヤ行政官吏ハ官任ノ性格ヲ（カラクテール、ヲフィシエル）備ヘ且ツ他人ニ依託スレハ忽チニ不便ヲ生ス可キ所ノ調査ヲ委任スルニ適當ナル特殊ノ智識ヲ有スルアルヲヤ又規則第十六條ハ政府ニ特權ヲ與ヘテ其代言人ヲ置カシメス且ツ共和暦第四年暖月十日ノ詔書ニ依リ其代書師ヲ命スルヲ要セストセシカトモ決シテ爲メニ行政訴訟ニ關シ參議院附屬代言人ニ依頼シ普通裁判所ニ對スル訴訟ニ關シ代書師及ヒ代言人ニ依頼スルコトヲ政府ニ禁止スルニ非サルナリ

前項ニ於テ政府ニ就テ總論スル所ノ者ハ直税局、關口税及間税局、記錄

稅及公領局等ノ如キ國稅ノ一部ニ擔任スル行政官衙ニ均ク適施シテ可ナリ故ニ政府ノ利益ノ一分ヲ代理スル此等官衙ハ其上長官タル大藏宰相ノ文書ヲ以テ參議院ニ起訴スルヲ得又特ニ代言人ヲ命スルヲ得且ツ何レノ場合ヲ論セス其起訴スル所ノ者ヲ支柱センカ爲メニ自カラ認記シタル覺書ヲ呈スルヲ得

邑ハ政府若クハ行政官衙ハ同一ニ論スルヲ得ス故ニ邑ヨリ起セル訴訟ハ參議院附屬代言人ニ依賴セサルヲ得ス若シ邑長自カラ訴ヲ起スキハ遂ニ受理セラレサル可シ（千八百四十六年四月七日シナミエー件判決）

州モ亦邑ニ擬シテ論ス可キカ如シ何トナレハ州ハ邑ヨリ稍〻廣大ナル行政區域ヲ以テ成レル一會社ニ外ナラサレハナリ此說ヲ主張センナレハ須ラクアノタンニ係ル千八百四十七年五月二十一日ノ參議院判決ヲ引證スヘシ該判決ハ敗訟者タル州ハ却テ政府ニ對シテ命セサ

ル所ノ訴訟入費ヲ出サヽル可カラスト裁定セリ（アルデンヌ州ニ係ル千八百五十九年五月十二日ノ判決モ亦同シ）然レトモ行政上ノ程式ヲ以テスル送達ハ政府ト邑トニ論ナク常ニ參議院ニ對スル出訴期限ヲ經過セシムルニ充分ナリト觀察セル所ノ參議院判決アルノ故ヲ以テ上文ニ論スル所ヲ難スル者アリ余ハ此難問ニ答ヘテ云フ可シ甲ノ特權アルカ爲メニ必ス常ニ乙ノ特權ヲ生スル者ニ非ス故ニ行政官吏ハ邑ノ名代人トナリテ邑ノ利益ヲ辯護スルノ義務ナシ且ツヤ行政裁判若クハ司法裁判ノ費用ニ係ル租稅ヲ徵收スル國庫ニハ固有ノ財產アル邑及ヒ州ニ對シテ此租稅ヲ免除スルノ義務アラス

吾輩ハ參議院ニ附屬スル官衙ニ於テ政府ノ爲メニ爲シタル決定書ニ關スル時ニ際シ行政上ノ程式ニ準スル送達即チ宰相若クハ州長若クハ其他ノ行政官吏ノ普通文書ヲ以テ送達ヲ爲スヲ許セル判決ノ基礎

トナル者ハ此第十六條ナリト思惟ス（第二百九十七項及ヒ第二百九十八項ヲ看ヨ）

規則ニ掲クル期限内○政府ノ名ヲ以テ宰相自カラ起訴者トナリテ第四條ニ依リ規則ニ定ムル期限内ニ答辯ヲナサシムルカ爲メニ文書ヲ送リ其旨ヲ被告ニ通告スル時ハ如何シテ其送達ヲ爲シタルヿヲ據證シ以テ期限ヲ起算ス可キ第一日ヲ定ムルヲ得ルヤ蓋シ宰相若クハ其屬吏ハ書ヲ裁シテ之ヲ被告ニ郵送シテ第十六條ニ定ムル通告ヲ爲シタリト證シ得レ𪜈以テ此文書ノ確ニ被告ニ到達セシヿヲ證スルニ足ラス（第三百六項）是故ニ被告ハ文書ヲ領收セスト陳述スルヲ得隨テ以テ其出廷ス可キ招喚ヲ受ケタリトスル據證ヲ拒ムニ充分ナル辭柄ヲ得ヘシ吾輩以爲ラク此ノ如キノ巨害ヲ醫センカ爲メニハ千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第六條ニ依リ同一ノ塲合ニ於テ命セシ所ノ用意ヲ爲スニ若クハナシ本條ニ云ク通告書ヲ以テ送達ヲ爲シタル時ハ左ニ定ムル所ニ因テ之ヲ交付シタルヿヲ證ス可シ

第一　本人若クハ其住所ニ送達ヲ爲シタルトキハ其日子ヲ掲ケ且ツ本人ノ署名セル領收票ニ因テ證ス若シ本人不在ナル歟或ハ之ヲ領收スルヿヲ拒ミタルトキハ送達書ノ副本ヲ領受ス可キ權アル官吏之ニ代ル

第二　撰定ノ住所ニ送達ヲ爲シタル時ハ其日子ヲ掲ケ且ツ其撰定シタル住所ニ在ル者ノ署名シタル領收票ニ因テ證ス若シ其不在ナル歟或ハ之ヲ領收スルヿヲ拒ミタル時ハ同上ノ官吏之ニ代ル（千八百二十一年十二月十二日ノ王勅第二條ヲ參看ス可シ）

宰相ノ申報ハ本訴ニ關スル者ニ示ス可カラス○國長ニ申報スルヿヲ止メテ原告タル宰相ヨリ參議院々長ニ普通ノ文書ヲ致シテ政府ノ爲メニスル訴訟ヲ起スヿトナリテヨリ以來ハ復タ稍〻曖昧ナル此條則ヲ

遵踐セス

第十七條　政府ノ利益ト人民ノ利益ト相背違スル事件ニ於テ人民ヨリ訴狀ヲ呈シテ訴ヲ起シタル時ハ該訴狀及ヒ諸書憑ヲ參議院ノ書記局ニ出スヲ以テ直チニ政府官吏ニ送達セルト同一ノ效アル可シ但シ豫審ノ際ニ於テスル者モ亦同シ

本條ハ政府ヲ被告トシテ訴ヲ起スニ際シテ遵守ス可キ程式ヲ定ム此時原告タル人民ハ訴狀ヲ呈シ且ツ代言人ヲ命セサル可カラス然レトモ行政訴訟部長ヨリ通照ノ命令ヲ得テ之ヲ被告タル宰相ニ送達セシムルヲ要セス

送達セルト同一ノ効アル可シ○一ニ行文上ノミニ就テ本條ヲ解釋スレハ唯訴狀ヲ呈スルノ一事ヲ以テ政府ニ送達ヲ爲スト同一ノ効アリトシ隨テ政府ノ答辯期限ハ當日ヨリ經過スルカ如クニ思ハルレトモ敢テ這樣ノ解釋ヲ下スヲ能ハス何トナレハ則チ縱令參議院々長ハ其書記局ニ訴狀ヲ致セル當日ニ之ヲ知リ得ルト推定スルモ之ヲ擴充シテ被告タル宰相モ亦當日ニ之ヲ知リ得ルトナシ難ケレハナリ是故ニ實際上ニ於テハ行政訴訟部長ヨリ書ヲ宰相ニ送リテ訴狀ヲ呈セル者アルヿヲ通知スルニ非サレハ被告タル政府ヲ以テ未タ出訴セラレタルヿヲ知ラサル者ト認定セリ然ラハ則チ政府ニ於テ答辯書ヲ出ス可キ期限ヲ起算スル第一日ハ宜ク行政訴訟部長ノ通知文書ニ揭クル日子ヲ以テ定ムヘキナリ

被告タル行政官ノ參議院附屬代言人ヲシテ代リテ訴事ニ擔任セシメタル時原告ハ訴狀及ヒ其他ノ豫審ニ係ル文書ヲ該代言人ニ送達セシムルヲ要セス故ニ此場合ニ於テ原告ハ唯此等書憑ヲ行政訴訟部ノ書記局ニ呈シテ足ル之ヲ以テ千八百六年七月二十二日ノ規則第十七條

ニ準シ直チニ政府官吏ニ送達スル者トシテ可ナリ是ニ由リ若シ右ニ述ヘタル手續ニ從ハスシテ原告ヨリ其訴狀等ヲ被告タル行政官ノ代言人ニ送致セシメタル時ハ原告ニ於テ此冗費ヲ擔當支辨ス可キヿ固ヨリ論ナキナリ千八百四十四年五月二十四日ガロー件判決政府ノ被告タラスシテ原告タル時モ亦然ルヿ猶ホ上ニ注記スル判決ノ場合ニ於ルカコトシ

答辨ヲ爲スカ爲メニ被告ニ與ヘタル期限ヲ定ムル第四條ハ政府幷ニ人民ニ通用ス可キヤ甲論者ハ曰ク此第四條ハ人民ヨリ起訴スル時ノ程式ヲ定ムル所ノ第一欵中ニ在リ而シテ第二欵ハ政府ノ訴訟ニ關係スル時ノ特殊ナル訴訟手續ヲ示セル者ナレハ兩欵互ニ相分レテ相通セサル者ナリト乙論者ハ之ニ答テ曰ク第一欵ハ固ト通則ヲ定メタル者ナルカ故ニ凡ソ其條則ニシテ第二欵ト相抵觸セサル者ハ常ニ之ヲ遵踐適施シテ可ナルヘシト余ハ後說ヲ取テ前說ヨリモ寧ロ確的ナリト思惟ス是ニ由テ之ヲ觀レハ司法宰相ノ通知書ヲ得テヨリ十五日ノ期限滿盡ノ後ニ至リ參議院ハ原告ノ請ニ因テ被告タル政府若クハ人民ヲ闕席者ト證告スルヲ得（ミュフール氏著書第二卷第三百三十六項ヲ看ヨ）豫審ノ際○此成規アルニ由リ政府ニ送達ヲ爲スカ爲メニハ規則第五十一條ニ依リ人民相互ノ訴訟ニ關シテ命スル如ク使吏ニ依賴スルヿヲ要セサルヲ知ル蓋シ該第五十一條ハ政府ノ自カラ關係セル訴件ニ適施セサルナリ

參事院ノ決定書ヲ承諾シタル宰相ハ更ニ之ヲ參議院ニ控訴ス可カラス反對論者或ハ言ハン政府ハ幼年者タルカ故ニ宰相ハ己レニ屬スル權利ヲ自由ニ資用スルヲ得スト其說未可ナリ何トナレハ則チ宰相ハ裁判ヲ承諾スルノ權利ヲ與ヘラレテ現ニ之ヲ有スレハナリ殊ニ宰相ニ此權利アルハ共和曆第七年霧月二十八日ノ法律第三條ニ由テ生ス

ルナリ千八百四十年十二月二十六日クルユ件千八百四十二年九月五日ミュロー件判決

然レトモ州長ニ於テ參事院ノ決定書ヲ承諾シタルカ爲メニ宰相ニ屬スル控訴權ヲ之ニ奪フヿナシ千八百四十八年五月三十一日ファラチュー件論辯 其故何ソヤ蓋シ州長ハ法律ニ依テ與ヘタル權利ヲ宰相ニ奪フヲ得サレハナリ千八百四十八年七月二十二日ファラチュー件論辯 是ニ由テ之ヲ推セハ直稅事務長ニ於テ參事院ノ決定書ヲ執行セシメントスル場合ニ於テ宰相ニ其控訴權アルハ固ヨリ論ナキナリ千八百四十九年一月十五日ラコルデール件判決

第二款 豫審ノ際ニ生ス可キ附帶ノ訴訟

(提要)第三百三十六 附帶ノ訴訟

第三百三十七 書類贋造ノ訴

第三百三十八 關涉訴訟(アンデルバンシナン)主タル訴訟ニ他人ノ關涉シテ起セル訴訟ヲ謂フ ○何レノ場合ニ於テ此訴ヲ受理ス可キヤ

第三百三十九 債主ハ其負債主ニ關係アル訴訟ニ關涉スルヲ得ルヤ

第三百四十 下請負人(スートレータン)ハ如何

第三百四十一 政府ニ屬スル財産ノ第二落札者(スーアジュジカテール)ハ如何

第三百四十二 關涉訴訟ノ効

第三百四十三 訴訟ヲ更ニ起スヿ及ヒ代言人ノ新設

第三百四十四 事實不認(デサブヤ)

第三百四十五 參議院ノ僚員ニ向ヒ裁判官(レクユザシナン)ニ對スル故障ヲ述フルヲ許ス可キヤ

第三百四十六 訴訟消滅及ヒ訴訟權拋棄ニ就テハ如何

第一節 附帶ノ訴訟

第十八條 附帶ノ訴訟ヲ起サントスル者ハ簡短ナル訴狀ヲ參議院ノ

書記局ニ致ス可シ司法宰相ハ必要トスル場合ニ於テ之ヲ關係者ニ通照スルヿヲ命令シ其送達ノ日ヨリ三日内若クハ特ニ定メタル短キ期限内ニ答辯ヲ爲サシム可シ

必要トスル場合○必要トスル場合ト特ニ掲クルアルヲ以テ關係者ニ通照スルト否トハ司法宰相ノ隨意ナルヲ知ル何故ニ此條則アルトナレハ蓋シ主タル訴狀ト雖モ其受理ス可カラサル者ハ既ニ直チニ之ヲ却下スルヲ許セリ況ヤ附帶ノ訴狀ヲヤ之ヲ必要トセサル場合ニ於テ亦却下シ得ルヿ固ヨリ論ナキナリ然レモ凡ソ主タル訴訟ハ皆被告ニ通照ス可シト定メタル今日ニ及ンテハ（第七十三項第二百九十項ヲ看ヨ）附帶ノ訴狀ヲ拒否スルノ辭アラサル可シ

第十九條　附帶ノ訴訟ハ主タル訴訟ト同時ニ判決ヲ受クルカ爲メニ主タル訴訟ニ附屬ス可シ

然レモ急速ニ假ノ處分ヲ要スルトキハ次回ノ委員會ニ於テ參議生其旨ヲ申報シテ參議院ノ處裁ヲ仰ク可シ

主タル訴訟ニ附屬ス可シ○此成規アルハ本案ノ判決ヲシテ附帶ノ訴訟ノ豫審及ヒ判決ノ爲メニ遲延セサラシメンヿヲ欲シテナリ

第二節　書類贋造ノ訴

第二十條　書類贋造ノ訴ヲ起セル場合ニ於テ司法宰相ハ該書類ヲ出セル一方ニ於テ之ヲ本訴ニ供用スルヿヲ申述ス可キ期限ヲ定ム可シ

該書類ヲ出セル一方ニ於テ右ノ命令ニ從ハス或ハ之ヲ供用セスト申述スルトキハ該書類ヲ却下ス可シ

該書類ヲ出セル一方ニ於テ之ヲ供用ス可シト申述スルトキ參議院ハ委員ノ意見ヲ聽キ或ハ當該裁判所ニ於テ書類贋造ノ裁判アルマテ

主タル訴訟ノ判決ヲ延ヘ或ハ主タル訴訟ハ贋造ナリト訴ヘラレタル書類ニ關係ナキヲ以テ直チニ主タル訴訟ノ確定判決ニ着手ス可シ

主タル訴訟ノ判決ヲ延フ○參議院ニ書憑檢覈ヲ命スルノ權アルヿハ既ニ第十四條ニ見ヘタリ然レ𪜈此第二十條ハ却テ贋造書類ニ係ル裁判ノ權ヲ參議院ニ禁ス抑何故ニ彼此ノ區別ヲ立ツルヤノ理由ハ之ヲ此兩箇ノ附帶訴訟ノ性質ニ鑑ミテ知ル可キナリ請フ之ヲ辯セン夫レ第一書憑檢覈ノ場合ニ於テハ債主カ負債主ニ對シテ書憑ノ眞正ナルヿヲ保證スルナリ（民法第千三百二十四條）第二書類贋造ノ訴アル場合ニ於テハ負債主カ債主ノ出セル書憑ノ僞贋ナルヿヲ據證スルナリ（民法第千三百十九條）故ニ第二ノ場合ハ第一ノ場合ニ比スレハ由テ生ス可キノ結果更ニ重大ナリトス（訴訟法第二百十四第二百四十五條ヲ參看ス可シ）蓋シ書類贋造ノ訴ニ係ル本條ノ規則ハ「主タル訴訟ヲ裁判スルノ權アル裁判所ハ附帶訴訟ヲ幷セテ裁判ス」ト云ヘル原則ニ從ハサル者ナリ

凡ソ行政訴訟部若クハ參議院ニ於テ一方ヨリ贋造ナリト申述シタル書類ヲ以テ爲メニ主タル訴訟ニ其影響ヲ及ホスヿナシト思惟シ且ツ主タル訴訟ノ既ニ裁判ヲ爲ス可キ手順ニ運ヒタル時ハ直チニ主タル訴訟ノ確定判決ニ着手シ或ハ之ヲ却下スト雖モ書類贋造ノ訴ノ原告ハ常ニ當該裁判所ニ訴出スルノ權ヲ失フヿナシ若シ行政訴訟部若クハ參議院ニ於テ主タル訴訟ノ確定裁判ヲナスニハ大ニ贋造ナリト申述スル書類ノ眞否ニ關係アリトスルトキハ先ツ兩造ヲ當該裁判所ニ廻致シ豫定ノ期限內ニ普通ノ程式ニ循ヒ書類贋造ノ訴ニ係ル裁判ヲ受ケシメ幷セテ主タル訴訟ハ書類贋造ノ訴ノ裁判アルマテ其判決ヲ延フ可シト宣告ス但シ參議院ニ於テ右ノ豫定期限滿盡ノ後更ニ延期ヲ

爲スヿヲ許サヽル時若クハ其書類贋造ノ訴ノ裁判宣告書ヲ檢閲シタル時ハ暫ク中止セシ主タル訴訟ノ豫審及ヒ確定判決ニ從事ス（千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第百十六第百十七條ノ論辯）

行政司法兩權區別ノ大則アルニ由リ行政上ノ文書ヲ贋造ナリトスル訴ヲ許否スル權ヲ行政官ニ附シ敢テ司法官ヲシテ與リ聞カサラシムルハ是レ公判上ニ認ムル所ナリ司法官ノ法ニ適シテ裁判ス可キ權アル所ノ主タル訴訟ニ附帶シテ行政上ノ文書ニ係ル贋造訴訟ヲ起シタル時モ亦然リ（千八百五十三年六月六日ゾアイ裁判所判決千八百十年七月六日破毀法院裁決）

第三節　關涉訴訟

第二十一條　關涉訴訟ハ其訴狀ヲ呈シテ起ス可シ司法宰相ハ必要トスル場合ニ於テ之ヲ關係者ニ通照スルヿヲ命令シ該命令書ニ定メタル期限內ニ其答辯ヲ爲サシム可シ然レ𪜈爲メニ主タル訴訟ノ判決ヲ遲延スルヲ得サル可シ必要トスル場合○第十八條ニ註記スル所ト同一ノ意義ニ解シ去ル可シ

關係者ニ通照ノ命令書ヲ送達ス可キ期限ハ行政訴訟部ノ專斷權ニ委ス可シ

遲延スルヲ得サル可シ○此條則ハ訴訟法第三百四十條ニ同シ

今擧クル所ノ第二十一條ハ獨リ關涉訴訟ノ程式ヲ示スノミニシテ該訴訟ヲ受理ス可キ場合ヲ揭ケス然ラハ則チ普通法ノ明文ニ隨テ判斷スルノ外亦他ニ道ナキナリ蓋シ普通法ノ主義ニ基ヒテ之ヲ考フルニ凡ソ始審裁判所ニ於テ主タル訴訟ニ關涉シ得ルカ爲メニハ利益ハ訴訟權ノ尺度ナリト云ヘル大則ニ循ヒ其主タル訴訟ニ多少ノ利益關係ヲ有スルアルヲ以テ足レリトス又控訴ニ關シテハ其關涉ス可キ判決

ニ向ヒ外人ノ故障申述ヲ起ス可キ權ヲ有スルヿヲ要ス訴訟法第四百六十六條抑控訴ノ塲合ニ限リ法律上此ノ如クニ關渉訴訟ノ分界ヲ狹メタルノ理由ハ控訴ニ於ケル關渉訴訟者ハ始審ノ際ニ訴ヲ起サスシテ其相手方ニ其始審裁判ヲ受ク可キ權ヲ奪取セシカ爲メナリ然レ𪜈參議院ハ其控訴裁判官タル塲合ト始審兼終審裁判官トシテ判決ヲ行フ塲合トヲ區別セス故ニ參議院ハ訴訟法第四百六十六條ノ規則ニ循ハスシテ外人ノ故障申述ヲ爲スノ權ナキ時ト雖モ控訴ニ關渉スルヲ得ルト判決セリ千八百五十年二月二十二日サボー件判決竊ニ惟フニ此判決ハ頗ル誤レリ何トナレハ普通ノ控訴裁判所ニ對シ右ノ規則ヲ命シタル理由ノ外ニ於テ更ニ行政訴件ニ就キ之ヲ命ス可キノ理由アレハナリ請フ之ヲ辯セン即チ行政訴件ハ急速ニ判決ス可キ者ト推定シ行政處務ノ進行ヲ妨沮ス可キ障碍ヲ務メテ遠サクルヿヲ最モ必要トスル是ナリ但シ參議院ハ關渉訴訟ヲ拒否若クハ受理スルカ爲メニ唯一片ノ主義即チ關渉訴訟ノ利益ノミニ着眼スルニ似タリ之ヲ復言スレハ參議院ハ特ニ始審裁判所ノ遵守スル規則ノミニ着眼スルカ如シ是ニ由リ參議院ハ主タル訴訟ニ苟モ利益關係ナキハ即チ是レ關渉訴訟ヲ受理ス可カラサル者ト明白ニ判決セシハ頗ル其理アリトス千八百二十五年十二月二十八日ジュラン件千八百三十二年八月十六日シアミソ件同年九月一日ラフィト件判決此等ノ判決ハ却テ皆上ニ擧ケタル判決ヲ否認スルニ至ル可キ證據ナリ

然レ𪜈參議院ハ亦其控訴裁判所トシテ判決ヲ行ヘル塲合ニ於テモ本訴ニ利益關係ヲ有スルノ故ノミヲ以テ關渉訴訟ヲ受理シテ可ナリト判決セリ千八百三十年十二月十六日バルバスト件千八百三十三年一月二十五日ラボーグヨン件千八百三十五年五月二十八日シュエテー件千八百四十八年十二月十一日ボルドー件千八百五十二年二月二十七日サンテチエンヌ鐵道會社件判決此等ノ關渉訴訟ヲ受理スル所以ハ專ラ關渉訴訟者ノ利益上ノミニ基キテ然ルナ

レモ訴訟法第四百六十六條ヲ擧示シテ之ニ反對スルヿヲ得ヘシ

工部宰相ハ國路ニ生シタル不慮ノ事件ニ由リ守路者(カントニエー)ニ對シテ起シタル訴訟ニ關涉ス可キ利益ト權利トヲ有ス千八百四十七年七月二十四日ソーファル件判決

貧院ニ扶助金ヲ出セル府ハ該院ノ擔務ニ關スル爭訟ニ關涉スルヿヲ得ヘシ千八百五十四年六月二十二日(モンペリエー)府及貧院件判決邑ハ本邑及ヒ其他ノ數邑ノ注漑ニ供用スル運河ノ受許與者ニ於テ其許與權失却ヲ宣告スル宰相ノ決定書ヲ不服トシテ起セル訴訟ニ就キ關涉訴訟ヲ參議院ニ對シテ起スノ權ナシ千八百六十一年七月四日(グコイユブー)件判決

參議院ハ單ニ債主タルノ名ヲ以テ關涉訴訟ヲ起スヿヲ普通ノ債主ニ許サス千八百五十一年四月五日「エル、エー、アンテル」會社件判決夫レ參議院ハ專ラ未來ニ屬スル利益ヲ保護センカ爲メニ現ニ起セル訴訟ヲシテ甚タ錯雜セサラシムルヲ得蓋シ負債主ハ裁判上ニ於テ其債主ヲ名代スルヲ得且ツ兩造密ニ相計リテ不正ノ處置ヲ爲シ若クハ其詭詐ヲ行フ場合ヲ除キ負債主ニ對スル控訴ス可カラサル裁判ヲ擧ケテ債主ニ抗拒ス可シ是ニ由テ債主ハ僅ニ此兩造密ニ相計レル不正ノ處置ヲ豫防スルカ爲メニ未來ノ利益ヲ有スルナリ今獨リ之ノミヲ以テ無數ノ債主ヲ以テ關涉訴訟ヲ起スニ堪ヘタル者トス可キヤ司法裁判所ハ此利益アレハ以テ訴訟法第四百六十六條ヲ適施スルニ充分ナリトナスニ由リ之ヲ債主ニ許ス可シトセリ然レモ參議院ハ行政訴訟ヲ以テ急速處分ヲ要ストシ且ツ務メテ單簡ニシテ錯雜ナラサラシム可シト思惟スルニ由リ却テ之ヲ債主ニ許ス可カラストセリ

債主ニ拒ミタル關涉訴訟ノ權ト民法第千百六十六條ニ依リ其負債主ノ權ヲ執行スルヿトヲ混同視ス可カラス凡ソ本條ニ賴リ債主ヨリ參議院ニ對シ義務ヲ怠リタル負債主ヲ訴ヘントスルモハ必ス豫メ裁判

所ヨリ負債主ノ權ニ代リテ自カラ之ヲ行フヿヲ許セル宣告ヲ得ルヲ要ス（千八百二十一年二月二十二日「ジュブリル」ニアル件千八百三十四年一月二十四日「セナー」件判決）是レ正ニ吾黨ノ貴重ナル代言人長クル故トノプルードン氏カ著ハセル「入額所得權等ノ論」ト題セル書中第二千二百三十六項以下ニ於テ民法第千百六十六條ヲ説明スル所ノ説ト相合ス

然レ𪜈破毀法院ハ此説ヲ許サス宜ク千八百四十九年一月二十三日及ヒ千八百五十一年七月二日ノ裁決ヲ參照スヘシ該裁決ニ因レハ債主ハ負債主ノ承諾若クハ裁判所ノ許可ナク𪜈其負債主ノ權利及ヒ訴訟權ヲ代行スルヲ得

下請負人ハ請負人ノ原被告タル訴訟ニ關渉スルヲ得ルヤ千八百二十一年四月十八日ノ「ブーベー」會社及ヒ「ルルー」會社ニ係ル參議院兩判決ノ附言及ヒ「ドゴルムナン」氏著書第五版第一卷第六十六葉ニ據レハ決

シテ關渉ス可カラサルナリ（ビタリ）件ニ係ル千八百四十三年一月二十七日ノ判決モ亦然リ蓋シ參議院ハ既ニ主タル請負人ノミヲ以テ責任アル者トスルカ故ニ行政官ニ於テ又下請負人アルヿヲ認ムルヿヲ必要トセストスルニ由ル（千八百六十一年二月十四日「ドゴフコンベルジュ」件判決）

然レ𪜈參議院ハ請負人ノ保證金ニ關シ第二等ノ特權ヲ有スル債主ヲシテ政府ニ此保證金ヲ附スルニ就キ起リタル爭訟ニ關渉セシムルヿヲ許セリ（千八百五十一年四月五日「エルルー、エー、ド、アンデル」件判決）此場合ニ於テ債主ハ其負債主ノ得テ動カス可ラサル所ノ固有權ヲ有ス

右ニ述フル所ト同一ノ理由ナルヲ以テ第二等ノ特權ヲ有スル下請負人ハ同上ノ保證金附託ニ關スル訴訟ニ關渉ス可シ（千八百六十一年四月五日判決ノ論據）「ドゴルムナン」氏著書第五版第一卷第六十七葉ニ云ク第二ノ買主ハ參議院ニ對シテ關渉訴訟ヲ起スヲ許サスト而シテ千八百二十一年十月

三十一日ノマイユ件ニ係ル參議院判決ヲ引證セリ吾輩ハ此說ヲ未タ確的ナラスト思惟ス夫レ甲ノ不動產ヲ買フテ乙ニ轉賣シタル落札者即チ第一ノ買主ハ此ノ如クシテ既ニ其所有權ヲ失ヒタル財產ニ就キ訴訟ヲ爲スノ權ナシ羅馬法ニ「物權訴訟ニ於テハ賣主ヲ訴ヘスシテ持主ヲ訴フ」トアル是ナリ又其轉賣ノ後ニ至リ該第一ノ買主ノ原被告タル訴訟ニ係ル控訴ス可カラサル裁判ノ力ハ第二ノ買主ニ向ヒ其効ナシ而シテ該第二ノ買主ハ反テ外國人ノ故障申述ヲ起ス可シ況ヤ關涉訴訟ヲ起スニ於テヲヤ之ヲ爲シ得ルヿ固ヨリ論ヲ待タサル可シ（訴訟法第四百六十六條）且ツ第一ノ買主ニ於テ現ニ訴訟ノ起レル際ニ該財產ヲ第二ノ買主ニ轉賣シタル時ト雖モ該第二ノ買主ハ其權利ヲ監守スルカ爲メニ該訴訟ニ關涉シテ賣主即チ第一ノ買主ノ怠慢若クハ姦計ヲ豫防スルノ關係ヲ有ス可シ然ラハ則チ第二ノ買主ハ其關涉訴訟ヲ受理セラルヘキ者ト言ハサル可カラス

關涉訴訟者ハ主タル訴訟ノ原告ノ控訴スル判決ニ非サル判決ノ取消ヲ訴求スルヲ得ス（千八百五十年八月十三日ベニエー件判決）「アンテルバンション」「兩造ノ間ニ關涉織入スルノ義」ナル語ノ正義ヨリシテ直チニ生シ來レルナリ若シ果シテ此見解ノ如クナラサルトキハ未タ始審ノ裁判ヲ受ケサル訴訟ヲ現ニ起セル訴訟ニ接入スルヲ許シテ始審終審ノ二段トナシタル裁判ノ大則ヲ破ルニ至ル可シ

一タヒ關係訴訟ヲ起シテ其權ヲ拋棄スル者ハ該訴訟ニ係ル入費ヲ出サヽル可カラス（千八百五十年二月二十二日シカル、ジュバル件判決）

第四節　訴訟ヲ更ニ起ス事及ヒ代言人ノ新設

第二十二條　未タ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ハサル訴件ニ於テハ兩造ノ一方ノ死去ニ因リ若クハ其死去ノ通達アルニ因リ若クハ代言

人ノ罷職禁職廢黜等ノ爲メニ暫ク本訴ヲ停止ス可シ

本訴停止ノ期限ハ訴訟ヲ更ニ起シ若クハ代言人ヲ新設スルマテ繼續ス可シ

第二十三條　既ニ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ヒタル訴件ノ判決ハ前條ニ擧クル塲合ノ爲メニ延期ス可カラス

第二十四條　兩造ノ一方ニ因テ爲シタル代言人廢止狀ニシテ他ノ代言人ヲ命シタルヿヲ之ニ併錄セサル者ハ他ノ一方ニ對シテ其效ナシトス（訴訟法第三百六十二條以下千八百二十八年八月十三日ノ王勅第九十三條乃至百三條）

既ニ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ヒタル訴件○本條ニハ訴訟法第三百四十三條ニ於ル如ク如何ナル者ヲ以テ既ニ裁判ヲ爲シ得ヘキ手順ニ運ヒタル訴件ト爲ス可キヤヲ指示セサレヒ其精神ヲ尋ヌルニ必シモ爲メニ既ニ口頭辯論ヲ開キ及ヒ訴廷ニ於テ請求ノ程式ヲ行フヲ要セ

サルヿ固ヨリ確乎タリ何トナレハ千八百三十一年前ハ口頭辯論及ヒ訴廷公行ノ制共ニ未タ在ラサレハナリ故ニ吾輩以爲ク豫審ヲ完了スル歟將タ呈書答辯ノ期限滿盡セシ時ハ其訴件ヲ以テ既ニ裁判ヲ爲シ得ヘキ手順ニ運ヒタル者ト觀察ス可キカ如シ（訴訟法第三百四十三條第二節ノ論據及ヒ千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第九十四條）

千八百三十一年二月二日ノ王勅ニ依リ訴廷公行ノ制ヲ創立シタルノ後ハ右ニ述フル所ノ解釋ヲ下ス可カラサルヤ隨テ今日ニ至リテハ訴訟法第三百四十三條第一節ヲ適施シ既ニ口頭辯論ヲ開キタルニ非サレハ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ヒタル訴件ナリトス可カラサルヤ吾輩ハ之ニ然リト答フル能ハス蓋シ千八百三十一年二月二日ノ王勅第三條及ヒ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書ハ唯兩造ノ代言人ニ許スニ申報アルノ後更ニ口頭辯明ヲ爲スヲ以テスルノミ是故ニ豫審ハ常

人ノ罷職禁職廢黜等ノ爲メニ暫ク本訴ヲ停止ス可シ

本訴停止ノ期限ハ訴訟ヲ更ニ起シ若クハ代言人ヲ新設スルマテ繼續ス可シ

第二十三條　既ニ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ヒタル訴件ノ判決ハ前條ニ擧クル場合ノ爲メニ延期ス可カラス

第二十四條　兩造ノ一方ニ因テ爲シタル代言人廢止狀ニシテ他ノ代言人ヲ命シタルヿヲ之ニ併錄セサル者ハ他ノ一方ニ對シテ其效ナシ（訴訟法第三百六十二條以下千八百二十八年八月十三日ノ王勅第九十三條乃至百三條）

既ニ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ヒタル訴件○本條ニハ訴訟法第三百四十三條ノ王勅第九十四條

千八百三十一年二月二日ノ王勅ニ依リ訴訟公行ノ制ヲ創立シタルノ後ハ右ニ逃フル所ノ解釋ヲ下ス可カラサルヤ隨テ今日ニ至リテハ訴訟法第三百四十三條第一節ヲ適施シ既ニ口頭辯論ヲ開キタルニ非サレハ裁判ヲ爲シ得可キ手順ニ運ヒタル訴件ナリトス可カラサルヤ吾輩ハ之ニ然リト答フル能ハス蓋シ千八百三十一年二月二日ノ王勅第三條及ヒ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書ハ唯兩造ノ代言人ニ許スニ申報アルノ後更ニ口頭辯明ヲ爲スヲ以テスルノミ是故ニ豫審ハ常サルヿ固ヨリ確乎タリ何トナレハ千八百三十一年前ハ口頭辯論及ヒ訟廷公行ノ制共ニ未タ在ラサレハナリ故ニ吾輩以爲ク豫審ヲ完了スル歟將タ呈書答辯ノ期限滿盡セシ時ハ其訴件ヲ以テ既ニ裁判ヲ爲シ得ヘキ手順ニ運ヒタル者ト觀察ス可キカ如シ（訴訟法第三百四十三條第二節ノ論據及ヒ千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第九十四條）

ニ文書ニ由テ爲シ判決ハ申報ニ由テ行フナリ蓋シ上ニ引キタル詔勅ノ本文ハ口頭辯明ヲ許スヿ訴訟法第百十一條ニ云フ所ニ異ナレヒ然レヒ此口頭辯明ヲ解シテ訴訟法第三百四十三條第一節ト其義ヲ同フセリトス可カラス加之ナラス參議院ニ申訴シタル決定書ニシテ若シ其越權ノ爲メニシ其既ニ裁判ヲ爲シ得ヘキ手順ニ違ヒタルニ於テハ兩造ノ一方ノ死去スルカ爲メニ其訴ヲ停止スルヲ得サルヿ明々タリ千六百十六年一月十三日ブザンシエ件判決千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第九十五條第三節

第五節　事實不認

第二十五條　兩造ノ一方參議院ニ非サル官衙ニ於テ其名ヲ以テ爲シタル文書若クハ訴訟手續ニシテ本院ニ致セル訴件ニ其影響ヲ及ホス可キ者ニ就キ事實不認ノ訴ヲ爲サントスルヒハ其旨ヲ他ノ一方ニ通照ス可シ司法宰相ニ於テ此事實不認ノ訴ヲ豫審ス可シト思惟スルヒハ之ヲ當該裁判官ニ廻致シテ定期限内ニ其豫審其判決ヲ爲サシム可シ此期限滿盡ノ後ハ事實不認ノ訴ニ係ル判決ヲ檢閲シテ主タル訴訟ノ申報ニ從事ス可シ但シ期限滿盡スレヒ判決ノ手續ニ至ラサル時モ亦同シ

第二十六條　參議院ニ於テ爲シタル文書若クハ訴訟手續ニ就キ事實不認ノ訴ヲ起スヒハ司法宰相ノ定メタル期限内ニ於テ代言人ニ對シテ急速吟味ヲ求ム可シ訴訟法第三百五十二條以下及ヒ千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第百四乃至第百十二條

參議院附屬代言人カ有スル訴訟上ノ名代權ハ普通裁判所ノ代書師ニ同シ（マンダートリヒム）該代權者ニ於テ事實不認ノ訴ノ基礎トナル可キ書憑ヲ既ニ携帶スレハ則チ其責ヲ免カルヿヲ得ルトスルヲ通論トス（ポチエー氏著「ジユ、マンダー」書名）第百二十九項ヲ看ヨ

又參議院附屬代言人ハ訴者ノ代人ヨリ訴訟ニ係ル書憑ノ交

與ヲ得ルニ由リ乃チ法ニ適シテ訴ヲ起スヲ得ヘシ千八百二十四年十二月二十二日ソー

プラル件判決

訴訟法ニハ猶ホ千八百六年ノ規則ニ言ハサル所ノ三種ノ附帶訴訟ヲ豫定ス即チ裁判官ニ對スル故障、訴訟消滅(ペランプシヲン)定期間ニ訴訟ヲ停止スルニ由テ其訴訟手續ヲ取消トス(レジユサシヲン)ル及ヒ訴訟權拋棄(デシストマン)是ナリ今行政訴訟ニ關シテ此三者ヲ許ス可キヤ將タ拒ム可キヤ請フ之ヲ左ニ詳論セン

第一種○裁判官ニ對スル故障ハ之ヲ許ス可キヿ勿論ナル可シト吾輩ハ思惟スルナリ或ハ言ハン果シテ然ラハ參議官ヲ以テ眞ノ裁判官ト豫定セシム可シ故ニ此說取ル可カラスト(ド、コルムナン氏著書第一卷第六十九葉)夫レ參議院ノ僚員ハ決シテ固有ノ權ナシ而シテ其判決スル所ノ事項ハ司法裁判上ノ者ト相異ナレルハ固ヨリ然リ此點ニ於テ吾輩ハ反對論者ト全ク其說ヲ同フセリ然レトモ之カ爲メニ實際上參議院ハ常ニ國長ノ採用スル所ト爲レル極メテ重要ノ判決ヲ創定シ隨テ該判決ハ司法上ノ裁判宣告ト同一ノ力ヲ有シ同一ノ效ヲ生スル行政上ノ裁判文書トナリ且ツ該判決ハ司法上ノ訴訟手續ニ係ル外面ノ程式ヲ假用スルヿヲ妨ケラルヽヿナシ然ラハ則チ何カ故ニ獨リ參議院ニ申訴スル兩造ノ爲メニ裁判官ニ對スル故障ノ保障ヲ與ヘサルヤ參議官モ亦人間ノ得テ免カルヿ能ハサル短所アル者ニ非スヤ決シテ其常ニ公平ナルヿヲ期ス可カラス本論ヲ主持セシカ爲メニハ宜ク左ノ諸項ヲ參考スヘシ

第一　千八百五十二年一月二十五日ノ詔書第二十二條○本條ハ現ニ參議院ニ出訴スル宰相決定書ヲ起創シタル參議官ヲシテ本訴ノ議決ニ與カラシム可カラスト定ム

第二　共和曆第九年花月十五日ノ布令第六條○本條ハ參事官ニ對スル故障ヲ許セリ

第三　千八百二十八年八月三十一日ノ王勅第百十八條○本條ハ訴訟法第三百七十八九條第三百八十、八十一條ニ掲クル場合ニ於テ藩屬地ノ內議會員ニ對スル故障ヲ許セリ

第四　ベルノール件ニ係ル千八百二十八年四月二日ノ參議院判決

○該判決ハ千八百七年九月十六日ノ法律ニ依テ構成シタル行政裁判所ノ一種ナル沼澤乾涸委員ニ對スル故障ヲ許セリ

第五　デボー件ニ係ル千八百三十三年四月二十五日ノ參議院判決

○該判決ハ護鄕兵檢査會員ニ對スル故障ヲ許セリ是レ千八百五十一年九月五日ノ詔書第十二條ニ因テ明カニ確認セシ者ナリ

裁判官ニ對スル故障ノ原由ハ訴訟法第三百七十八條及ヒ千八百五十一年九月五日ノ詔書第十二條ノ論辯中ニ明擧セリ但シ參議院ハ特ニ自カラ適當ト思惟スル原由ヲ採取シテ其他ノ原由ヲ拒絕スルノ隨便權ヲ行フヲ得ルナリ余カ此說ハトロレー氏著書第五卷第二千三百十三項ニ於テ取ル所トナリタレモジュフール氏ハ其著書第二版第二卷第三百四十六項ニ因リダレスト氏ハ其著ス所ノ行政裁判論第六百六十三葉ニ於テ之ヲ非斥セリ而シテダレスト氏ハ直チニ其下ニ一節ヲ附加シテ曰ク舊立君政ノ時ハ佛蘭西國ノ掌璽ハ決シテ其裁判權ヲ拒否セラルヽヿナシト雖モ參議官若クハ參議院ノ委員ニ對シテハ之ヲ拒否シ得ルヿ猶ホ千七百三十八年ノ王勅ニ見ルカコトシト（ダレスト氏著書第六百六十四葉）

此言ハ即チ余カ說ヲ確認スルナリ蓋シ掌璽ハ其員一名ノミ故ニ之ヲ拒否スルヲ得ス參議官ハ其員多シ故ニ之ヲ拒否スルヲ得ルナリ千七百三十八年ノ王勅ハ何故ニ今日ニ於テ必需執行ス可カラサルヤ之カ適當ノ辯解ヲ爲スハ殆ト能ハサル所ナル可シ

親姻族ノ故ヲ以テ訴件ヲ他ノ裁判所ニ廻致スルノ制ヲ定メタル訴訟法第三百六十八條ハ參議院ニ適施ス可カラサルヿ明々タリ何トナレハ本院ハ佛國内ニ於テ一ニシテ二ナキノ法衙ナレハナリ此ト同一ノ道理ナルヲ以テ今申訴スル所ノ王勅案ヲ總會ニ於テ議決シタル參議官ヲ拒否スルヲ得ス千八百三十二年五月十六日コラン件判決且ツ夫レ參議院ノ行政定規ヲ議決スルニ當リテヤ公利益ノ點ニ着意シテ下附セラレタル王勅ヲ調査セリ故ニ他日私權上ニ就テ行政訴訟ノ起レルニ及ンテハ必ス公平ニ之ヲ勘査判決ス可キナリ

第二種○訴訟消滅ハ參議院ノ許サヽル所ナリ千八百三十二年一月九日トルユエル件判決而シテ其理由ハ訴訟消滅ハ一種ノ失權ナリ失權ハ妄リニ增設スル者ニ非ス故ニ甲ノ場合ヨリ之ヲ乙ノ場合ニ推シ及ホスノ謂レナキカ爲メナリ但シ行政訴訟手續ハ迅速ヲ要スル者ナルカ故ニ千八百六年ノ規則ハ宜シク訴訟消滅ヲ許スヲ得ヘシ且ツ之ヲ許サヽル可カラサルヲ覺ユ千八百二十八年八月三十一日王勅第百二十二條ヲ看ヨ

第三種○訴訟權拋棄ニ關シ參議院ノ判決ハ訴訟法第四百二第四百三條ヲ行政訴件ニ適施シタリ千八百二十八年八月三十一日王勅第百二十一條ヲ看ヨ是レ其遂ニ然ラサルヲ得サルニ由ル蓋シ訴訟權拋棄ト訴訟承諾(アキスマン)ノ二者ハ參議院ト普通裁判所トニ通シテ適施シ得ル所ノ性質ヲ備ヘタル特殊ノ程式ナリ

訴訟權拋棄ヲ爲スノ程式ハ一方ノ代言人ヨリ唯ヽ訴訟權ヲ拋棄スル旨ヲ印紙ニ記シテ參議院ノ書記局ニ呈ス但シ相手方ニ其代言人アル場合ニ於テハ訴訟權ヲ拋棄スル一方ノ代言人ヨリ豫メ書記局ニ呈スル書ヲ之ニ致シテ其承認ヲ求ム必シモ爲メニ送達ノ式ヲ行フヲ要セス又參議院ハ該代言人ニ對シ爲メニ特別ノ權アルヿノ辯解ヲ命スルヲ

要セスト雖モ他日事實不認ノ訴ヲ起スヿ勿ラシムルカ爲メニ該代言人ヲシテ其依頼者ノ免狀ヲ有セシム可シ（シュフール氏著書第二版第二卷第三百四十九項ヲ看ヨ）

第三款

第一節　參議院ノ判決

（提要）第三百四十七　參議院判決ノ性質

第三百四十八　闕席判決ノ故障（ナポシヲン）申述

第三百四十九　故障申述ヲ經過セシムル爲メニ送達ヲ爲スノ方法

第三百五十　故障申述ハ如何シテ受理セラルヽヤ○規則ニ定ムル方法ノ不便

第三百五十一　兩造ノ一方ニ於テ闕席ヲ爲シタル時ニ普通法ニ從ハサル事○再ヒ送達ヲ爲サヽル事

第三百五十二　敬愼（ルクエトヽシヒル）ノ訴○其開始○トロレー氏ノ嚴酷ナル駁議ニ答フ

第三百五十三　敬愼ノ訴ノ期限及ヒ程式

第三百五十四　外人ノ故障（チエルスナポシヲン）申述○其程式

第三百五十五　外人ノ故障申述ヲ受理セラルヽニ必要トスル約款

第三百五十六　外人ノ故障申述ニ於テ敗訟スル者ニ命ス可キ處罰

第三百五十七　純然タル哀訴ノ手續

第三百五十八　右ノ手續ハ參議院ヨリ發出シタル判決ニ限リ行フ可キヤ

第三百五十九　哀訴ノ程式○哀訴ト行政訴訟トノ別

第三百六十　哀訴ハ現時請願ノ權ト相混ス

第三百六十一　訴訟入費○人民相互ノ訴ニ係ル訴訟入費ヲ命スル事

第三百六十二　政府ノ原被告タル訴訟ニ係ル特例

第三百六十三　政府ニ於テ代言人ヲ命シテ辯護ヲ爲サシメタル時ハ如何

第三百六十四　鑑定ニ係ル特別

第三百六十五　州ハ訴訟入費ヲ免カル能ハス

第三百六十六　前拂ノ訴訟入費ヲ扣除スルハ如何

第三百六十七　參議院ハ訴訟入費ノ判決ニ就キ遺脫スル所ノ者ヲ補正ス

第三百六十八　參議院ハ損害要償ノ訴ヲ判決スルヲ得ルヤ

第三百六十九　參議院ハ其職務ヲ以テ公ケノ土工ヲ命スルヲ得ス

第二十七條　參議院ノ判決書ニハ兩造ノ姓名身分其請求及ヒ主タル書憑ヲ檢閲シタルヿヲ載錄ス可シ

參議院ノ判決書○參議院ハ固有ノ權ナキカ故ニ自カラ判決ヲ爲サヽルヿハ吾輩既ニ説明セリ（第八十四以下ヲ看ミ千八百五十二年一月二十五日ノ詔書第二十四條ヲ看ヨ）而シテ該判決詔書案ハ行政裁判權ヲ獨握スル國長ヨリ發出スル者ト看做セリ但シ吾輩カ何故ニ舊時ヨリ唱フル所ノ參議院判決ナル名稱ヲ存用スルヤハ亦既ニ之ヲ説明シタリ（第二百六十三項ヲ看ヨ）

姓名身分○是レ訴訟法第百四十一條ニ同シ

主タル書憑ノ檢閲○規則第三十二條ニ依テ起セル敬愼ノ訴アル場合

ニ際シ不服トスル判決ノ以テ基礎トスル所ノ書憑ハ如何ノ者ナルヤヲ
ヲ據證スルカ爲メニ主タル書憑ヲ檢閲セシヲ原判決書ニ載スルヲ
有益トス

第二十八條　參議院ノ判決ハ本訴ヲ擔當スル參議院附屬代言人ニ豫
メ之ヲ送達シタル後ニアラサレハ敗訟者ニ對シテ執行ス可カラス
（訴訟法第百四十七條）

本條言フ所ノ該博含容セサル者ナキニ拘ハラス行政官ハ其敗訟セル
判決ヲ訴者ノ代言人ニ豫メ送達セシムルヲナシ（コテール氏著行政法講義第二版第一卷第二百四葉ヲ看ヨ）

第二節　闕席判決ニ係ル故障申述

第二十九條　參議院ノ闕席判決ニ對シ故障申述ヲ爲スヲ得ヘシ但シ
特ニ命令スルヿアルニ非サレハ故障申述ノ爲メニ判決執行ヲ停止
スヿ可カラス

故障申述ハ闕席判決書ノ送達ヲ得タル日ヨリ三ケ月内ニ爲ス可シ
此期限ヲ過クレハ其効ナシトス

故障申述ヲ爲スヲ得ヘシ○茲ニ言フ所ノ普通ノ故障申述ハ特ニ參議
院ニ召喚セラレタル者ニ限リテ之ヲ爲スヲ許ス若シ夫レ自カラ召喚
セラレス或ハ代人ヲ出サスト雖モ己レニ損害アリトスル判決ヲ故障
セント欲スル者ハ第三十七條ニ掲クル所ノ外人ノ故障申述ヲ爲ス可
シ是ニ由リ行政訴訟手續ヲ定メタル千八百六年七月二十二日ノ規則
公布ノ前ニ係ル行政訴件ノ闕席判決ニ對シ爲メニ損害ヲ受ケタリト
スル者ヨリ普通ノ故障申述ヲ爲ス可カラス（千八百十六年二月十日「ドラガルド」件判決）然レ
ヒ外人ノ故障申述ヲ爲シ得ヘシト論定ス可シ
規則ニ準シテ訴訟ノ通照ヲ致シタレヒ一方ニ於テ曾テ之ニ答辯ヲ爲

サヽル時ニ下シタル判決モ亦故障申述ヲ爲ス可キ闕席判決ト觀察ス可シ故ニ訴訟ヲ被告ニ通照スルヿヲ任セラレタル州長ニ於テ該被告ハ一モ注意演述ス可キヿナシト答ヘタリト申告スルノ一事ヲ以テ被告ハ裁判ヲ受クルヲ諾シ隨テ其判決ヲ對理裁判ノ効アル者ト定ムルヲ得（千八百五十年四月十日ボールバンデジサル件判決）

通照ノ命令ニ因テ參議院ニ召喚セラレタル州ニシテ參議院附屬代言人ヲ經由シ定規ノ辯護ヲ爲サヽレヒ書類ヲ通照セラレタル宰相ヨリ訴件ニ就キ諮詢セラレタル州長ニ於テ注意書ヲ認記シテ宰相ニ呈送シ宰相ヨリ更ニ之ヲ參議院ニ通致シタル時ハ此際ニ下セル參議院判決ヲ闕席判決トス可シ故ニ州ハ該判決ニ對シテ故障申述ヲ爲スヲ得（千八百五十九年三月十二日アルデヌ州判決）

判決執行ヲ停止ス可カラス○故障申述ハ本來控訴ニ於ル如ク判決執行ヲ停止ス可キ所ノ手續ニ非ス（千八百六年訴訟書第三條）ノ是レ其普通裁判所ニ於テ行フ所ト異ナル者ナリ（訴訟法第百五十五條）其理由如何トナレハ蓋シ行政訴件ハ法律上ニ於テ急速處分ヲ要スト推測スレハナリ若シ急速處分ヲ要セサル者ハ則チ特例ニ屬ス故ニ之ヲ告示指定スルヲ必要トス

三ケ月内○此期限ハ實ニ過甚ナリトス讀者請フ起訴以來ノ諸期限ニ注意セヨ蓋シ原告ハ參議院ニ起訴スル爲メニ三ケ月ノ期限ヲ有セリ（第十一條）而シテ其通照ノ命令ヲ得ントスルニハ更ニ未定ノ時日ヲ要シ次テ該命令ヲ送達セシムルカ爲メニ又三ケ月ノ期限アリ（第十二條）是時被告ハ代言人ヲ定メテ答辯ヲ爲スカ爲メニ十五日乃至二ケ月ノ期限ヲ有シ（第四條）此期限滿盡スルニ至リテ始メテ闕席判決ヲ下スヲ得而シテ此闕席判決ニ對シテ故障申述ヲ爲スニハ尚ホ被告ノ爲メニ三ケ月ノ猶豫期限アル可シ豈ニ過甚ナラスヤ察スルニ闕席判決ノ假執行ヲ命シ

テ之カ停止ヲ許サヽルハ蓋シ此等ノ不便ヲ匡正センカ爲メナル可ケレトモ未タ其弊害ヲ破ルニ足ラス

送達ヲ得タル日○法ニ適スル送達方法ハ如何且ツ送達ヲ爲スニハ普通裁判宣告書ニ於ル如ク宜ク使吏ニ依頼スヘキヤ吾輩ハ政府ノ爲メニ爲シタル判決ト人民若クハ會社ノ爲メニ爲シタル判決トニ由テ第十一條ニ定メタル區別ヲ許ス可シト信スルナリ故ニ第一種即チ政府ノ爲メニスル判決ハ行政上ノ送達ヲ行ヒ第二種即チ人民若クハ會社ノ爲メニスル判決ハ使吏ニ依頼シテ送達スルヲ必要トス（第二百九十七項ヲ看ヨ）之ニ第十一條及ヒ第十六條ノ註脚ニ掲ケタル理由ヲ併セ考フレハ愈〻吾輩ノ説ヲシテ鞏固ナラシムルニ足ル

參議院ニ出訴スルカ爲メニ本院附屬代言人ヲ定ムルヿヲ必要トセスシテ前ノ第二百七十九項ニ論記シタル特例ハ均ク該項ニ擧ケタル訴件ニ係ル故障中述ニ適施ス故ニ敗訟スル故障申述者ニ向ヒ何レノ訴訟入費ノ辨償ヲモ宣告スルヲ要セス（千八百五十年八月十日ホルバンデ、ジサル件判決）

參議院ニ於テハ普通裁判所ニ於ル如ク訴者ニ對スル闕席判決ノ故障申述ト代言人ニ對スル闕席判決ノ故障申述トヲ區別セス（訴訟法第百五十七條第百五十八條）故ニ第四條ニ定ムル答辯書ヲ致サヽルニ由テ生スル凡テノ失錯ハ皆訴者ニ歸ス此答辯書ヲ致スノ前ニ代言人ヲ定メシヿヲ豫告スル普通裁判手續ニ於ル如ク〻セス（第五條）

政府ノ爲メニスル闕席判決ノ送達ヲ行政官吏ノ普通文書ニ因テ爲シタル時ハ敗訟者ヨリ其領収證書ヲ獲以テ其送達セラレシヿヲ否ミテ定期限後ニ故障申述ノ訴ヲ起スヿヲ豫防スルヲ緊要トス若シ領収證書ヲ獲サルトキハ使吏若クハ其他ノ調書ヲ作ル權ヲ有スル吏人ヲシテ送達ヲ行ハシムルヲ良策トス

第三十條　委員ニ於テ故障申述ヲ受理スル可シトスル意見ナルトキハ其由ヲ參議院ニ申報ス可シ參議院ハ必要トスル場合ニ於テ兩造ヲシテ闕席判決前ノ地位ニ復ラシム可シ

故障申述ヲ許シタル判決ハ當日ヨリ八日内ニ相手方ノ代言人ニ送達ス可シ

故障申述ヲ爲ス者ハ其訴狀ヲ參議院ノ書記局ニ呈スルヿ猶ホ主タル訴訟ニ係ル訴狀ニ於ルコトシ（第一條論據）必要トスル場合ニ於テ○特ニ文字ノ上ニ就テ觀察ヲ下セハ故障申述ノ受理不受理ハ行政訴訟委員ノ簡單ナル申報ニ因テ參議院之ヲ判定ス可クシテ本院ハ縱令前條ニ定メタル期限間ニ故障申述ヲ爲シタル場合ニ於ルモ常ニ之ヲ拒否スルノ權ヲ有ス可キナリ現ニ第三十條ニ云ク委員ハ參議院ニ申報ス可シ而シテ本院ハ必要トスル場合ニ於テ兩造ヲシテ闕席判決前ノ地位ニ復ラシム可シト而シテ更ニ一節ヲ附添シテ云ク故障申述ヲ許シタル判決ハ相手方ノ代言人ニ送達ス可シト是ニ由テ之ヲ觀レハ闕席判決ニ由テ勝訟スル者ハ之ニ對スル故障申述ヲ參議院ニ於テ特ニ許允受理シタル後ニ至ラサレハ故障セラレタリトス可カラサルカ如シ夫レ此ノ如クニ處分スルヲ以テ法ニ適シ且ツ規則ノ明文ニ依準スル者トナシテ疑フ可キナシ蓋シ本條ハ訴狀ノ隨即却下ノ方法ニ從フ者ト解ス可シ之ヲ詳說スレハ參議院ヲ以テ之ニ致セル凡テノ訴求若クハ猶豫願ヲ調査シテ其受理ス可カラサルヿ若クハ其不當ナルヿヲ瞭知スルトキハ相手方ニ通照セスシテ直チニ之ヲ却下スルノ方法ニ從ヒタルナリ是故ニ本條ニ係リ詔書ニ依テ參議院ニ許スニ必要トスル場合ニ限リ故障申述ヲ受理シ若シ其不當ナルヿ明白ナル者ハ縱令成規ノ期限内ニ訴出スルトキ之ヲ却下スルノ

權ヲ以テシタルハ原告ノ利益ヲ圖リテ空ク無用ノ時日ヲ費ヤシ無益ノ訴訟手續ヲ爲サヽテシメンカ爲メナリ

然レトモ訴件處分ノ極メテ迅速ナランコヲ得ンカ爲メ且ツ闕席判決ノ勝訟者ニ損害ヲ被ラサラシメンカ爲メニ設ケタル方法ノ或ハ却テ豫期スル所ノ目的ニ背クハ甚タ恐ル可キナリ何ヲカ預期スル所ノ目的ニ背クト謂フヤ參議院先ツ闕席判決ノ勝訟者タル原告ニ問フコヲナク會〻謬リテ期限外ニ致セル違則ノ故障申述ヲ認許受理シテ相手方ニ之ヲ通照シ其答辯ヲ命スルトセン此時ニ當テヤ該原告ハ爲メニ故障申述ヲ受理ス可カラスト主張セントスル論據ヲ失フ可シ若シ此論據ヲ失フコヲナク參議院ニ於テ期限外ノ故障申述ヲ受理シタルニ拘ハラス其受理ス可カラサルコヲ主張シ得ルトスル時ハ參議院ニ於テ其始メニ受理ス可シトスル判決ヲ取消サヽルヲ得サルニ至ル可シ此レ豫期スル目的ニ背クニ非スヤ更ニ故障申述者ニ就テ之ヲ論セン夫レ此者ニシテ直チニ其故障申述ヲ却下セラレタルトキハ爲メニ自カラ公行訟廷ニ於テ口頭辯論ヲ爲スノ利益ヲ奪ハル可シ此レ亦豫期スル目的ニ背クニ非スヤ抑〻此ノ如キノ理由アルヲ以テ主タル訴訟ノ隨即却下ノ方法ハ現ニ實際上之ヲ行ハサルコハ吾輩既ニ之ヲ論セリ（第七十三項）然ラハ則チ適法ノ故障申述ノ受理ヲ許認シテ以テ故障申述者ヲシテ訟廷ニ出テヽ其故障スル理由ヲ辯解セシメサル可カラス而シテ故障申述者ニ之ヲ許シタリトテ決シテ規則ノ明文ニ違フノ害ナシ唯〻爲メニ參議院判決ノ材料トナル可キ豫審手續ヲ稍〻延引スルノミ而シテ此ノ如クスレハ普通裁判所ニ於テ隧行スル訴訟手續ノ大則ニ循フノ利アリ但シ故障申述中規則ニ準スト雖モ其不當ナル者ハ程式上ニ於テ受理ス可キモノ事案上ニ於テ却下サル可シ（千八百三十七年七月四日ガラントン件判決）

第三十一條　闕席者ト同一ノ利益ヲ有スル者ト原告トノ對理判決ニ對スル該闕席者ノ故障申述ハ受理ス可カラス

普通法ニ從ハサル所ノ此特別條規アルハ行政裁判ノ迅速ナランコトヲ欲シテナリ故ニ參議院ニ召喚セラレタル被告二名以上アリテ甲ハ闕席シテ乙ハ出廷スル時ニ當リ更ニ闕席者ヲ召喚シ其出廷スルニ至ルマテ本案判決ノ猶豫ヲ宣告スルヿ訴訟法第百五十三條ニ於ル如クスルヲ要セス直チニ闕席者ヲ出廷者ト同一視シ全被告ニ向ヒ對理判決ヲ爲スト看做スヿ普通裁判所ニ於テ再召喚ノ後ニ爲シタル裁判宣告ト異ナルナシ此ノ如クスルトキハ普通裁判所ニ於ルヨリモ時日ト費用トヲ少フシテ一樣ノ判決ヲ得ルノ利アリ

第三節　對理判決ノ申訴

第三十二條　參議院附屬代言人ハ左ニ擧ル二箇ノ場合ヲ除ク外對理判決ヲ申訴ス可カラス違フ者初犯ハ罰金ヲ科シ再犯ハ停職若クハ廢職ヲ命ス可シ

第一　贋造ノ書憑ヲ以テ訴ヲ起セシ時

第二　相手方ニ於テ隱藏セル緊要書憑ヲ出サヽルカ爲メニ敗訟セシ時

此第一第二ノ敬愼ノ訴ヲ起スノ手續ニ附加スルニ千八百五十二年一月三十日ノ詔書第二十條ニ揭クル第三ノ手續ヲ以テスルヲ要ス該條ニ云ク參議院ノ開會調書ニハ一月二十五日ノ詔書第十七第十八第十九第二十二第二十三第二十四條ノ規則ヲ踐行シタルヿヲ記載ス但シ此等ノ規則ヲ遵踐セサル場合ニ於テハ千八百六年七月二十二日ノ規則第三十三條ニ定ムル程式ニ準シ調直ノ訴ヲ起スヲ得ト

參議院ニ諮詢判決スル皇帝ハ行政訴訟ノ最上等法官ナルカ故ニ皇帝ヨ

リ發出スル對理判決ニ向ヒ何レノ訴訟ヲモ起スヲ得ス何トナレハ皇帝ハ其掌握スル特權ノ區域内ニ於テ無上主權ノアルアレハナリ而シテ今千八百六年ノ規則中ニ普通裁判所ニ於テ行フ所ノ敬慎ノ訴ニ均キ手續ヲ擧ケテ之ヲ許シタルハ其上文ニ論スル主義ニ違ハサルニ由ル蓋シ敬慎ノ訴ハ現ニ訴フル所ノ判決ヲ下シタル同一官衙ニ致セル者ナリ」罰金○本條ニ罰金ノ額ヲ定メサルニ因リ之ヲ適施スルニ臨ミ十「フラン」ノ罰金ヲ代言人ニ命スルハ專濫ナリトス若シ敢テ此ノ如クスルハ則チ吾邦今日ノ慣習ニアラス訴訟法第四百九十四第五百條千八百五十八年一月二十一日プラモトン件判決ヲ看

對理○訴訟法第四百八十條ハ終審ノ闕席裁判ニ就キ亦敬慎ノ訴ヲ起セシニ今獨リ之ヲ對理判決ニ限リタルハ何ノ故ソヤ

トロレー氏ハ其著書第五卷第二項千三百四十六項對理判決及ヒ闕席判決ノ別ナク皆調直ノ訴ヲ起スヲ許シ之ニ反對スル說ハ甚タ道義ニ戻リ且ツ訴訟法第四百八十條ニ違ヘリトセリ抑此一點ニ關シ千八百六年ノ詔書ノ訴訟法ニ反對スルヿヲ會得センカ爲メニハ之ヲ熟讀玩味スルヲ以テ足レリトス請フ其彼此ノ差異アル所以ヲ辯セン蓋シ參議院ニ致ス可キ故障申述ノ期限ハ敬慎ノ訴ノ期限ニ同一ナルヿ第二十九第三十三條ニ見ルカ如シ而シテ故障申述ハ訴ヘントスル者ノ爲メニ調直ノ訴ヨリモ便利ナルヲ以テ故障申述ノ期限間若クハ其期限後ニ敬慎ノ訴アルヲ得ス然レトモ普通裁判所ニ於ル故障申述ノ期限ハ其敬慎ノ訴ノ期限ヨリモ短キニ由リ訴訟法第百五十七第四百八十三條故障申述ヲ爲スノ後ニ敬慎ノ訴ヲ起スヲ得ルナリ

トロレー氏ハ前ニ載スル所ノ文ニ一節ヲ附加シテ云ク故障申述ノ期限滿盡スル時ハ乃チ第三十二條ニ言フ所ニ從フト余ハ之ニ答ヘテ曰

ハン始メヨリ期限ノ同一ニシテ短長ナキ者ヲシテ如何ンカ甲ノ期限ヲ乙ノ期限ニ繼カシム可キヤ又對理判決ノミニ就テ言フ所ノ第三十二條ヲシテ如何ンカ闕席判決ニ推及ス可キヤ共ニ爲ス可カラサルナリ而シテ此期限ノ同一ナルヿハ之ヲ左ノ場合ニ徵シテ明白ナリトス即チ第一、千八百五十二年一月三十日ノ詔書第二十條ニ依テ定メタル訟廷公行ノ規條ニ違犯スルヲ以テ敬愼ノ訴ヲ起セル時第二、贋造ノ書憑若クハ相手方ノ爲メニ隱藏セラレタル緊要書憑ヲ發覺スルニ由テ敬愼ノ訴ヲ起セル時是ナリ蓋シ此時ニ當リ出訴期限ハ宜ク贋造書ノ發見若クハ緊要書憑ヲ隱藏スルヿヲ發覺スル日ヨリ起算スヘシ是レ正ニ裁判宣告ヲ不服トスル普通手續（訴訟法第四百四十八條）及ヒ裁判外ノ手續（訴訟法第四百八十八條）ト其起算方法ヲ同フス（千八百二十七年六月廿一日破毀法院裁決ノ論據）此ノ如クナルキハ則チ之ヲ法理ニ適シ又道義ニ合スル者ニシテ其明白苟モ疑フ可キナキヿ猶ホ恰モ算術上ノ設辭（デフレム）ニ於ルカコトシ或ハ敢テトロレー氏ノ如キ反對說ニ從フハ是レ良知ヲ廢スルナリ道理ヲ舍ツルナリ本節ノ命題ニ明記スル如ク特ニ對理判決ニ限リ調直ノ訴ヲ許セル千八百六年ノ詔書第三十二第三十四第三十六條ノ明文ニ違フナリ且ツ故障申述及ヒ調直ノ訴ハ同一期限ニ於テ起ス可シト云ヘル第二十九第三十三條ノ本文ニ戻ルナリ果シテ然ラハ其甚タ道義ニ戻レリトス可キトロレー氏ノ言ノ如キ者アランヤ若シアラハ此レ余ノ考案ノ及フ能ハサル所ナリ

調直ノ訴ハ千八百六年七月二十二日ノ規則公布以後ニ係ル對理判決ハ勿論是ヨリ以前ニ政府ヨリ發出シタル對理判決ニ對シテ起スヲ許ス（千八百十五年十一月二十日ヒュジェ件、千八百十六年三月六日パコー件判決）贋造書憑○贋造ナリト主張スル書憑ハ現ニ不服トシテ訴出シタル判

決ニ影響ヲ及ホス可キ者ナルヲ要ス（規則第二十條末節ノ論據千八百八年一月十一日「コンプ」會社件判決等ヲ看ヨ）緊要書憑○此件ニ係ル起訴手續ハ二ツノ要約ヲ具ス可シ第一書憑ノ確的ナルヿ第二該書憑ヲ相手方ニ於テ隱藏スルヿナリ（千八百三十五年五月四日ジルベル件同年七月十日ジアンチノ件判決）宰相局若クハ行政局ノ書庫ニ藏ムル書憑ニシテ敗訟者ノ隨意ニ謄寫スルヲ得ル者ヲ相手方ノ隱藏スル書憑ト觀察ス可カラス（千八百十六年六月四日スグウエチーセル件判決千八百五十三年八月二十二日スグウエチーセル件判決マカレル氏行政裁判原論第一卷第八十五葉コルムナン氏著書第五版第一卷七十六葉ヲ看ヨ）

參議院ニ於テ偶〻訴願スル事項ノ一ヲ判決スルヿヲ遺脫シタルトキハ訴訟法第四百八十條第五項ニヨリ普通裁判所ニ於テ執行セル如ク敬愼ノ訴ヲ起スヲ要セス本院ノ追テ之ヲ判決シテ其遺脫スル所ノ者ヲ補

足スルカ、爲メニ唯〻其事ヲ具申シテ足ル（千八百四十一年八月十一日イカル件千八百四十九年七月二十一日サントスール寺務局件判決）

參議院ニ於テ行政官ノ爲メニ爲シタル對理判決ニ就キ敬愼ノ訴ヲ受クル時ハ原告ノ請求ニ因テ未タ本院ニ呈セサル書憑ノ搜索及ヒ携帶ヲ命セス宜シク原告タル者隨意ニ千八百六年七月二十二日ノ詔書第三十二條ニ依テ命シタル論辯ヲ爲シテ其敬愼ノ訴ヲ主持スヘシ（千八百五十三年八月二十二日スクウエチーセル件判決）

第三十三條　敬愼ノ訴ハ闕席判決ノ故障申述ト同一期限ニ於テ及ヒ同一方法ニ於テ之ヲ爲ス可シ

同一期限○之ヲ詳說スレハ程式違犯ニ係ルトキハ（千八百五十二年一月三十日ノ詔書第二十條）三ケ月內ニ（第二十九條）敬愼訴訟ヲ起シ又判決書ノ送達ヲ得タル日ヨリ三ケ月內ニ敬愼訴訟ヲ起シ又贋造書憑若クハ相手方ノ隱藏スル書憑發覺ニ係ルトキハ之ヲ發覺シタ

ルノ日ヨリ亦三ケ月内ニ於テスルナリ訴訟法第四百八十八條蓋シ「非難ハ人ニ對シテ急ニス可カラス事ニ對シテ亦然リ」ト云ヘル原則ニ循ヒ敬慎訴訟ノ期限ハ必ス常ニ判決書ノ送達ヲ得タル日ヨリ起算セサルヿ論ヲ俟タス故ニ前項ニ於テ凡ソ贋造書憑若クハ相手方ノ爲メニ隱匿セラレタル緊要書憑ニ關シテ之ヲ發覺シタル日ヨリ出訴期限ヲ起算スト論シタリ加之ナラス敬慎ノ訴ヲ受理セラレント欲スレハ必ス先ツ對理判決アルヲ要スルヿ亦前項ニ陳フルカ如シ然レ𪜈此等書憑ヲ發覺シタル日ヨリ空ク三ケ月ヲ經過シ遂ニ敬慎ノ訴ヲ起サヽル𪜈ハ則チ其出訴權ヲ失却ス千八百五十八年一月二十一日プラモトン件判決

同一方法○敬慎ノ訴ヲ起サントスル時ハ代言人ノ署名スル訴狀ヲ用ユル程式ニ準スルヲ必要トス代言人ニ依頼セスシテ參議院ニ出訴シ得ルノ事件例ヘハ邑選擧ニ係ル訴件ノ類ニ於ルモ亦然リ千八百三十九年一月十四日セルビエール邑件千八百四十二年三月一日タベルニエー件判決

敬慎ノ訴ハ必要ナル場合即チ參議院ニ於テ直チニ之ヲ却下ス可シト思惟セサル場合ニ當リ受理セラル可シ第三十條ノ論據

第三十四條　對理判決ヲ下シタル年内ニ之ヲ不服トスル敬慎ノ訴訟ヲ受理シタル時ハ被告若クハ其代言人ノ住所ニ其通照ヲ爲ス可シ

該代言人ハ更ニ委任ヲ受クルヿナクして直チニ該訴訟ニ從事セサル可カラス訴訟法第四百九十二第千三十八條

第三十五條　對理判決ヲ下シタル年後ニ前條ノ訴訟ヲ受理セラレタルトキハ被告若クハ其住所ニ其通照ヲ爲シ規則ニ定ムル期限内ニ之カ答辯ヲ爲サシム可シ

第三十六條　對理判決ヲ不服トスル第一訴訟ヲ判決シタルトキハ復タ新判決ニ對スル第二訴訟ヲ受理ス可カラス此規條ヲ犯シテ訴狀ヲ

呈シタル代言人ハ第三十二條ニ掲ケタル處刑ヲ受クヘシ

受理スヘカラス○是レ「敬慎訴訟ニ關スル敬慎訴訟ハ其價値ナシ」ト云ヘル原則ヲ適施スルナリ千八百三十四年一月十七日ラトルュフ件千八百三十六年五月二十四日ラルーピー件判決等ヲ看ヨ

第四節　外人ノ故障申述

第三十七條　判決宣告ノ時ニ臨ミ本人幷ニ其代人ヲ招喚セサルニ因リ參議院ノ行政訴訟判決ヲ故障セント欲スル者ハ普通ノ程式ニ準スル訴狀ヲ以テスルノ外其故障申述ヲ爲スヲ得ス但シ該訴狀ヲ參議院書記局ニ呈スル手續ハ第一篇ノ規條ニ準ス可シ訴訟法第四百七十四條

外人ノ故障申述ト異ナレリ蓋シ普通ノ故障申述ハ召喚セラレタレ𪜈判決宣告ノ時出廷セサル者ノ爲メニ之ヲ許シ外人ノ故障申述ハ己レニ損害ヲ及ホス可キ判決宣告ノ時始メヨリ曾テ召喚セラレサル者ノ爲メニ設ク

法律ニ依リ兩造ニ對シ代言人ニ依頼スルヿヲ要セストスル行政訴件ニ係ル外人ノ故障申述ハ亦代言人ナクシテ行フヲ得ルヤジュフール氏ハ之ヲ普通ノ故障申述ト同ク普通ノ訴訟手續ト思考スルカ故ニ代言人ナクシテ可ナリト言ヘリ第三百六十八項ヲ看ヨ余ハ此見解ニ就テ疑ナキ能ハス何トナレハ訴訟法第四卷ニハ外人ノ故障申述ヲ以テ異常ノ訴訟手續ト名クル題中ニ置ケハナリ然レ𪜈畢竟外人ノ故障申述ニ關シテハ參議院ニ致セル普通訴訟ニ適施ス可キ手續規則ヲ始終準用スルヲ以テ遂ニジュフール氏ノ見解ニ從ハサルヲ得ス

參議院ノ行政訴訟判決○外人ノ故障申述ハ參議院ノ行政訴訟判決ニ限ラス行政訴件ヲ判決シタル舊政府ノ布令及ヒ王勅ニ就キ亦此申述ヲ許ス可シ千八百七年八月十八日メーニエー件千八百二十一年三月二十八日ロシュホール府件判決凡ソ政府ヨリ

發出シタル行政訴件上ノ文書ニシテ私權ヲ害スル者ハ爲メニ自カラ召喚セラレス若クハ代人ヲ出サヽル者ニ於テ皆外人ノ故障申述ヲ爲スヲ得ルナリ而シテ其情狀極メテ多シト雖モ外人ノ故障申述ヲ受理セラレンカ爲メニハ唯參議院ノ議決ニ於テ其召喚ヲ遺却シタルノ一事ヲ以テ既ニ足レリトス可シ（第二百四十七項以下ヲ看ヨ）

召喚セサルニ因リ○吾輩ハ召喚セラレサルナリ而シテ吾輩ト此判決宣告ノ時ニ出廷シタル者トハ互ニ其身ノ分限ヲ相同フセサルナリ」ト主張シテ該判決ノ命スル所ヲ拒否セントスル者ノ爲シタル故障申述ハ受理セラル可シ更ニ此拒否セントスル者ノ上ニ述ヘタル所ヲ復言スレハ該判決ハ「デ、エキセプト、レイ、ジュド」ナル羅馬法第十四項及ヒ訴者ヲ以テ同體トスル民法第千三百五十一條ニ因テ命シタル要約ニ違フカ故ニ吾輩ニ對シテ控訴ス可カラサル裁判タル力ナキノ謂ナリ此場合ニ臨ミ自カラ召喚セラレス若クハ代人ヲ出サヽルニ宣告シタル判決ヲ受ケタル者ハ先ツ此判決ニ因テ生スル控訴ス可カラサル裁判ノ力ヲ拒ミ得ルカ爲メニ外人ノ故障申述ヲ爲スヲ必要トス（千八百四十七年四月二十四日破毀法院裁決）是故ニ其被ラサレタル判決ノ執行ヲ沮止センカ爲メニ「人ニ對スル裁判ハ曾テ已レニ關セス」ト云ヘル格言ヲ援テ自カラ持スルヲ以テ充分トス可カラス何トナレハ現ニ問題トナリテ宜ク外人ノ故障申述ト名クル訴訟手續ヲ用サテ分解ス可キ所ノ者ハ控訴ス可カラサル裁判ノ力ニ由テ其縛束セラルヽヤ否ヤヲ知ルノ點ニ在ルヿ明確ナレハナリ蓋シ外人ハ此外人ノ故障申述ナル方法ニ賴テ之ニ被ムラセントスル判決ニ故障スルナリ（千八百六十年リヨン裁判所判決）

判決宣告ノ時ニ出廷シタル者ト出廷セスシテ之ヲ命セラレタル者ト或ハ同體タリ或ハ同體タラサルヿハ果シテ何レノ場合ニ於テ然ルヤ

更ニ辭ヲ設ケテ之ヲ言ヘハ何レノ時ヲ以テ判決宣告ニ於テ名代セラレタリト看做シ何レノ時ヲ以テ名代セラレサルト看做セルヤ此點ハ控訴ス可カラサル裁判ノ力ニ關スル民法上ノ主義ニ屬シ吾輩ノ今論ス可キ所ニ非ス故ニ吾輩ハ唯此件ニ關シ參議院ノ判決ハ普通法ノ規則ニ依準セリト述フルヲ以テ足レリトス可シ

是ニ由リ參議院ハ左ニ擧ル者ノ外人ノ故障申述ヲ爲スヲ許サスト判決セリ

第一　相續ヲ爲ス者ニ對スル判決ニ就キ相續ヲ受クル者千八百十七年四月九日カンブレー寺務局件判決

第二　讓與者ノ關係スル詔書ニ就キ受讓與者千八百七年八月十八日メーニエー件判決

又受讓與者及ヒ其他ノ權利者カ既ニ決審シタル訴訟ニ於テ出廷セシ時ニ當リ其讓與者千八百二十五年九月一日クローセル件判決

第三　判決前ニ代理委任ヲ取消シタルヿヲ據證セサル時ハ代人タル公領管理局ヲ以テスル對理判決ニ就キ外國ニ遷居スル者千八百二十一年九月五日メイー件判決等

第四　負債主ヲ以テスル對理判決ニ就キ債主千八百二十六年六月四日ドラバル件判決

但シ負債主ニ於テ詭詐ヲ爲サス密計ヲ行ハサル時ニ限ル可シ

第五　契約書ニ於テ買主ヨリ賣主ニ對シ現ニ起レル訴訟ヲ繼續スルヿヲ委任シタル時ハ賣與ノ前後ヲ論セス賣主ヲ以テスル判決ニ就キ買主千八百四十一年一月二十九日ルプレポスト件判決

利益ハ出訴權ノ尺度ナルカ故ニ縱令此要約ヲ規則并ニ訴訟法ニ明記セサルモ凡ソ外人ノ故障申述ヲ爲サントスル者ハ其不服トスル判決ノ己レニ損害ヲ被ラスルヿアルヲ必要トス若シ其然ラサル者ハ出訴スルモ遂ニ受理セラレサル可シ千八百二十一年十月二十四日ジュパルク件判決

詔書ニ外人ノ故障申述ヲ爲ス可キ期限ヲ定メサルハ蓋シ此手續ハ始ヨリ行政訴訟ニ關係セサリシ者ノ爲メニ設ケタル者ナルヲ以テ本人ハ曾テ此訴訟ノ起レルヿヲ知ラサル者ト看做セリ故ニ何時ニテモ其故障申述ヲ爲スヲ得ルナリ千八百二十一年三月二十八日ロシュフヲル府件判決

第三十八條　外人ノ故障申述ヲ爲シテ敗訴シタル者ハ百五十「フラン」ノ罰金ヲ科セラル可シ但シ爲メニ一方ノ者ノ訴求ス可キ損害要償ハ此限ニアラス訴訟法第四百九十七條

第三十九條　對理判決ノ申訴ニ關スル第三十四第三十五條ハ外人ノ故障申述ニ通シテ適施ス可シ

罰金○參議院ハ法理上ニ於テ行政及ヒ行政ヨリ生スル行政訴訟ノ最上長官ニ外ナラス而シテ國長ハ特赦ノ權ヲ有スルニ由リ隨テ參議院ノ判決ハ本條ニ定メタル罰金ヲ輕減シ得ルヿ千八百二十一年十月三十一日スクミト件判決

他ノ行政上ノ違犯ニ對スル罰金ニ於ルカ如シ第二百七十一條ヲ看ヨ

損害要償○ド、コルムナン氏著書第一卷第七十九葉ニ云ク凡テノ他ノ場合ニ於ル如ク此場合ニ於テ損害要償ヲ爲ス可キト否ヤトヲ宣告ス可キハ獨リ普通司法裁判所ニ在リ故ニ訴者其人ハ直接ニ參議院ニ這樣ノ訴求ヲ爲スヿヲ止メサル可カラスト抑此說ハマカレル氏カ自著行政裁判原論第一卷第九十一葉第百二十三項ニ於テ之ヲ詳論セシカ吾輩ハ之ヲ誤解ト謂フ可シト思惟ス現ニ第三十八條ノ本文ヲ以テ之ヲ却ケ參議院ノ判決以テ之ヲ否認シタレハナリ千八百二十一年十月三十一日スクミト件判決ヲ看ヨ夫レ第三十八條ノ本文明確ニシテ聊カ疑フ可カラサルハ姑ク措テ論セサルモ若シ始ニ外人ノ故障申述ヲ否却スル所ノ參議院ニシテ之ヨリ生ス可キ損害要償ヲ審理スルカ爲メニ兩造ヲ普通司法裁判所ニ廻致ス可キ義務アリトスルハ實ニ奇異ノ說ト謂ハサルヲ得サル

ナリ蓋シ損害要償ハ詔書ノ規條ヲ犯シテ出訴スル者ノ狂暴ヲ制センカ爲メニ參議院ノ掌握セル裁制力(サンクシナン)タルヿ猶ホ其命スル所ノ罰金ニ於ルコトシ然ルニ其適施ノ權ヲ參議院ニ剝キテ普通裁判所ニ與ヘント欲スルハ抑ヽ何ソヤ

第四十條　行政訴件ニ非サル事件ニ係ル參議院ノ判決ノ爲メニ其權利若クハ其所有權ヲ損害セラレタリト思惟スル者ハ訴狀ヲ皇帝ニ上ル可シ皇帝ハ該件ニ係ル申報ヲ聽クノ後必要トスル時ハ之ヲ參議院ノ某部若クハ某委員ニ廻致ス可シ

本條ニ擧ル申訴ハ純然タル恩惠ノ手續(ボリーグラシューズ)即チ訴手續ナリ即チ參議院ノ某部若クハ某委員ニ廻致シテ調査ニ附スルヿヲ訴求者ニ許スト許サヽルトハ一ニ國長ノ意思如何ニ任スル者ナリ條中「必要トスル時」トアルヲ以テ之ヲ識ル可シ抑ヽ此恩惠ノ手續ヲ定ムルニ至リタルノ理由ハ蓋シ行政訴訟ノ普通程式ヲ以テスル申訴ハ純然タル行政件ノ爲メニ起スヲ得スシテ特ニ之ヲ眞ノ行政訴件ニ限リタルヲ以テナリ夫レ既ニ行政官ニ訴出スル場合ヲ眞ノ行政訴件ニ限リタリト雖モ政府ヨリ發出シタル判決中其眞ノ行政訴件ニ關セスシテ一方ノ損害ヲ生ス可キ者往々ニシテ之アリ此場合ニ當リ規則ハ之ヲ皇帝ニ愬ヘテ參議院ノ某部若クハ爲メニ命シタル委員ノ調査ニ附スルヲ求メ其被ムル所ノ苦情ヲ伸フルヲ得セシメタリ然レトモ此恩惠申訴ノ方法ハ前ニ論シタル行政訴訟ノ手續ト全ク相同シカラス故ニ之ヲ適施スル目的、之ヲ起セル程式、之ヨリ生スル効果ニ至ルマテ皆行政訴訟ト異ナレリ

其權利若クハ其所有權○此語ヲ解シテ法律ニ依リ確認保障セル權利若クハ所有權ヲ損害スル者トス可カラス若シ果シテ法律ニ依テ確保シタル權利ナレハ吾輩カ行政訴件ト純然タル行政件トヲ區別シタル

第二例則第二十ニ頼テ爲メニ行政訴訟ヲ起ス可キナリ故ニ本條ニ謂フ所ハ吾輩カ適法ノ權利ニ對照シテ利益ト名クル者ニ違犯セル場合ニ限ラサル可カラス蓋シ千八百六年ノ規則ヲ編制シタル時ニ當リテヤ現時ノ如ク未タ明白ニ行政法ノ學語ヲ定メス是レ其屢〻當時ノ法令ノ文字ニ極メテ缺典多キ所以ナリ

前ニ論スル所ノ如クナラサルトキハ當ニ普通手續ニ因テ直チニ行政訴訟ヲ起シテ可ナルヘシ何ソ亦第四十條ヲ置クヲ要センヤ（之ト反對ノ意義ニ解説スルジュブール氏著書第二版第二卷第二百三十四項ヲ看ヨ）

行政訴訟ニ非サル事件ニ係ル參議院判決○此語ヲ味ヘハ玆ニ論スル所ノ恩惠ノ申訴手續ト普通ノ行政訴訟手續ト判然タル差異アルヲ知ル蓋シ普通ノ行政訴訟手續ハ其訴フ所ノ目的ヲシテ行政訴件タラシムルヿヲ以テ之ヲ許可受理スルノ要約トセリ然ルニ恩惠ノ申訴手續ハ却テ其行政訴件タラサルヿヲ則トセリ

恩惠ノ申訴ヲ起ス可キハ必ス參議院ヨリ發出シタル判決ニ限レルヤ將タ參議院ノ議決ヲ經サル政府ノ文書ニ對シテ亦之ヲ起スヲ得ルヤ今第四十條ノ本文ニ「參議院判決ノタメ」トアルヲ以テ之ヲ見レハ宜ク必ス本院ヨリ發出シタル文書ニ限ラサルヘカラサルカ如シ現ニドコルムナン氏ハ其著書第一卷第八十一葉ニ於テ此ノ如キノ說ヲ主持シトルヨホー件ニ係ル千八百二十三年二月十九日及ヒブノワー件ニ係ル千八百二十四年五月十二日ノ參議院判決ヲ援テ之ヲ據證セリ然レトモ余ハ却テ第四十條ニ許セル恩惠申訴ヲ此ノ如クニ限縮ス可カラスト明言セントス凡ソ政府ヨリ發出スル文書ハ參議院ノ議決ヲ要スル者ト要セサル者トノ二類ニ分チ其一ハ純然タル行政上ノ文書トシ其二ハ行政訴訟ヲ起ス可キ部類ニ入ル是ニ由リ之ヲ要スル者ハ行政訴訟

ノ程式ニ準シテ訴出シ之ヲ要セサル者ハ恩惠申訴ノ手續ヲ以テ之ヲ愬フルナリ夫レ行政訴訟ノ手續ヲ以テ訴フカ爲メニ其政府文書ノ先ツ參議院ノ議決ヲ經ルヲ必要トセス而ルヲ況ンヤ純然タル行政上ノ文書ニ於テヲヤ恩惠申訴ノ手續ヲ以テ之ヲ皇帝ニ致スヲ得ルカ爲メニ固ヨリ參議院ニ於テ該文書ノ議決ヲ經ルヲ要スルノ理由アラス又第四十條ノ本文ヲ據トスル論辯ハ固ヨリ取ルニ足ラス何トナレハ第一ニ第四十條ノ本文ハ甚タ通明ヲ欠ケリ既ニ我輩カ前ニ指摘シタル缺典ノ外ニ又誤マリテ判決ナル語ヲ本文中ニ掲ケタルアリ蓋シ參議院ハ決シテ自カラ判決ヲ爲スノ權ヲ有スル者ニ非ス（第八十四第三百四十七項ヲ看ヨ）第二ニ此千八百六年ノ規則中ノ他ノ各條ニハ全ク本條ト同ク制限アル意義ニ解ス可カラサル者ト皆認ムル所ノ句アリ今其一例ヲ擧ケンニ第三十七條ハ行政訴件ニ係ル參議院ノ判決ヲ故障セントスル者ノ爲メニ外人ノ故障申述ヲ爲スヲ許セリ抑此行政訴件ニ係ル參議院ノ判決云々ト云ヘルハ特ニ參議院ノ議決ヲ經タル勅詔ニ限リ外人ノ故障申述ヲ爲スヲ得ルトスルニ非サルヿハ人々之ヲ認メテ敢テ異論ヲ挿ムヿナシ果シテ然ラハ第四十條ニ擧ル恩惠申訴ヲ參議院ノ議決ヲ經タル勅詔ニ限ル可カラサルヿ固ヨリ論ナキナリ獨リ第三十七條ニ於テ嚴ニ命シタル要約ハ訴件ノ眞ノ行政訴訟ニ關スルヿ是ナリ隨テ第四十條ニ緊切ナル要約ハ特ニ訴件ノ眞ノ行政訴訟ニ關セサルノ一事ニ在ル可シ然リ而シテド、コルムナン氏カ引證シタル參議院判決ニ於ルヤ之ヲ今余カ論スル所ノ問題ヲ斷定シタル者ナラシメハ其効力極メテ大ナル可ケレトモ奈何ソセン該判決ハ固ト此ノ如キ性質ヲ有セスシテ却テ他ノ問題ヲ斷定シタリ讀者ハ該判決書ヲ閲シテ輙チ之ヲ領會スルヲ得ンノミ夫レ恩惠ノ申訴ハ行政訴件ニ非サル事件ニ就キ

參議院ノ議決ヲ經タル詔勅ニ對シテ起スヲ得ル固ヨリ論ヲ俟タス千八百十六年十二月十一日「デ、リー、ミリテール」件千八百十八年八月二十六日コスト件判決然レトモ特ニ之ヲ此場合ニ限畫ス可キ充分ノ理由ヲ見ス

訴狀○此訴狀ニ參議院代言人ノ署名アルヲ必要トセス蓋所謂恩惠シノ申訴ノ本質乃チ然ルナリ而シテ千八百六年ノ規則第四十條ヲ除キ凡テノ他ノ規條ハ行政訴訟ノ程式ニ準スル訴訟ノ爲メニ定ムル者ナルヲ以テ恩惠申訴手續ニハ曾テ相關係スルヿナシ故ニ該訴狀ヲ出スカ爲メニ一モ特別ナル程式ヲ履ムヲ要セス又何レノ期限ヲモ定メス千八百十七年九月十日コルビノー件判決

申報ニ因リ○此語ヲ置クハ行政訴訟手續ニ循ヒ參議院ニ諮詢判決ス可キ皇帝ニ該訴狀ヲ呈スルヲ得サルヲ示スナリ蓋シ行政訴訟ト恩惠申訴トノ兩訴訟手續ハ互ニ相容レサル者ナリ故ニ行政訴訟ノ手續ヲ以テスル訴ヲ判決スル詔勅ハ則チ參議院ノ議決ニ因テ之ヲ定メ恩惠申訴ヲ判決スル詔勅ハ則チ某ノ宰相ノ申報ニ因ル千八百七年九月十六日法律第五十二條第二節隨テ恩惠ノ申訴ヲ行政訴訟手續ニ由テ起セル者ハ皆受理ス可カラスト宣告セラレタリ千八百三十年五月十二日ウエスト件千八百三十六年二月二十七日ボーヌ件判決若シ或ハ此ノ如キ宣告ヲ爲サヽレハ參議院附屬代言人ヨリ該訴件ヲ規則第四十條ニ因テ設ケタル委員ニ廻致センヿヲ請フヲ怠ラサル可シ必要トスル時○此語アルヲ以テ恩惠申訴ヲ許スト許サヽルトハ皇帝ノ全權ニ屬スルヲ知ル然ラハ則チ委員設置ノ起議ヲ拒ミタル司法宰相ノ判決ハ行政訴訟手續ヲ以テ訴フヲ得サル者ト斷定セサル可カラス千八百二十三年十二月十七日パンレルベルツュ件判決

委員○第四十條ヲ執行スルニ因テ訴狀ヲ廻致セラレタル參議院ノ一部若クハ特別委員ヨリ其意見ヲ奏シ王勅ニ因テ之ヲ判決トナシタル